

## 巻頭言

日本の看護系大学は相変わらず増加の一途をたどっております。本学の開学当初は 84 校でしたが現在は 200 校を超え、本学は早くも古株となろうとしております。しかし、大学の歴史はまだまだ浅く、近年、毎年のように文部科学省等から発表される大学改革の意味を正確に捉えて実行に移すことには多くの課題があります。一方で、前年度の法人化を受けて年度計画による教育・研究・社会貢献の推進や大学運営に取り組むという新しい試みを始めて 2 年目となっています。中期計画期間を残すところ 4 年もありますが、世の中の動きに呼応した取り組みの芽を育てたいという思いも膨らみ始め、計画通りに事を運ぶことの難しさも経験しているところです。

このような課題や難しさも抱えながら、本学は少しでも設置主体の意向を反映した結果が示すことのできるように日々の努力を重ねているところです。この年報には、12 年間という短期間なりの歴史の上に現在の教職員が歩んでいる姿が示されております。

地域連携活動のページにあるように、地域をキャンパスにして学生が学ぶという取り組みは近年追い風状態となっており、本学でも個々の教員によるゼミ活動が顕著になっております。かほく市との包括協定や石川県からの助成金を得た地域連携事業、そして災害地支援などを中心とし、この傾向は次年度にも引き継がれ、正規の看護教育の中にも取り込まれ始める日も近いと思われまます。学生にとってのよい学びとなるこのような機会を作るには、一時的には教職員はエネルギーを必要とします。その後の効果的な学習の基盤になると捉え、しばらく下積みの努力が必要と考えています。このような動きも加わり教員の忙しさは並大抵ではありませんが、平成 24 年度に特任規定を改変し、2 人の特任教員を雇用いたしました。

また、平成 24 年度からは委員会体制の一部を整理統合し、組織だったコミュニケーションが確保されるように編成しなおしました。若い助教や助手が委員長を助けつつ大学運営を経験する体制にもいたしました。ご批判もあると存じますが、少しずつ効果が現われてくれることを願っています。

本学の知を地域に役立てていただくという事業として、地域ケア総合センターでは地域の人材育成事業や国際貢献事業を例年通り行いました。さらに、看護職のキャリアを支援することにも力を入れるべく新たな組織（看護キャリア支援センター(仮称)）を立ち上げる準備も整えた 1 年でした。

最後になりますが、平成 24 年度は大学基準協会の認証評価を受けました。おかげさまで大きな指摘はなく適合認定証をいただきました。

これらのことは平成 24 年度にリニューアルしたホームページに掲載しております。様々なページを充実させましたが、使い勝手の良し悪しのフィードバックを求めているところです。読者の皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> のもアクセスしてみてください。忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 13 回入学式（平成 24 年 4 月 6 日）



オープンキャンパス（平成 24 年 7 月 21 日）



米国ワシントン大学との交流事業 公開講演会  
ワシントン大学看護学部准教授 上月頼子博士をお迎えして（平成 24 年 8 月 31 日）



第 7 回夏季アメリカ看護研修（平成 24 年 8 月 28 日～9 月 6 日）



タイ王国ナコーンシータマラート県  
ボロオンマラートチョンナー看護大学の交流会（平成 24 年 4 月 3 日）



JICA ベトナム青年研修  
（平成 24 年 10 月 25 日～11 月 6 日）



JICA 日系研修  
（平成 24 年 7 月 16 日～8 月 9 日）



被災地ボランティア活動



第10回卒業式（平成25年3月16日）



# 目次

## 巻頭言

1. 学事	3
1.1 平成24年度学事暦	3
1.2 学生の状況	4
1.3 大学組織図	8
1.4 教育・履修体制	10
1.5 オープンキャンパス	11
1.6 懇話会	11
2. 教員・職員紹介	12
2.1 教員紹介	12
2.2 教員組織構成	16
2.3 特任教員紹介	17
2.4 職員紹介	18
3. 委員会活動	19
3.1 教務委員会	19
3.1.1 フィールド実習専門部会	20
3.1.2 看護学実習専門部会	20
3.2 学生委員会	21
3.2.1 学生相談専門部会	22
3.2.2 進路支援専門部会	22
3.3 図書館運営委員会	23
3.3.1 石川看護雑誌編集専門部会	24
3.4 研究推進委員会	25
3.4.1 学内研究助成審査部会	26
3.5 情報システム委員会	27
3.6 地域ケア総合センター推進協議会	27
3.7 地域ケア総合センター運営委員会	27
3.7.1 国際貢献専門部会	29
3.7.2 地域連携・貢献専門部会	29
3.7.3 人材育成専門部会	30
3.8 国際交流委員会	30
3.9 広報委員会	32
3.10 入学試験委員会	32
3.10.1 入試実施部会	33
3.10.2 入試評価部会	34
3.11 FD/自己点検・評価委員会	34
3.11.1 教員評価検討専門部会	35
3.11.2 年報・自己点検評価部会	35
3.11.3 FD/授業評価専門部会	36
3.12 ハラスメント委員会	37
3.13 情報セキュリティ委員会	37
3.14 コンプライアンス委員会	37
3.15 遺伝子組換え実験等安全委員会	38
3.16 大学院教務・学生委員会	38
3.17 倫理委員会	39

3.18	がんプロ企画委員会	39
3.18.1	がんプロ運営委員会	40
3.19	衛生委員会	40
4.	研究活動・社会活動	41
4.1	書籍	41
4.2	学術論文	41
4.3	その他の原稿	45
4.4	学会発表	47
4.5	研究助成	54
4.6	社会活動・地域貢献	57
4.7	その他（受賞等）	69
5.	卒業研究論文題目及び修士・博士論文題目一覧	70
5.1	平成24年度 卒業研究論文題目一覧	70
5.2	平成24年度 修士論文題目一覧	74
6.	石川看護雑誌	75
7.	附属図書館	77
7.1	今年度の主な活動概況	77
7.2	資料整備状況	78
7.3	利用統計	79
7.4	利用者サービス	80
7.5	職員研修	82
8.	附属地域ケア総合センター	83
8.1	人材育成事業	83
8.2	本学教員主催の研究会・事例検討会ならびに子育て支援講座	84
8.3	調査研究事業	86
8.4	国際化促進事業	87
8.5	かほく市との包括的連携	87
8.6	大学施設の開放	88
9.	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	90
10.	国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修	92
11.	ワシントン大学との交流	93
12.	いしかわシティカレッジ	96
13.	地域連携活動	97
13.1	来人喜人里創り創成プロジェクト	97
13.2	棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり	98
13.3	コミュニティ形成を通じた道の駅活性化	98
13.4	世代間交流による「健康なまち」創造の軌跡	98
	編集後記	100



# 1. 学事

## 1.1 平成24年度学事暦

4月 6日 (金)	入学式
4月 9日 (月)	学生健康診断
4月 10日 (火)	ガイダンス
4月11日 (水)	授業開始
4月 6日 (金) ~17日 (火)	前期履修登録受付
5月29日 (火)	開学記念日 (開学記念行事5月28日(月))
7月21日 (土)	オープンキャンパス (高校生を対象とした体験講座)
8月 1日 (水) ~ 8月 9日 (木)	前期補講・試験
8月10日 (金) ~ 9月30日 (日)	夏季休業
9月 9日 (日)	入学試験 (3年次編入学試験)
9月29日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程)
10月 1日 (月)	後期授業開始
9月20日 (土) ~10月 5日 (月)	後期履修登録受付
10月27日 (土) ~10月 28日 (日)	大学祭
11月18日 (日)	入学試験 (推薦入試・社会人入試)
12月25日 (火) ~ 1月 6日 (日)	冬季休業
1月19日 (土) ~20日 (日)	大学入試センター試験
2月 3日 (日)	入学試験 (大学院博士前期課程 (第2次募集) ・博士後期課程)
2月12日 (火) ~ 2月21日 (木)	後期補講・試験
2月25日 (月)	入学試験 (一般入試前期日程)
3月12日 (火)	入学試験 (一般入試後期日程)
3月16日 (土)	卒業式・学位授与式
2月22日 (金) ~ 3月31日 (日)	春季休業

## ・1.2 学生の状況

### 1.2.1 学部学生の入学・在学・卒業の状況

#### (1) 入学の状況

##### ①入学定員・収容定員

単位（人）		
入学定員	3年次編入学定員	収容定員
80	10	340

##### ②試験実施日

実施日	
3年次編入学試験	平成24年 9月 9日（日）
推薦入試・社会人入試	平成24年11月18日（日）
一般入試前期日程試験	平成25年 2月25日（月）
一般入試後期日程試験	平成25年 3月12日（火）

##### ③受験状況等

	単位（人、倍）							
	募集定員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	実質倍率	入学者数
	A	B	B/A	C	C/A	D	C/D	
3年次編入学	10	19	1.9	13	1.3	11	1.2	9 (8)
推薦入試	30	54	1.8	54	1.8	30	1.8	30 (30)
社会人入試	若干名	3	—	3	—	1	3.0	1 (1)
一般入試前期	40	119	3.0	116	2.9	43	2.7	40 (37)
一般入試後期	10	157	15.7	52	5.2	13	4.0	13 (13)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

#### (2) 在学の状況（平成25年3月1日現在）

		単位（人）				
学 年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	4	4	6 (1)	9 (2)	23 (3)
	女性	79	77	83 (6)	94 (8)	333 (14)
	計	83	81	89 (7)	103(10)	356 (17)

( ) の数字は内数であり編入学者の数を示す

(3) 卒業の状況

①卒業生数 第10期生

		入学年度別卒業生数		
区 分	計	平成20年度以前	平成21年度	平成23年度
		入 学 者	入 学 者	編入学者
卒業生数	93 (86)	8(6)	75(72)	10(8)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況 第10期生 (平成25年3月31日現在)

		単位 (人)					
区 分		県 内		県 外		合 計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
就 職	看護師	61	64.9%	13	13.8%	74 (70)	78.7%
	国公立病院(独立 行政法人を含む)	48	51.1%	7	7.4%	55 (52)	58.5%
	私 立 病 院	13	13.8%	※6	6.4%	19 (18)	20.2%
	保健師	3	3.2%	0	0.0%	3 (2)	3.2%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	64	68.1%	13	13.8%	77 (72)	81.9%
進 学	大学院博士前期課程	0	0.0%	※1	1.1%	1 (1)	1.1%
	助産師養成課程	2	2.1%	3	3.2%	5 (5)	5.3%
	養護教諭特別別科	3	3.2%	0	0.0%	3 (3)	3.2%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	5	5.3%	4	4.3%	9 (9)	9.6%
未 定		6	6.4%	2	2.1%	8 (6)	8.5%
合 計		75	79.8%	19	20.2%	94 (87)	100.0%

( ) の数字は内数であり女性の数を示す；割合は、総数94人を100%としたもの

※ 1人の卒業生が県外病院に就職（看護師）し、県外の大学院博士前期課程に進学するため卒業人数と1人合わない。

③主な就職先 第10期生 (平成25年3月31日現在)

県内	県外
金沢大学附属病院	富山大学附属病院
石川県立中央病院	名古屋大学附属病院
金沢市立病院	黒部市民病院
公立松任石川中央病院	小牧市民病院
国立病院機構 金沢医療センター	岐阜厚生連中濃厚生病院
公立能登総合病院	国立国際医療研究センター
小松市民病院	国立病院機構 虎ノ門病院
金沢社会保険病院	慶應義塾大学附属病院
金沢赤十字病院	福井県済生会病院
国立病院機構 医王病院	淀川キリスト教病院
輪島市保健師	
川北町保健師	など

1.2.2 大学院学生の入学・在学・修了の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

課程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	10	20
博士後期課程	3	9

②試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験	平成24年 9月29日 (土)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	平成25年 2月 3日 (日)
博士後期課程入学試験	平成25年 2月 3日 (日)

③受験状況等

課程	単位 (人、倍)							
	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	9	0.9	9	0.9	9	1.0	9 (8)
博士前期課程2次	若干名	1	-	1	-	1	1.0	1 (1)
博士後期課程	3	4	1.3	4	1.3	3	1.3	3 (3)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況 (平成 25 年 3 月 1 日現在)

単位 (人)

課 程	1 年次	2 年次	計
博士前期課程	11 (8)	16 (16)	27 (24)

課 程	1 年次	2 年次	3 年次	計
博士後期課程	2 (2)	3 (2)	3 (3)	8 (7)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

(3) 修了の状況

① 修了者数と修了後の進路状況 (平成25年3月31日現在)

単位 (人)

課 程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程 第 8 期生	13 (13)	医療機関、教育機関

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

② 博士前期課程の修了後の進路状況 第 8 期生 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

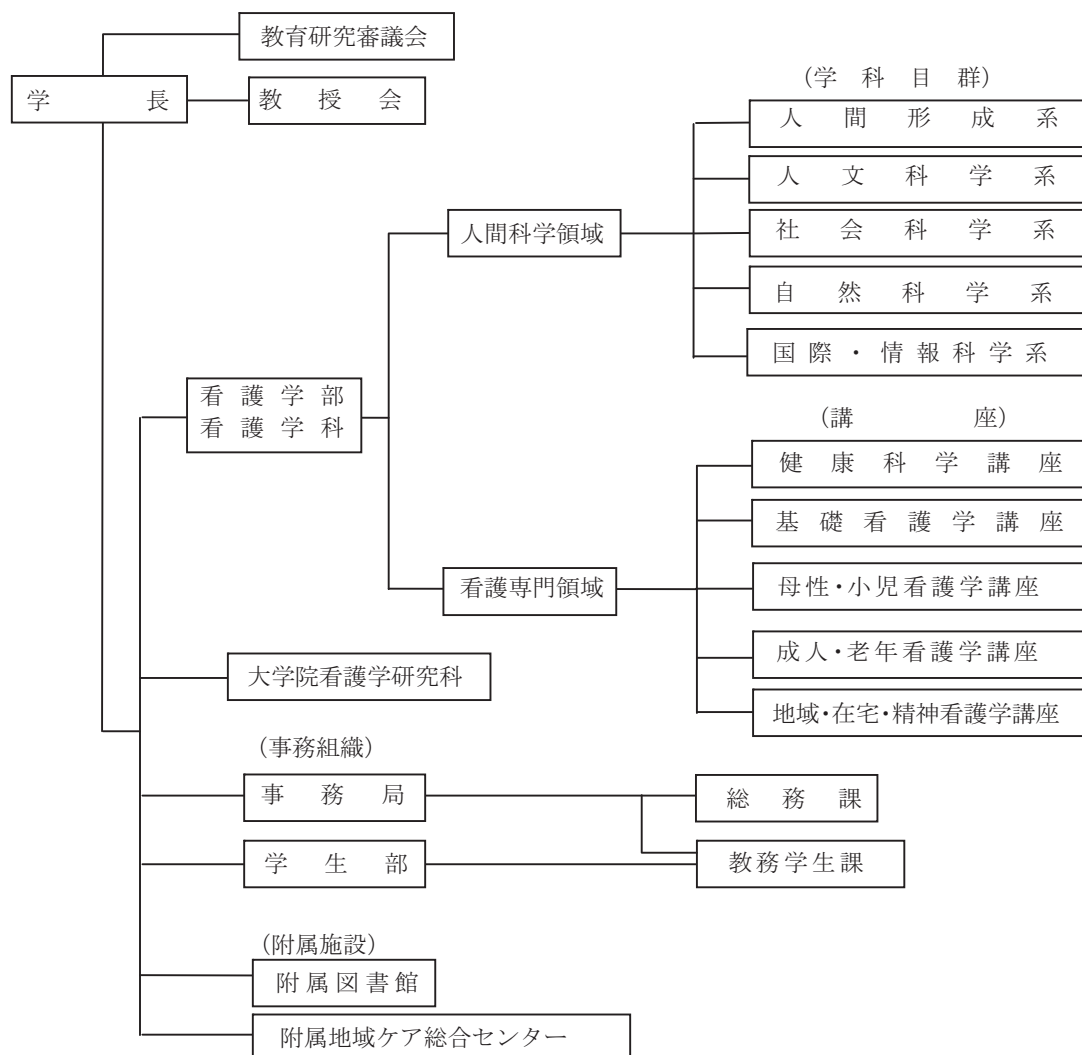
単位 (人)

区 分		県内	県外	合計
		人数	人数	人数
就 職	看護 師	5	3	8
	研 究 員	0	0	0
	教 員	2	2	4
	保 健 師	0	0	0
	計	7	5	12(12)
進 学	大学院博士後期課程	0	0	0
	そ の 他	0	1	1
	計	0	0	0
合 計		7	6	13(13)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

## 1.3 大学組織図

### 1.3.1 大学組織図



### 1.3.2 委員会構成

教務委員会	第3木曜日	13:00～
フィールド実習専門部会	随時	
看護学実習専門部会	第1木曜日	9:00～
学生委員会	第3木曜日	14:40～
学年担任	随時	
学生相談専門部会	第3木曜日	16:00～
進路支援専門部会	第1木曜日(随時)	9:00～
図書館運営委員会	第2木曜日	15:30～
石川看護雑誌編集部会	随時	
研究推進委員会	第4木曜日	13:00～
共同研究審査部会	随時	
情報システム委員会	随時	
地域ケア総合センター推進協議会	年2回程度	
地域ケア総合センター運営委員会	第4木曜日	10:40～
国際貢献専門部会	第1木曜日	14:40～
地域貢献・活動専門部会	第2木曜日	14:40～
人材育成専門部会	第2木曜日	14:40～
国際交流委員会	第1月曜日	10:30～
広報委員会	第2木曜日	前期 9:00～ 後期 10:45～
入学試験委員会	必要に応じて	
入試実施専門部会	必要に応じて	
入試評価専門部会	第3木曜日	9:00～
FD/自己点検・評価委員会	奇数月(随時)	
教員評価検討部会	随時	
年報・自己点検評価専門部会	必要に応じて	
FD/授業評価専門部会	第4火曜日	16:20～
ハラスメント委員会	随時	
情報セキュリティ委員会	随時	
コンプライアンス委員会	随時	
遺伝子組換え実験等安全委員会	必要に応じて	
大学院教務学生委員会	第4火曜日	13:00～
倫理委員会	第4木曜日	14:40～
がんプロ運営企画委員会	第1木曜日(隔月)	15:00～
がんプロ運営委員会	随時	
大学コンソーシアム連絡会議	随時	
衛生委員会	随時	

## 1.4 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群		人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
国際・情報科学系群	英語		国際的な視野から健康や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を教授する。また、高度情報社会に対応できる基礎力と看護情報の統計処理能力を教授する。
	情報科学		
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
老年看護学			
地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。	
	在宅看護学		
	精神看護学		



## 1.5 オープンキャンパス

### オープンキャンパスの概要

平成24年7月21日(土) 10時～14時20分

- 1) 全体説明会(講堂)
  - ・本学の概要説明
  - ・平成25年度入学者募集について
  - ・在学生からのメッセージ
- 2) 個別入試相談
- 3) 学生との交流・展示コーナー設置
- 4) 施設見学と看護学体験
- 5) 看護学実習・フィールド実習・国際交流紹介
- 6) 公開授業

## 1.6 懇話会

### 石川県立看護大学懇話会

- 1) 開催日時 平成25年2月27日(水)
- 2) 開催場所 石川県立看護大学小会議室
- 3) 学外出席者

(10名)

石川県医師会長	近藤 邦夫
石川県看護協会会長	和田出 静子
石川県立中央病院院長	山田 哲司
金沢医科大学病院副院長兼看護部長	高田 昌美
金沢医療センター看護部長	霜 貞子
金沢大学医薬保健研究学域保健学系 看護科学領域看護学専攻主任	長谷川 雅美
石川県婦人団体協議会長	藤多 典子
会議通訳、翻訳者	早川 芳子
石川県保健所長会長	伊川 あけみ
かほく市長	油野 和一郎

学内出席者 学長、研究科長、学生部長、地域ケア総合センター長、  
教育研究審議会委員、事務局長、総務課長、教務学生課長

- 4) 主な内容 (1)看護キャリア支援センター(仮称)について  
(2)地域貢献及び国際貢献について

#### (3)その他

## 2. 教員・職員紹介

### 2.1 教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	准教授	垣花 渉
	人文科学系群	哲 学	教 授	浅見 洋
		心 理 学	教 授	武山 雅志
	自然科学系群	人間工学	教 授	小林 宏光
	国際・情報科学系群	情 報 科 学	教 授	松原 勇
		英 語	講 師	野村 潤
	健康科学講座	機能・病態学	教 授	長谷川 昇
			教 授	今井 美和
			准教授	中田 隆博
		保健・治療学	教 授	多久和 典子
			教 授	大木 秀一
	基礎看護学講座	基礎看護学	教 授	川島 和代
			教 授	丸岡 直子
			講 師	中田 弘子
			講 師	田甫 久美子
			助 教	田村 幸恵
			助 教	木森 佳子
			助 手	三輪 早苗
			助 手	中嶋 知世
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教 授	吉田 和枝
准教授			山岸 映子	
講 師			米田 昌代	
助 教			曾山 小織	
小児看護学		教 授	西村 真実子	
		講 師	堅田 智香子	
		助 教	東 雅代	
		助 教	伊達岡 五月	

研 究 課 題
住民参加型健康教育が心と身体の健康に及ぼす影響
西田哲学の研究、死生学に関する研究、医療倫理に関する研究
新日本版MMPIにおける基礎研究、カウンセラー養成に関する研究、新人看護職者のコミュニケーションスキルに関する研究
心拍変動（HRV）を用いた人間－環境系評価の研究
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究
幼児による構文の情報構造の獲得、学習者による英語の韻律の習得
骨粗鬆症予防・更年期症状緩和に関する緑茶カテキンや抗酸化成分と運動効果の検討、細胞を用いた作用メカニズムに関する研究
子宮頸がんの発がん予防に関する研究
BKチャンネルのスプライシングバリエーションに関する細胞生物学的解析
(1)生理活性脂質メデイエーターの生理学・病態生理学的意義の解明 (2)現代のメディカルプロフェッショナル育成：新しい教育メソッドの構築 (3)疾患の病態生理に立脚した生活習慣病の予防指導、分子と細胞の機能理解の看護学への応用
ライフコース行動遺伝疫学研究、多胎児に関する包括的な研究、当事者参加型の地域実践研究（Self-help groupとCommunity-based Participatory Research）
看護理論の実践における検証（優れた実践の理論的検証）、看護技術の開発と実践への適用に関する研究
退院支援・退院調整に関する研究、看護師の看護実践能力形成に関する研究、転倒リスクマネジメントに関する研究
微酸性電解水を用いた清潔ケアに関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
若年男性労働者の体重増加に関する研究 労働者の健康習慣に関する研究
基礎看護教育に関する研究
看護技術に関する基礎研究と開発、創傷アセスメント・リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の技術についての研究
基礎看護教育に関する研究 在宅終末期ケアに関する研究
プライマリ・ヘルスケアに関する研究、生活習慣病の発生や予防に関する研究
女性のライフサイクル各期の健康問題とその看護に関する研究、産痛の受容と回避に関する研究、生殖に関する生命倫理の研究、
母乳哺育に関する研究、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する研究、地域における子育て支援に関する研究、国際保健に関する研究
流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族への援助に関する研究、 周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
周産期のケアに関する研究、妊婦のセルフケア促進に関する研究、子育て支援に関する研究
育児不安・育児困難・虐待に悩む母親の援助に関する研究、子育て支援に関する研究
育児不安や育児困難に悩む母親への援助に関する研究、痛みを伴う処置を受ける子どもの反応に関する研究
育児困難を抱える母親への支援に関する研究、子供へのデスエデュケーションに関する研究
子育て支援に関する研究、妊娠期からの子育て支援に関する研究、思春期からの親準備教育に関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
看護専門領域	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野 智恵
			教授	村井 嘉子
			准教授	北山 幸枝
			講師	岩城 直子
			助教	加藤 亜妃子
			助教	木村 久恵
			助教	中田 由紀子
			助手	寺井 梨恵子
		老年看護学	教授	高山 成子
			講師	中道 淳子
			助教	油野 聖子
			助手	川端 祥子
			助手	落合 庸子
			助教	石垣 和子
	地域看護学講座	地域看護学	准教授	阿部 智恵子
			准教授	塚田 久恵
			准教授	織田 初江
			助教	曾根 志穂
			助手	金子 紀子
			教授	林 一美
講師			彦 聖美	
助教			子吉 知恵美	
助手			井上 智可	
在宅看護学			准教授	谷本 千恵
		講師	川村 みどり	
		助教	大江 真吾	
		助手	相川 竜子	
		精神看護学	准教授	谷本 千恵
			講師	川村 みどり

研 究 課 題
がん患者の「生きる意味」への支援、ロゴセラピーと看護、乳がん患者とその子供への支援プログラムの開発
救急初療看護における合意形成をめざした対話的行為に関する研究、救急初療看護におけるコミュニケーション教育に関する研究
創傷の管理および看護技術に関する研究、 栄養不良状態下における創傷発生時皮膚の組織学的検討
内視鏡看護の基礎的研究、看護師の社会的スキルに関する研究、がん患者の心理的ケアに関する研究、在宅緩和ケアに関する研究
がん患者の家族ケアに関する研究、在宅緩和ケアに関する研究、がん患者への心理的ケアに関する研究
がん看護に関する研究、看護技術教育に関する研究
高齢者の退院支援に関する研究
転倒リスクアセスメントに関する研究
認知症高齢者の生活行動への看護方法の研究 治療が必要な疾患を有する認知症高齢者の看護（がん、大腿骨頸部骨折、慢性心不全など）
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究
高齢糖尿病患者のセルフケア行動の実態と支援プログラムの構築に関する研究、認知症高齢者ケアに関する研究
認知症高齢者ケアに関する研究
認知症高齢者ケアに関する研究
僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究、保健師活動に関する研究
地域で生活している対象への生活支援に関する研究
生活習慣病対策に関する評価研究、保健師の現任教育に関する研究、介護予防に関する研究
①地域看護・公衆衛生看護、保健指導能力の育成に関する研究 ②行動変容、健康づくり、地域ケアシステム、保健事業の評価に関する研究
乳幼児をもつ母親の育児支援に関する研究、高齢者の生活機能維持に関する研究
地域ケアのあり方に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
在宅療養支援に関する当事者参加型の地域実践研究、健康増進と疾病予防をライフコースの観点から捉えた研究
発達障害児とその保護者の受容状況に応じた保健師による援助方法、重症心身障害児のレスパイトに関わる看護師の介護者への支援に関する研究
訪問看護に関する研究、家族看護に関する研究
セルフヘルプ・グループ支援に関する研究、過疎地域のメンタルヘルスに関する研究
精神科看護の教育に関する研究、精神科看護に関する研究
広汎性発達障害患者・患児への支援に関する研究
精神科看護に関する研究、摂食障害の家族支援について、精神科看護の教育に関する研究

## 2.2 教員組織構成（平成25年3月現在）

### 2.2.1 所属領域・講座と職位構成

単位（人）

領域	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学		6(0)	6(0)	4	1	1		
看護専門	健康科学	5(2)	5(2)	4	1			
	基礎看護学	8(8)	6(6)	2		2	2	2(2)
	母性・小児看護学	8(8)	8(8)	2	1	2	3	
	成人・老年看護学	13(13)	10(10)	3	1	2	4	3(3)
	地域・在宅・精神看護学	14(13)	11(10)	2	4	2	3	3(2)
	計	54(44)	46(36)	17	8	9	12	8(8)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

### 2.2.2 職位別年齢構成

単位（人）

職位	計	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢
教授	17(11)			2	11	4	56.4歳
准教授	8(6)			4	3	1	50.5歳
講師	9(8)		1	5	3		46.7歳
助教	12(11)		8	4			38.4歳
教員	46(37)		9	15	17	5	48.8歳
助手	8(8)	1	6	1			34.6歳
計	54(44)	1	15	16	17	5	46.3歳

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

### 2.2.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位（人）

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	22(17)	13(13)	7(4)
博後期士課程	15(15)	9(9)	6(6)

（ ）の数字は内数であり教授の数を示す

## 2.2.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	40代	50代	60代	平均年齢
教授	17 (11)	2	11	4	56.4歳
准教授	5 (3)	3	2		48.0歳
計	22 (14)	5	13	4	54.5歳

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

## 2.2.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	40代	50代	60代	平均年齢
教授	15 (11)	3	8	4	56.6歳

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

## 2.3 特任教員紹介

職位	氏名	担当	任期
特任講師	鈴木 祐恵	附属地域ケア総合センター	平成24年9月1日～ 平成25年3月31日
特任助教	谷 優美子	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	平成24年6月1日～ 平成24年12月31日

## 2.4 職員紹介

事務局 長	中村 義孝
-------	-------

### <総務課>

総務課 長	前 治 雄
主幹兼管理係長	入 道 勝 行
専 門 員	清 水 純 子
主 任 主 事	山 崎 正 志
主 事	森 友 香
技 師	松 原 安 文
非常勤嘱託	山 口 礼
事 務 員	青 山 恵
事 務 員	岩 崎 美智代
事 務 員	気 谷 由 香

### <教務学生課>

教務学生課 長	青 山 正 三
主 幹	吉 野 京 子
主 事	高 平 裕 介
非常勤嘱託	室 谷 真 美
事 務 員	井ノ山 寿美
事 務 員	山 岸 智 子

### <附属地域ケア総合センター>

センター 長	(兼)川島 和代
専 門 員	砂 山 美 和
コーディネーター	南 美 智 子
コーディネーター	竹 森 結 花

### <附属図書館>

館 長	(兼)丸岡 直子
専 門 員	山 本 晃 暢
非常勤嘱託(司書)	林 春 美
非常勤嘱託(司書)	田 中 智 子



## 3. 委員会活動

---

### 3.1 教務委員会

委員長：西村真実子 教授

委員：多久和教授、垣花准教授、阿部准教授、谷本准教授、中田弘子講師、米田講師、岩城講師、中道講師→油野助教、彦講師、青山教務学生課長

事務局：吉野主幹

開催頻度：定例会議（原則第3木曜日）計12回（うち臨時教務委員会1回を含む）

活動内容：

教務に関する以下の事項の審議を行った。

1. 成績判定および先修要件・卒業要件の判定
2. 既習得単位の認定
3. 随時試験・定期試験時間割・試験監督の決定、平成25年度の時間割作成
4. 非常勤講師等の任用
5. 新カリキュラム(2012年度改正保健師教育課程)への移行期における単位の読み替え
6. 卒業時までの個別履修計画表(教務学生課作成)による学生の履修指導(休学者、卒業延期になった者、不合格科目が多い者等)を学生部長と連携して行った。
7. 地域看護学実習事前学習にかかる時間割充当に関する事
8. 基礎看護学実習Ⅱにかかる時間割充当に関する事
9. 石川コンソーシアムのシティカレッジへの科目の提供(2科目)および本学学生の受講科目の成績の確認
10. 中期計画の関する課題
  - 1) Human Health Care 科目等の検討(次年度へ継続審議)
  - 2) 英語の自学実習に関する学生への調査の実施・結果のまとめ
  - 3) 「看護学実習における再履修の申し合わせ事項」見直し(次年度へ継続審議)
  - 4) 多重課題演習およびスキルラボの活用の状況調査の実施と結果のまとめ、およびスキルラボの活用促進のための便覧記載事項の作成
  - 5) 卒業研究成果公表の現状調査の実施・結果のまとめ、および今後の蓄積システム
  - 6) 卒業研究運営に関する教員向け調査(学生の配属講座・領域の決定方法、教員一人当たりの受け持ち学生数、学生の希望調査および学生の希望が少ない領域・講座に対する対応、講座内の指導体制、講座内の指導体制、研究の進め方、研究方法論と卒業研究との関連、発表会等)実施と結果のまとめ(3年次後期2月にオリエンテーション実施することになった)
  - 7) 卒業研究における受け持ち学生数決定に関する事
  - 8) シラバス様式の改善(関連科目欄を追加することになった)
11. フィールド実習部会に関する事
12. 看護学実習部会に関する事

### 3.1.1 フィールド実習専門部会

部会長：垣花 渉 准教授

部会員：大木教授、川村講師、川端助手、曾山助手、三輪助手

開催頻度：随時

活動内容：

フィールド実習に関する専門的事項の審議及び実習の円滑な運営を図った。

1. 平成24年度フィールド実習要項の作成
2. 平成24年度フィールド実習オリエンテーションの実施（学生用・教員用）
3. 学生の実習計画案に基づく調整、担当関連一覧表の作成
4. フィールド実習中間報告会を学生主体で行うための事前準備等支援
5. フィールド実習報告会を学生主体で行うための事前準備等支援
6. フィールド実習のFD授業評価の実施、集約及び報告
7. フィールド実習の授業評価（学生用）の実施、集約及び報告
8. フィールド実習担当教員へのアンケート調査の実施、集約及び報告
9. フィールド実習を通じた社会人基礎力の成長の評価の実施、集約及び報告
10. フィールド実習自己評価票（学生用）の集約
11. フィールド実習施設に関する情報ファイルの作成
12. フィールド実習報告集（平成24年度）の作成
13. 平成24年度フィールド実習体制の反省
14. 平成25年度フィールド実習要項の検討及び改訂

### 3.1.2 看護学実習専門部会

部会長：谷本千恵 准教授

部会員：田村助教、曾山助教、伊達岡助教（→堅田講師）、加藤助教、落合助手、金子助手、  
子吉助教（→彦講師）

開催頻度：定例月1回（原則第1木曜日、必要時メール会議、IV段階実習中は不定期開催）

活動内容：

各看護学実習を円滑に遂行するために共通する専門的事項の審議および実施

1. 新年度ガイダンスにおける各学年への実習オリエンテーションの実施
2. 実習施設との連絡・調整（新年度あいさつ、駐車場・更衣室等使用にかかる調整・手続き、教員研修依頼取りまとめ、実習指導者連絡会議への参加等）
3. 第IV段階実習の事前準備（平成24年度実習要項の編集、ローテーションおよび学生配置表の作成）
4. 第IV段階実習全体オリエンテーションの事前準備・運営
5. 学生の実習状況に関する情報交換および要支援学生に対する支援方法の検討
6. インフルエンザ等の感染症流行に関わる予防対策および情報交換
7. 看護学実習における学生・教員及び患者・入所者・医療等従事者の感染防止を目的とした個人情報にかかる取扱い要綱の見直し・改定

8. リスクマネジメントマニュアル及びコンサルテーションシステムの見直し
9. 看護学実習中のヒヤリ・ハット記録の集計と分析
10. 実習記録の学生への返却
11. 実習部会備品の補充・管理
12. 同意書、誓約書等の保管・管理
13. 「臨地実習における看護技術の修得状況（縦断的技術経験調査）」の集計および今後の活用方法についての検討
14. ユニフォームに関する業者との調整および学生への提供支援
15. 平成 25 年度臨地実習スケジュールの策定

## 3.2 学生委員会

委員長：浅見 洋 教授（学生部長）

委員：牧野教授、今井教授、織田准教授、北山准教授、垣花准教授、川村講師、野村講師、  
 堅田講師、田甫講師、田村助教、青山教務学生課長

事務局：井ノ山事務員

開催頻度：定例月 1 回（原則 第 3 木曜日）

活動内容：

1. 学生委員会の開催(12回)、臨時学生委員会 1 回

審議事項および実施事項：

- ・ 平成 24 年度新入生ガイダンス・学生ガイダンスの準備
- ・ 平成 24 年度新入生ガイダンス・学生ガイダンスの実施
- ・ 平成 24 年度新入生ガイダンスの準備
- ・ オープンキャンパス協力
- ・ 学生セミナー開催の支援（2 回/年）
- ・ 自治会活動及びサークル活動の支援
- ・ 後援会助成金申請および実施報告に関する学生への周知
- ・ 大学祭実施の支援
- ・ 同窓会総会開催の支援と同窓会事業にて在学生支援を共催
- ・ クラスアワー開催の支援  
 修学困難、病気等の学生の把握と対応（必要時担任との連携）
- ・ 学生便覧の改訂と作成  
 実習活動費助成（教育後援会）の基準等、内容の改変
- ・ 学内緊急連絡メール活用
- ・ 学生サークルの問題点整理
- ・ 被災地学生ボランティア活動の実施
- ・ 学生の動向把握と休学者との面接

2. 学生の健康支援

- ・ 定期健康診断および健康指導（保健室担当）の援助  
 B 型肝炎ワクチンの接種を指導

- ・ 罹病学生の把握と保健指導
- ・ 学生相談専門部会との情報交換

### 3. 学生の進路支援

- ・ 国試対策・進路アドバイザー部会との情報交換  
就職・進学等の状況把握

#### 3.2.1 学生相談専門部会

部会長：浅見 洋 教授（学生部長）

部会員：武山教授、谷本准教授、井上助手、室谷保健室担当、青山教務学生課長

開催頻度：定例月1回

活動内容：

1. 学生相談部会の開催（6回）
2. 学生相談、およびカウンセリングの実施
3. カウンセラーの浅見教授、武山教授、谷本准教授、井上助手、室谷保健室担当が主に対応
4. こころの健康調査（MMPI）の実施及びフィードバック
5. こころの健康調査（2）の実施  
ー入学への積極性、入学に際しての不安ー
6. 修学困難、病気等の学生の把握と対応
7. 復学および休学意思の確認  
休学・退学者との面談と指導
8. 学生の健康支援  
定期健康診断および健康指導（室谷保健室担当）

#### 3.2.2 進路支援専門部会

部会長：牧野智恵 教授

部会員：山岸准教授、塚田准教授、北山准教授、田甫講師

開催頻度：部会開催7回（不定期）、メール連絡・打合せ5回

活動内容：

施設及び企業からの求人・アンケート対応、及び学生への進路相談および看護師・保健師国家資格取得支援活動

1. 学生の進路支援
  - 1) 学生の進路相談・面接の実施および生活指導
  - 2) 進学者（養護教諭）受験対策としての小論文添削指導
  - 3) 採用試験に向けての履歴書作成支援
  - 4) 就職内定・進学状況の把握、および大学への報告
  - 5) 3年次生への国家試験および保健師採用試験準備の支援
  - 6) 病院見学および就職・進学試験情報の学生への周知
  - 7) 進路情報コーナーの整備
  - 8) 就職情報交換会に出席
2. 看護師・保健師国家資格取得支援

- 1) 国試模試受験に対する教室確保・環境整備
- 2) 業者模擬試験に関わる支援、問題の受領と担当学生への引渡、模試結果の返却と学習指導
- 3) 業者による国家試験対策無料ガイダンス実施に対する支援
- 4) 成績不良者への生活・学習指導
- 5) 学内の補習講義の企画・実施に対する支援
- 6) 国家試験対策勉強合宿（課外活動）の企画・実施に対する支援
- 7) 国試受験激励会開催
- 8) 国試受験日の交通手段確保支援および当日の学生状況把握
- 9) 国家試験結果の確認および結果後のフォロー
- 10) 第98回保健師、第101回看護師国家試験問題の教員への開示
3. 国家試験受験手続き（願書記入、受験票配布）および免許申請に対する指導
4. 施設および企業への対応
  - 1) 求人募集施設・関係者との面談および情報収集
  - 2) 進路就職調査への対応
  - 3) 臨時・嘱託職員募集に対する対応
5. 次年度進路の手引きの改訂

### 3.3 図書館運営委員会

委員長：丸岡 直子 教授（附属図書館長）

委員：丸岡教授、松原教授、中田准教授、堅田講師、中道講師、彦講師、前総務課長

事務局：山本主幹

開催頻度：定例月1回（第2木曜日） 計6回開催

活動内容：

1. 図書館システム更新
  - ・新しい図書館システムの業者選定のため、平成24年9月10日、法人本部において「石川県公立大学法人図書館情報システム企画審査委員会」が行われ、京セラ丸善株式会社「CARIN-i」に決まったことを受けて、導入スケジュール等について検討し、平成25年3月4日、新システムによる図書館業務を開始した。
2. 図書整備状況
  - ・4月、10月に教職員の推薦による図書858冊、視聴覚資料27点を選定し、整理した。
2. 図書館の中期目標・中期計画
  - ・「図書整備計画」に沿って計画的に図書・視聴覚資料を整備することについて検討。
  - ・電子ジャーナル、データベース環境の確保について検討。
  - ・マルチメディアコーナーの設備更新の検討。
3. カラーコピー機の導入
  - ・2台あったコピー機の1台が故障したのを機会に、カラーコピー機を導入した。
4. 学生からの希望図書申込み
  - ・学生から先輩、後輩に勧めたい図書を募集し、55冊の希望図書を購入し整備した。

5. 図書館利用に関する学生アンケートの実施
  - ・図書館のサービス向上、運営改善のためアンケートを実施した。その内容を検討した結果
    - ① 土曜日の開館時間を午後1時～午後5時開館を  
午前10時～午後6時まで開館することに決定した。
    - ② 学部学生の図書貸出冊数、5冊を  
10冊とし、いずれも平成25年度4月から本格的に実施することとした。
6. 平成24年度図書館利用者統計の見直し
  - ・一般来館者の利用統計の内、入館者数について正確な数字が取れないので、利用統計の項目から削除することとした。
7. 平成25年度附属図書館行事・企画(案)
  - ・「学生希望図書展」、「教職員推薦図書展」等の展示の他に、企画展示「災害看護展」、「日本のナイチンゲール展」を実施することとした。

### 3.3.1 石川看護雑誌編集専門部会

部会長：多久和 典子 教授

委員：松原教授、丸岡教授、山岸准教授、織田准教授、北山准教授、木村助教、油野助教

事務局：山本主幹

開催頻度：随時

活動内容：

1. 従来、石川看護雑誌の編集・発行は研究推進委員会の担当業務であったが、本年度より、石川看護雑誌編集専門部会として独立した部会が新設され、図書館運営委員会の下部組織として活動することになった。
2. 石川看護雑誌第9巻を本学大学院生に配布して石川看護雑誌の存在を周知し、研究への動機づけの一助とした。また、学部生に対しても、希望者に配布を行い、卒業研究への動機づけの一助とした。
3. 発行規定を改訂した。  
上述1.の部会新設に伴い、発行規定の改定を行った。
4. 投稿規定を改訂した。  
以下の改訂を行った。
  - 1) 「執筆要領」から「投稿規定」に名称を変更した。
  - 2) 筆頭著者・責任著者を明記することとした。これは、著者による査読者への回答と論文修正がより適切に円滑に行われること、また、論文の完成度をさらに上げることを目的としている。
  - 3) 筆頭著者が複数名の場合は、これについても明記することとした。
  - 4) 著者の所属は、研究を実施した時の所属を記載し、異動があれば、現在の所属について別に明記することとした。
  - 5) 利益相反について記載する項目を本文の最後に設けた。かねてより、国際学術誌においては、研究の公正性・透明性を明示するため、論文公表に際しては利益相反状態について開示することを義務付けており、国内においてもこの趨勢となっていることに従った。
  - 6) そのほか、論文記述様式についての説明がより具体的に分かりやすいものとなるよう努め

た。

5. 査読結果の記入用紙、査読者への回答用紙を改訂した。
6. 石川看護雑誌第10巻を平成25年3月に発行した。
7. 部局新設に伴い、石川看護雑誌第10巻の奥付けの記述を下記に改訂した。

編集：石川県立看護大学 図書館運営委員会 石川看護雑誌編集専門部会

Edited by Editorial Department of the Ishikawa Journal of Nursing, the Committee for Library Operation, Ishikawa Prefectural Nursing University

### 3.4 研究推進委員会

委員長：丸岡 直子 教授（附属図書館長）

委員：長谷川教授、松原教授、阿部准教授、岩城教授、堅田講師

事務局：山本主幹

開催頻度：定例月1回（第4木曜日）の予定11回開催

活動内容：

#### 1. 学内研究助成の募集と決定

- 1) 前年度に作成した募集要項により、研究助成（大型研究、一般研究、海外研究発表）の募集を行い、学内研究助成審査部会の審査結果をうけて委員会で採択案を決定した。その採択案を教育研究審議会での審議を付託した。今年度は募集を3回行った。

\*平成24年度の学内助成による研究

研究代表者	課 題 名
塚 田 久 恵	高齢者の要介護状態となる原因疾患と要介護認定に関連する要因についての実態調査
彦 聖 美	就労男性の家族介護に関する意識や準備に関する予備的な実態調査
大 木 秀 一	多胎児（ふたご）の妊娠期・出生後初期の各種要因が18歳までの成長と発達に与える影響の総合的分析
野 村 潤	日本語児による項の情報量と言語的マーキングの関連の獲得に関する予備研究
子 吉 知 恵 美	発達障害児の早期支援・支援継続への保健師の援助方法の実証的研究
中 田 隆 博	同種由来の抗体を用いた免疫多重染色法の開発
武 山 雅 志	看護学生へのコミュニケーション教育プログラムの開発 －臨地実習におけるコミュニケーション問題場面の特定－
垣 花 渉	メタボ予備軍の健康改善を目指した大学－地域連携の実践研究
長谷川 昇	オーダーメイド健康増進プロモーションシステムの構築
高 山 成 子	認知症高齢者の疼痛評価としての唾液アミラーゼの有効性 ー一般高齢者と認知症高齢者の大腿骨転子部骨折術後疼痛評価を通してー
村 井 嘉 子	石川県立看護大学学部卒業生の動向調査
多久和 典子	看護系大学における効果的な放射線基礎教育プログラムの開発
石 垣 和 子	半島地域看護の創出に関する研究

曾根 志穂	災害ボランティア活動が看護学生の自己イメージと社会人基礎力に及ぼす影響
西村 真実子	母の自己効力感を高めるペアレンティング・プログラム第3版の開発：育児不安や困難に悩む母を対象とした「親育ち子育てを考える会」の評価

2) 平成24年度学内研究助成課題のホームページ掲載

3) 平成25年度学内研究助成募集要項の作成と募集

研究助成申請を促進するために、研究助成の趣旨の一部変更（番号の入れ替え）と研究費の種別と限度額の変更を行った。具体的には、大型研究（450万円まで）：1課題を研究A（350万円まで）：2件、研究B（100万円まで）：研究助成費内で可及的に、と変更した。

平成25年度の募集は、平成24年12月28日～平成25年2月28日に行い、研究A：2件、研究B：9件、海外研究発表旅費：1件の応募があり、審査を実施した。

## 2. 研究フォーラム（学内学術集会）の開催

### 1) 研究フォーラム

開催日時：平成24年10月10日（水）16:20～18:00 参加者：26名

場所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

研究フォーラムのテーマおよび講師：

「周産期のグリーンケアに関する研究」 米田昌代講師（母性看護学）

「根拠に基づいた男性介護者支援に関する研究」 彦聖美講師（在宅看護学）

### 2) 研究サポート集会を実施した。

既に科研費を獲得している研究者が、科研費を獲得するために必要な準備等を若手研究者に向けて解説すると共に、科研費助成金申請の手続きについて周知した。今年度は2回開催した。

対象者：教員

開催日時：1回目；平成24年7月31日（火）16:00～17:00 参加者：28名

2回目；平成24年9月20日（木）16:00～17:00 参加者：24名

場所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

内容および講師：

1回目：科研費申請上の留意事項 長谷川昇教授

科研費新生児のここに注意を 織田初江准教授

挑戦的萌芽研究申請時の留意点 北山幸枝准教授

2回目：科研申請の事務手続き等 入道勝行主幹

科研費申請にあたって 東雅代助教

工夫したこと2つ、3つ 阿部智恵子准教授

### 3.4.1 学内研究助成審査部会

部会長：丸岡 直子 教授（附属図書館長）

委員：浅見教授、小林教授、今井教授、高山教授、西村教授、林教授、



山岸准教授、織田准教授、北山准教授

開催頻度：5回開催

活動内容：

1. 平成24年度学内研究助成申請の審査を行い、採択案を決定した。研究推進委員会に採択案の審議を付託した。
2. 平成25年度学内研究助成（1次募集）申請の審査を行い、採択案を決定した。研究推進委員会に採択案の審議を付託した。

### 3.5 情報システム委員会

委員長：小林宏光 教授

委員：中田准教授、木森助教、伊達岡助教、大江助教、寺井助手、入道主幹

開催頻度：随時

活動内容：

本委員会は本学情報システムの管理・運営を担当している。また、毎月1回、県立大学と合同で情報システム管理に関する会議があり、委員長および事務局担当者が参加している。本年度は情報システムの大幅な更新があり、このための検討・調整などを行った。

### 3.6 地域ケア総合センター推進協議会

委員長：石垣 和子 教授（学長）

委員：中村事務局長、川島教授（附属地域ケア総合センター長）、長谷川教授、西村教授、村井教授、垣花准教授、塚田准教授、菊池修一（県健康福祉部次長・外部委員）、立浦紀代子（羽咋市社会福祉協議会会長・外部委員）、種本博（石川県かほく農業協同組合代表専務理事・外部委員）、野口美和子（沖縄県立看護大学元学長、外部委員）、山田雅子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター長・外部委員）、吉田忠司（吉田司株式会社代表取締役社長・外部委員）

開催頻度：年1～2回 平成24年度は1回開催

活動内容：平成24年度創設された委員会であり、まず委員メンバーの委嘱を行った。

11月21日に第1回委員会を開催し、外部委員に対する本センターの紹介のあと、意見交換を行った。

### 3.7 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：川島 和代（附属地域ケア総合センター長）

委員：松原教授、長谷川教授、吉田教授、牧野教授、林教授、青山教務学生課長

事務局：砂山専門員

オブザーバー：鈴木特任講師

開催頻度：月1回（原則、第4木曜日） 計10回開催

活動内容：

## 1. 平成24年度地域ケア総合センター関連委員会・専門部会の活動概要

- 1) 平成24年度地域ケア総合センターの運営体制を大きく変更した。全体の統括を「地域ケア総合センター運営委員会」が行いつつ、3専門部会（①人材育成専門部会、②地域連携・貢献専門部会、③国際貢献専門部会）を設置して具体的な事業計画の立案・実施を担う体制を敷いた。また、センター事業の企画に外部委員の意見を反映させ、事業評価を頂くために地域ケア総合センター推進協議会を設置した。
- 2) センター運営委員会ならびに各部会は1～2ヶ月に1回委員会ないしは部会を開催し、事業の実施・評価を行ってきた。
- 3) 9月からセンター特任講師を配置し、全国の看護系大学におけるセンター機能等に関する調査研究ならびに各事業の運営に従事していただいた。
- 4) 平成24年度の調査研究事業の報告会は、研究推進委員会の学内研究推進委員会とともに行うこととした。
- 5) 地域ケア総合センター推進協議会に、外部委員6名に委嘱状を交付した。
- 6) かほく市との包括的連携協定に関する協議会にはセンター推進協議会の学内委員が担当することとした。
- 7) 大学のワンストップサービスの一環として企業からの相談（共同研究、商品開発等）を受け入れることとした。

## 2. 運営委員会の活動

各専門部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握し、提示された課題について検討を行った。課題として、センター事業への予算配分、大学公開フォーラムの準備、外部の委託事業の受入れに関する方針、平成25年度事業の内容等について俎上に上り、検討を行った。

## 3. 地域ケア総合センターの今後の方向性の検討

今後の本学の地域ケア総合センターの方向性の検討素材を得るために特任教員に全国の看護系大学・学部の持つセンター機能に関して調査を実施してもらった。全国206校の看護系大学・学部のうち、77校（37.4%）がセンター等の附属施設を有していた。本学と同様、大学の知の還元として公開講座の開催が53校（67.5%）を占めている。次いで、地域ケアの実践が多く43校（55.8%）、臨床の研究指導35校（45.5%）であった。看護師のキャリアアップを目指した「認定看護師教育課程」を持っていたり、「がんプロフェッショナル養成」を行っていたりする大学・学部も3割以上を占めていた。本学の附属センターは看護専門職のキャリアアップ支援と地域住民等への大学教員の知の還元としての地域貢献型の事業展開が求められていると推察できた。

## 4. その他の取り組み事業

### 1) 調査研究事業の継続

調査研究事業に関して継続の4課題に関しては、研究計画書を提出していただき予算を充当し、研究継続を支援した。

### 2) かほく市との包括的連携協定にもとづく事業について

本学から7事業とかほく市から11事業と提案され、双方から事業提案を行い窓口担当者が事業の検討を行いながら、実施した。

- 3) 「石川県における訪問看護推進の方略探索に関する調査研究」の実施  
学長裁量経費により上記研究事業に研究費が充当され、センター長以下研究チームを立ち上げ、実施した。

### 3.7.1 国際貢献専門部会

部会長：川島 和代（附属地域ケア総合センター長）

部会員：山岸准教授、谷本准教授、野村講師、中道講師、彦講師

事務局：砂山専門員

オブザーバー：鈴木特任講師

開催頻度：隔月1回（原則第1木曜日） 計7回開催

活動内容：

JICA 北陸の委託研修事業の実施ならびに国際交流委員会等が実施する公開講演会の開催支援を行った。

1. 日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成コース」の実施

研修期間：平成24年6月26日～9月8日

研修員数：4名（パラグアイ3名、ブラジル1名）

研修場所：石川県立看護大学、羽咋市社会福祉協議会 他

2. 青年研修「母子保健実施管理コース」の実施

研修期間：平成24年10月25日～11月6日

研修員：13名（ベトナム）、医師、助産師、看護師、その他

研修場所：石川県立看護大学、かほく市、石川県立中央病院 他

3. 公開講演会 ワシントン大学上月頼子博士の公開講演会開催のPR等の支援の実施

### 3.7.2 地域連携・貢献専門部会

部会長：長谷川教授

部会員：吉田教授、垣花准教授、織田准教授、北山准教授、曾根助教

事務局：砂山専門員

オブザーバー：鈴木特任講師

開催頻度：月1回（原則第2木曜日） 計9回開催

活動内容：

地域連携事業（来人喜人里創り創生事業、かほく市発ヘルスプロモーション）は外部資金等によりすでに動いているためそれぞれの地域連携事業ですすめた。生涯学習講座の平成24年度大学公開フォーラムは「かほく市発ヘルスプロモーション-食と運動を通じた地域づくり-」事業を主軸に企画・運営を担った。

1. 12月1日に開催した公開フォーラム「かほく市発ヘルスプロモーション-健康になれるまちをめざして-」を企画・準備し、実施した。参加者はかほく市民をはじめとした350名余りであった。株式会社タニタの講師による講演、ならびにタニタの助言を得た「健康弁当」の販売、かほく市の行政担当者や本学学生も参加したパネルディスカッションが好評であった。弁当販売という形で有料講座（1000円）とした。

2. 県立大学とのフォーラム等の共同開催について検討を行った。12月18日に本学基礎

看護学講座中田講師に担当を依頼し実施した。

3. 平成25年度の公開フォーラムの開催時期と内容について検討を行った。笑いをテーマにしたものを10月の本学の大学祭の日に重ねて実施してはどうかとの検討がなされた。

### 3.7.3 人材育成専門部会

部会長：林教授

部会員：牧野教授、塚田准教授、田甫講師、米田講師、川村講師

事務局：砂山専門員

オブザーバー：鈴木特任講師

開催頻度：月1回（原則第2木曜日） 計8回開催

活動内容：

#### 1. 人材育成専門部会の活動

- 1) シリーズ災害看護を3回の研修会を企画し取り組んだ。総数166名の参加者が得られた。
- 2) 「医療・看護英語を楽しむ」の講座には臨床看護師はじめ、本学の学生や院生など延べ82名の参加者が得られた。
- 3) 本学の教員主催の研究会や事例検討会等9講座が開講され、各教員の裁量によって運営された。
- 4) 医療機関や職能団体、行政等からの講義・講演の依頼に対して本学の教員の派遣回数は156件にのぼった。
- 5) 看護研究等の指導に関する講師派遣は、13人の教員が13病院に対して延べ55件にのぼった。

#### 2. 石川県からの委託事業、協力事業の実施

- 1) 県医療対策課からの委託事業として石川県看護教員養成講習会（8ヶ月講習）を3年間にわたり開催することになった。今年度は2年目である。北陸3県を中心に34名の修了生を送り出した。
- 2) 県長寿社会課並びに石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター事業への協力事業として介護職員等が実施する喀痰吸引等の研修事業を行った。  
「不特定多数の者」に喀痰吸引等を実施できるコースを前期・後期に開催し、指導看護師121名を育成し、介護職員の受講者計300名が基本研修等を修了した。また、「特定の者」に対して喀痰吸引等を実施できるコースに32名受講し修了した。

## 3.8 国際交流委員会

委員長：吉田和枝教授

委員：阿部准教授、中田隆博准教授、岩城講師、野村講師、中田弘子講師、曾山助教、大江助教

事務局：砂山専門員

開催頻度：定例月1回（第1月曜日）および臨時開催、計12回開催

活動内容：

1. タイ王国ナコーンシータマラート県のボロオンマラートチョンナニー看護大学との交流会  
4月3日 ボロオンマラートチョンナニー看護大学の学長および看護教員26人、学生5人、引率者1人（日タイ友好協会タイ側の会長）の計32名が来日し本学を視察。本学から学長含む教員、事務職員、学生あわせて46名が交流に参加した。交流会、看護教育の情報交換、学内見学、実習室での各領域教員担当者による教育演習と状況と説明等が行われ充実した内容で実施された。本学初めてのアジアの大学との交流会であった。

## 2. ワシントン大学准教授の招聘

ワシントン大学看護学部との学術交流により、8月29日～9月6日に上月頼子博士（ワシントン大学看護学部 地域精神看護学准教授、ワシントン州ナースプラクティショナー、ワシントン大学周産期精神看護プログラム統括責任者）を招聘した。大学院生「国際看護論」講義、個別指導、CNSワーキンググループ（教員）との懇談会（情報収集）、下記の一般向け公開講座および教員向け講演を開催した。

一般向け講演

演題「米国の医療制度におけるコミュニティーメンタルヘルス」

日時：平成24年8月31日（金）13:30～15:00 場所：教育研究棟 大講義室

参加者は101名（内外部41名）であった。

教員向け特別講演

演題「Licensure, Accreditation, Certification and Education for Advanced Practice Nursing In the United States」

日時：平成24年9月6日（火）9:30～11:00 場所：教育研究棟 中講義室4

参加者は44名（内学生4名）であった。

Advanced Practice Nursing について多くの関心が集まり有意義な講演、講義内容であった。

## 3. 夏期アメリカ看護研修

第8回夏期アメリカ看護研修は、8月31日～9月13日の2週間、引率者1名中田隆博准教授、学生19名が参加してシアトルで実施された。ワシントン大学付属病院看護学部視察、小児医療施設やナーシングホームの視察、メディカルセンター視察をはじめとして、生活に必要な英会話や看護関連英語のレッスン等を行った。研修中の安全を万全にするため、旅行会社と当委員会のワーキンググループとが協力して4回のオリエンテーションを行い保護者の参加も促した。ほか研修中の連絡体制を整えるため、学内の関係者との連携調整を行った。

## 4. 来年度夏期アメリカ看護研修計画立案

来年度の夏期アメリカ看護研修の立案をおこなった。中期計画の実施として研修内容の充実および学生が参加しやすいように適切な価格とするために競争原理を働かせ数社から見積をとって検討し、教育研究審議会に報告し、最終的にシアトルおよびシアトル近郊滞在の計画案に決定された。

5. 夏期アメリカ看護研修に関する内規改正について、学生参加数、参加年齢の見直しを委員会が提案し教育研究審議会で承認された。

## 6. 国際サテライト

### 3.9 広報委員会

委員長：今井 美和 教授

委員：石垣教授、高山教授、浅見教授、丸岡教授、川島教授、西村教授、加藤助教、曾根助教、中村事務局長

事務局：森主事

開催頻度：11回

活動内容：

#### 1. オープンキャンパス

- ・第13回 平成24年度 オープンキャンパス2012の企画立案・準備・実施

開催日時：平成24年7月21日（土）10：00～14：20

参加人数 約380名（学部 278名、保護者 100名、大学院希望者 1名、評価業者 2名、その他）

- ・第14回 平成25年度 オープンキャンパスの検討

企画立案のため福岡県立大学の秋のオープンキャンパスを視察 11月10日（土）

日程 平成25年7月20日（土）、10月27日（日）開催予定

#### 2. キャンパスネット IPNU（大学新聞）

- ・第22巻 2012. 10の企画立案・編集・発行

- ・第23巻 2013. 3の企画立案・編集・発行

#### 3. ホームページ

- ・リニューアル業務（ホームページリニューアル部会において）

- ・ホームページの運用

#### 4. 大学案内（学部・大学院）

- ・2013（学部・大学院）の企画立案・編集・発行

- ・2014（学部・大学院）の企画立案・編集

#### 5. 大学コンソーシアム石川

- ・情報発信部会 第1回 平成24年6月22日（金） 第2回 平成24年12月25日（火）

第3回 平成25年3月25日（月）

- ・出張オープンキャンパス担当講師の調整と依頼

大聖寺高校(7/10)、星稜高校(10/22)、飯田高校(10/25)、伏見高校(11/20)、(12/13)、富山県立呉羽高校(3/7)

- ・石川の大学ガイドブックの編集 2012年度版

- ・石川県高大連携セミナー2012の参加教員を入学試験委員会に依頼

#### 6. 看護への道（石川県健康福祉部医療対策課）の原稿作成

#### 7. ナース・ステーション（医心発行）担当学生のサポート

#### 8. 学生の大学広報委員選出の検討

#### 9. 大学名入りグッズの検討 うちわ、バック

### 3.10 入学試験委員会

委員長：非公開

委員：非公開

開催頻度：16回開催

活動内容：

1. 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業を円滑に行うこと。その流れの中に、入試実施部会(新設)の役割を位置づけること。また、実施体制において教務学生課等の事務職員との協働を強めること。その実施体制に対する評価を入試評価部会(新設)からフィードバックしてもらうこと。
  - 1) 入試実施体制案作成及び当日運営は入試実施部会の役割、入学者選抜要項作成・募集要項作成・合格発表は本委員会の役割として落ち着いた。
  - 2) 入試実施部会の組み立てにより事務職員との協働体制が強められた。
  - 3) 入試評価部会からのフィードバックを得て、回を重ねるごとにスムーズに実施できた。
2. 各入学試験の試験問題の作成と試験問題の適切な管理。
  - 1) アドミッションポリシーに照らした作問基準を新規に作成。基準に則った作問を実現。
  - 2) 試験問題の管理は従来の方法で確実に行った。
  - 3) 作問プロセス、採点プロセスにおけるチェック体制について検討した。
3. 学生募集に関する活動
  - 1) 高等学校等への入試説明会、模擬授業等を円滑に分担するシステムとして、小講座持ち回りでの説明会等対応の徹底を行った。
  - 2) 上記により可能な限りすべての要望・申し込みに対応できた。
  - 3) オープンキャンパスへの協力を行った。
4. 入試情報のホームページ上での公開と管理
  - 1) リニューアルされたHPにて入試情報の公開と管理を行った。
6. 入試方法と入学者の特徴との関連に関する調査(入試評価部会)
  - 1) 入試評価部会より調査結果報告があり、現状を認識できた。入試方法をめぐる動きの活発化している社会情勢を受けてさらに評価のための調査を進める予定。
7. 平成24年度に行った入学試験実績(実施順)

平成24年9月9日(日)	3年次編入学試験
平成24年9月29日(土)	看護学研究科博士前期課程入学試験
平成24年11月18日(日)	推薦・社会人入学試験
平成25年1月19日(土)・20日(日)	大学入試センター試験
平成25年2月3日(日)	看護学研究科博士後期課程入学試験
	看護学研究科博士前期課程(第2次募集)入学試験
平成25年2月25日(月)	一般選抜前期日程試験
平成25年3月12日(火)	一般選抜後期日程試験

### 3.10.1 入試実施部会

部会長：非公開

委員：非公開

開催頻度：6回開催

活動内容：看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務  
看護学研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務  
大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

### 3.10.2 入試評価部会

部会長：非公開

部会員：非公開

開催頻度：10回開催

活動内容：以下について検討した

- ・3年次編入学試験に関すること
- ・推薦・社会人入学試験に関すること
- ・大学センター試験及び一般前期試験・後期試験における配点に関すること
- ・大学センター試験及び入学試験の準備、実施体制の評価に関すること

### 3.11 FD/自己点検・評価委員会

委員長：石垣 和子 教授（学長）

委員：浅見教授、武山教授、大木教授、川島教授、丸岡教授、西村教授、村井教授、高山教授、林教授、前総務課長

事務局：入道主幹→山崎主任主事

開催頻度：隔月開催 計6回開催

活動内容：

#### 1. 委員会体制について

この委員会は、昨年度までの複数の旧委員会を合体した新設委員会である。そのため、委員会と3部会（教員評価検討専門部会、年報/自己点検評価専門部会、FD/授業評価専門部会）がまとまって役割を果たすための効果的な連携を得るべく経験を重ねながら各組織が着地点を探した。

#### 2. 認証評価を受けることについて

平成23年度末に大学基準協会に申請した認証評価に伴う実地調査が平成24年度に行われるため、年報/自己点検評価専門部会の計画に基づき、準備のタイムスケジュールの作成、実地調査当日の準備運営、評価結果の発表などを全学的な協力体制の下に行った。

#### 3. 認証評価結果の本学の運営への反映について

認証評価を受けて、その指摘事項等を本学の教育・研究・運営等へ反映するための方法を年報/自己点検評価専門部会と本委員会が協力して検討する。（平成25年度へ継続する）

#### 4. 教員評価について

教員評価検討専門部会案によって、教員個別の目標シートを用いた自己評価の試行を行った。さらに部会の提案を受けて自己評価結果を評価するための評価委員を選定した。（平成25年度に継続する）

#### 5. 授業評価について

FD/授業評価専門部会からの授業評価方法改善方針を受け、評価項目の検討を行った。それ



を基にした部会の活動結果により評価方法のさらなるバージョンアップの提案があり、検討した。(平成 25 年度へ継続する)

#### 6. FD について

大学コンソーシアム石川の FD 研修を利用した FD 研修を行った。(部会報告参照)

#### 7. 新任教職員の FD・SD 研修について

FD/授業評価専門部会から新任教職員の FD・SD 研修の提案があり、部会の主導の下に実施に移すことになった。

#### 8. 年報の作成について

年報/自己点検評価専門部会による年報作成を進めている。

### 3.11.1 教員評価検討専門部会

部会長：武山 雅志 教授

部会員：川島教授、多久和教授、林教授、村井教授、山岸准教授

活動内容：

平成 23 年度末に提出依頼した「1 年間の振り返りシート」を踏まえて、各教員には「目標シート」の提出を依頼した。「1 年間の振り返りシート」の結果はまとめて平成 24 年 7 月に報告した。また教員評価委員の選出について審議し、選出基準を設け平成 25 年度の試行準備を行った。

### 3.11.2 年報・自己点検評価部会

部会長：大木 秀一 教授

部会員：松原教授、丸岡教授、米田講師、岩城講師、川村講師、田村助教、伊達岡助教

事務局：山崎主任主事

開催頻度：全体の部会は1回開催した。分担業務ごとの打ち合わせ会を随時開催した。

活動内容：

#### 1. 年報の発行

平成 23 年度石川県立看護大学『年報』第 12 巻を平成 24 年 10 月に発行した。内容は、学事、教員・職員紹介、委員会活動、研究活動・社会活動、卒業研究論文題目及び修士・博士論文題目一覧、石川看護雑誌、附属図書館、地域ケア総合センター事業報告、北陸がんプロフェSSIONAL養成プログラム、国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修、ワシントン大学との交流、いしかわシティカレッジ、地域連携活動などで、104 頁になった。印刷部数は 400 部で、県内外の関係諸機関等に送付した。

#### 2. 大学評価の現地調査

平成 24 年度の認証をめざし、平成 23 年度に大学基準協会に大学評価の申請手続きをとった。本年度は、10 月 1～2 日に現地調査を受けた。また、大学基準協会からの評価結果に対する確認と対応を年度末まで行なった。

#### 3. 年報の原稿収集

平成 24 年度石川県立看護大学『年報』第 13 巻の原稿依頼と収集を行った(平成 25 年 2-3 月)。

### 3.11.3 FD/授業評価専門部会

部会長：村井嘉子 教授

委員：川島教授、中田准教授、谷本准教授、堅田講師、野村講師、東助教、子吉助教

事務局：高平主事

開催頻度：9回開催

活動内容：

#### 1. 大学コンソーシアム石川教職員研修への参加

テレビ会議システムを活用して、情報資産管理セミナー、ライフバランス研修会、研究活性化とリサーチ・アドミニストレーター、今求められる組織的な外部資金獲得方策、高等教育機関における発達障害者支援にどう貢献すべきか等、5回のFD/SD研修会に参加した。参加人数は、延べ60名であった。

#### 2. 学内研修会の開催

- ・学内研修会において、前期授業評価の結果を基に授業方法の工夫について意見交換し、学生が受身になる授業より、学生参画型授業が授業評価に変化をもたらすことを教員間で共有した。また、現在の授業評価ツールは、その結果を効果的に活用するには至っていないことが明らかとなった。
- ・大学コンソーシアム石川及び大学行政管理学会中部・北陸地区研究会主催の大学経営人材養成合宿研修に東部会員が参加しその報告を行い、大学教職員の役割と期待について理解を深めた。

#### 3. 学生による授業評価票に関する検討

- ・教員が自発的に自己の授業内容、方法を改善するための示唆が得られるような授業評価ツールを作成するために、全教員に対して現行の授業評価ツールに対する課題等に関する質問紙調査を実施した。新しい授業評価ツールのための示唆を得たことにより年度内に試案を作成し、次年度前期より試行する。
- ・教員間における授業参観、授業評価等について、他大学における報告資料を基に意見交換した。限られた一部の授業参観を実施したとしても、授業進行の全体が把握することが困難でありその効果として疑問があること、教員の時間的なゆとりの有無等の意見が出された。今後、学生による授業評価結果の公開の方法と共に意見交換を継続することになった。

#### 4. 看護学教員の『臨地実習における学修指導力』の評価を実施

看護系大学協議会が提示した『臨地実習における学修指導力』に関する評価チェックリストを用いて、全教員が平成24年度後期から平成25年度前期において自己評価する。この結果は、平成25年度前期終了後に集計して研修会で公表予定である。

#### 5. 新任・昇任教員に対するオリエンテーションに関する検討

- ・新任・昇任教員が本学の理解を深め新たな役割を担う、また各自が持てる力を十分に発揮できるように『新任教員オリエンテーションチェックリスト』を作成し、オリエンテーシ

オンを実施した。オリエンテーションを受けた者3名、実施者3名からの意見を受け、本チェックリストを活用することで必要かつ重要な事柄を洩れなく聞き、伝えることができたという成果を得た。一方で、日程調整に苦慮した点が挙げられた。

- ・平成24年度の結果を受けて、平成25年度より全新任教職員オリエンテーションを組織的に実施するための計画を立案しそのファシリテート役を部会が担うことになった。

### 3.12 ハラスメント委員会

委員長：石垣 和子 教授（学長）

委員：浅見教授、長谷川教授、吉田教授、村井教授、中村事務局長、

相談員：武山教授、今井教授、彦講師、川村講師

活動内容：

1. ハラスメント研修会（平成25年3月13日）

金沢弁護士会犯罪被害者支援委員会委員長の長澤裕子弁護士（坂井法律事務所所属）を講師にお招きしてハラスメント研修会を行った。具体的な判例に基づきながら、ハラスメントと法的責任について説明をしていただいた。

参加者からも活発な質疑応答がなされた。

2. 相談：随時

### 3.13 情報セキュリティ委員会

委員長：大木秀一 教授

委員：浅見教授、小林教授、今井教授、川島教授、丸岡教授、西村教授、高山教授、入道主幹

開催頻度：随時

主な活動内容：

平成24年8月3日(金)情報セキュリティ研修会を開催した。

石川県公立大学法人統一の情報セキュリティ委員会の立ち上げに関わってきた。

### 3.14 コンプライアンス委員会

委員長：高山 成子 教授（研究科長）

委員：中村事務局長、多久和教授、牧野教授、小林教授、織田准教授、中道講師

事務局：入道主幹

開催頻度：随時（平成24年度は委員会を5回開催）

活動内容：

1. 平成24年度不正防止計画を策定し、石川県立看護大学における研究者の行動規範と競争的資金等の取り扱い体系図を確認し、ホームページに掲載した。
2. 教員を対象に平成24年度研究費不正防止の研修会を行った（38人参加）。
3. 法人内部監査部門の研究費等内部監査を受け、「概ね適正に執行・保管・管理されている」

という結果報告を確認した。

4. 文科省主催の事務職員を対象とした研究費不正防止推進の研修に入道主幹が出席した。
5. 全教員に「公的研究費の不適切な経理に関する調査」を実施した。行動規範、不正防止計画、内部監査の周知は80%以上、不正防止計画対策を実施しているが96%であったが、相談窓口の仕組みの認識は60%と低く、この結果から次年度研修内容を検討することとなった。

### 3.15 遺伝子組換え実験等安全委員会

委員長：中田 隆博 准教授

委員：高山教授、長谷川教授、小林教授、中田弘子講師、青山教務学生課長

開催頻度：随時

活動内容：

本年度の申請件数は1件のみであった。申請内容はメール会議により各委員に周知された。申請案件は機関届出実験に相当し、委員会による審査は不要であった。

### 3.16 大学院教務・学生委員会

委員長：高山 成子教授（研究科長）

委員：丸岡教授、浅見教授、吉田教授、西村教授、牧野教授、大木教授、青山教務学生課長

事務局：井ノ山事務員

開催頻度：定例月1回（第4火曜日）及び臨時

主な活動内容

1. 大学院教務に関する以下の事項について審議し、必要事項は研究科委員会に提出し承認を得て教務を行った。
  - ・新入生および在校生へのガイダンス
  - ・修士論文・博士論文に関し、ガイドラインに沿って修士論文中間評価委員・博士論文審査委員の決定、中間報告会実施、発表会の実施
  - ・既修得単位、14条学生、長期履修、科目等履修生、研究生の認定
  - ・成績判定、学位授与・修了判定
  - ・非常勤講師、実習施設に関する事項・
  - ・時間割の作成、大学院便覧の作成
2. ワシントン大学からの招聘教授上月先生の大学院の講義を計画した。
3. 9月に院生との懇談会、12月に意見箱を設置し、院生の修学に関する希望等を取り上げ、昼間・夜間の時間割作成など必要な支援策を行った。
4. 専門看護師の充実を目的に「北陸3県看護部長との懇談会」を実施し意見交換した。
5. 前期課程のコース・分野の見直し、後期課程の分野設置を検討し変更を行った。
6. 科目等履修生・研究生募集要項を検討し、募集案内を作成しホームページに掲載した。
7. がんプロフェッショナルプラン対応のe-learning科目の設置を追加した。

### 3.17 倫理委員会

委員長：高山 成子 教授（研究科長）

委員：武山教授、丸岡教授、吉田教授、中田准教授、北山准教授、外部委員

事務局：森主事→山崎主任主事

開催頻度：定例月1回（毎月第4木曜日）

活動内容：

1. 平成24年度は学長が委嘱する学識経験者として8名の外部委員の参加を得て、11回の委員会を行った（1回の委員会に2名の外部委員が出席）。学内委員の意見と、外部委員の異なる視点での意見を加えて、活発な意見交換により審査がなされた。
2. 教員の研究審査29件、前期課程院生の審査6件、後期課程院生の審査1件、卒業論文の審査27件、合計63の案件が申請された。審査結果は、不承認は0件で、変更勧告は5件であった。変更の勧告の結果後の再提出後審査を含めて、63件全てが承認となった。
3. 卒業研究の「審査を通さない、もしくは迅速審査」の基準について、文部科学省・厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」などを参考に検討を開始した。

### 3.18 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵 教授

委員：高山教授、川島教授、林教授、多久和教授、松原教授、谷特任助教、青山教務学生課長、入道主幹

開催頻度：定例隔月開催（第2木曜日）計9回（臨時2回）、メール会議 5回

活動内容：

1. 「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」推進に関する企画および実施
  - 1) 「がん教育改革」に関して、本科生の北陸がんプロ e-learning の単位認定および、全国 eクラウドへの参加に関する検討
  - 2) 「地域がん医療（インテンシブ）」に関して
    - ①『地域がん看護師養成コースⅠ』（大学院科目等履修）の募集要項の作成・学生募集および成績判定
    - ②『地域がん看護師養成コースⅡ』（修了証取得）の募集要項の作成・学生募集および成績判定
    - ③『再就業に向けたがん看護実践サポート』の募集要項の作成・学生募集および成績判定
  - 3) テレビ会議システムを用いた「がん看護事例検討会」の企画、運営（10回/年開催）
  - 4) 「リンパ浮腫ケア」の企画・実施・修了証発行
  - 5) 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の企画・実施・修了証発行
  - 6) 「英国視察研修」の企画・実施
  - 7) 今年度の「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」の評価及び来年度企画内容の検討
2. 北陸がんプロ本科生の単位取得状況の承認
3. テレビ会議システム利用によるキャンサーボードの推進
4. 「平成24年度北陸がんプロ報告書」の作成
5. がん看護関連学会への参加および報告

### 3.18.1 がんプロ運営委員会

委員長：牧野 智恵 教授

委員：岩城講師、木森助教、加藤助教、榊原助教（途中退職）、子吉助手、谷特任助教

事務局：入道主幹

開催頻度：定例隔開催（第2木曜日）計8回開催、メール会議 4回

活動内容：

1. 「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」推進に関する企画および実施
  - 1) テレビ会議システムを用いた「がん看護事例検討会」の企画・運営・アンケート集計（10回/年開催）
  - 2) 「リンパ浮腫ケア」の企画・実施・アンケート集計
  - 3) 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の企画・実施・アンケート集計
  - 4) 「英国視察研修」の企画・実施・アンケート集計
  - 5) 次年度公開講座、セミナー等の検討
2. 「平成24年度北陸がんプロ報告書」の企画・編集
3. がん看護関連学会への参加および報告

### 3.19 衛生委員会

委員長：大木秀一 教授

委員：今井教授、西村教授、阿部准教授、中嶋助手、中村局長、室谷囑託、茶谷産業医

事務局：清水専門員、

開催頻度：計6回開催

主な活動内容：

1. 職場巡視の実施（平成24年6月14日・平成25年3月28日）・改善指導
2. 労働時間に関する実態調査の実施（平成24年7月）・報告
3. 労働安全衛生研修会の実施（平成24年10月11日）
4. 消防訓練の計画・実施（平成24年12月4日）
5. 「職場のメンタルヘルスに関するアンケート」の実施（平成24年1月）・報告  
定期健康診断の結果集計・受診率向上の検討

## 4. 研究活動・社会活動

---

### 4.1 書籍

#### 4.1.1 書籍(著書)

Ooki S., Hiko K., [Chapter 19] Strategy and Practice of Support for Families with Multiple Births Children: Combination of Evidence-Based Public Health (EBPH) and Community-Based Participatory Research (CBPR) Approach, Jay Maddock (eds.), Public Health – Social and Behavioral Health, InTech, Published, Rijeka, Croatia, 405-430, 2012

Ooki S., [Chapter 4] Human Handedness in Twins: An Overview, Tanusree Dutta, Manas K. Mandal, Sameer Kumar (eds.), Bias in Human Behavior, Nova Science Publishers, NY, 83-110, 2012

Ooki S., [Chapter 1] Nationwide Study of Assisted Reproductive Technology and Multiple Births with Accompanied Birth Defects, Ignatz Sanger (eds.), Advances in Reproductive Technology Research, Nova Science Publishers, NY, 1-70, 2013

高山成子、中島紀恵子、新版 認知症の人々の看護 (ISBN 978-4-263-23578-2)、医歯薬出版、東京、133-140、2013

多久和典子、医療学入門 第2版、石川県立看護大学、かほく市、2012

多久和典子、松原勇、やさしい物理と放射線の基礎知識、石川県立看護大学、かほく市、2013

武山雅志、「こころ」の健康を測る、鋤柄増根(編)、看護心理学、ナカニシヤ出版、京都、106-112、2013

武山雅志、「こころ」の健康を取り戻す、鋤柄増根(編)、看護心理学、ナカニシヤ出版、京都、112-118、2013

中田弘子、介護職員関係養成研修テキスト作成委員会(編集)、介護職員 実務者研修テキスト 第5巻 生活支援技術I・II、一般財団法人 長寿社会開発センター、東京、31-52、2012

Hasegawa N., Mochizuki M., Chapter 7 Dietary green tea extract and vitamin D induced bone mineral density in elderly women in Ishikawa prefecture, Japan.、Kuo-Cheng Lu (Editors)、Bone loss: Risk factors, detection and prevention, Nova Scientific Publishers, Inc.、New York, USA、175-183、2013

### 4.2 学術論文

#### 4.2.1 査読有

浅見洋、グリーフケアにおける死者との関係について、北陸宗教文化、25、91-108、2012

島村敦子、松浦志野、石垣和子、認知症高齢者の気持ちに気付くことから訪問看護師による入浴ケアが定着した一事例、認知症ケア事例ジャーナル、5(2)、103-110、2012

深田順子、鎌倉やよい、北池正、石垣和子、訪問看護における摂食・嚥下障害看護を推進する要因と妨げる要因、日本摂食嚥下リハ会誌、16(3)、253-268、2012

- Ooki S.、 Theoretical Model of the Relationship between Single Embryo Transfer Rate and Multiple Pregnancy Rate in Japan、 Journal of Pregnancy、 2012、 Article ID 620753, 7 pages、 2012
- Ooki S.、 Birth Defects after Assisted Reproductive Technology in Japan: Comparison between Multiples and Singletons, 2004-2009.、 Reproductive System & Sexual Disorders、 2012、 S:5、 2012
- Ooki S.、 Concordance Rates of Birth Defects After Assisted Reproductive Technology Among 17258 Japanese Twin Pregnancies: A Nationwide Survey、 2004-2009、 Journal of Epidemiology、 23 (1) 、 63-69、 2013
- Ooki S.、 Twin Database of the Secondary School Attached to the Faculty of Education of the University of Tokyo: Lifecourse Database of Twins、 Twin Research and Human Genetics、 16 (1) 、 226-230、 2013
- Ooki S.、 Japanese Database of Families with Twins and Higher-Order Multiples、 Twin Research and Human Genetics、 16 (1) 、 221-225、 2013
- Ando J., Fujisawa KK., Shikishima C., Hiraishi K., Nozaki M., Yamagata S., Takahashi Y., Ozaki K., Suzuki K., Deno M., Sasaki S., Toda T., Kobayashi K., Sugimoto Y., Okada M., Kijima N., Ono Y., Yoshimura K., Kakihana S., Maekawa H., Kamakura T., Nonaka K., Kato N., Ooki S.、 Two Cohort and Three Independent Anonymous Twin Projects at the Keio Twin Research Center (KoTReC)、 Twin Research and Human Genetics、 16 (1) 、 202-216、 2013
- Ooki S.、 Multiple Congenital Anomalies after Assisted Reproductive Technology in Japan (between 2004 and 2009)、 ISRN Epidemiology、 2013、 Article ID 452085, 8 pages、 2013
- Ooki S.、 Maternal age and birth defects after the use of assisted reproductive technology in Japan、 2004-2010、 International Journal of Women's Health、 2013 (5) 、 65-77、 2013
- Ooki S.、 Congenital hypothyroidism after assisted reproductive technology in Japan: comparison between multiples and singletons, 2005-2009、 International Journal of Pediatric Endocrinology、 2013 (1) : 5、 doi: 10.1186/1687-9856-2013-5、 2013
- Ooki S.、 Fatal child maltreatment associated with multiple births in Japan: nationwide data between July 2003 and March 2011、 Environmental Health and Preventive Medicine、 doi: 10.1007/s12199-013-0335-9、 2013
- 大木秀一、 彦 聖美、 研究方法論としての文献レビューー英米の書籍による検討ー、石川看護雑誌、 10、 7-18、 2013
- 中野まどか、城戸照彦、織田初江、 金沢市のファミリーレストランにおける受動喫煙防止対策とその効果の実態-環境測定と利用者への質問紙調査から-、北陸公衆衛生学会誌、 39 (1) 、 6~11、 2012
- Nakajima Y, Nakano Y, Fuwano S, Hayashi N, Hiratoko Y, Kinoshita A, Miyahara M, Mochizuki T, Nishino K, Tsuruhara Y, Yokokawa Y, Iuchi T, Kon Y, Mukai K, Kitayama Y, Murakado N, Okuwa M, Nakatani T、 Effects of three types of Japanese honey on full-thickness wound in mice. Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine、 Volume 2013 (2013), Article ID 504537、 11 pages (1-11)、 2012”



- 中島由加里、井内映美、向井加奈恵、小松恵美、北山幸枝、尾崎紀之、中谷壽男、解剖学におけるゲル注入にほる新殿筋注点の安全性の検証と超音波診断装置にによる刺入の深さの検討、形態・機能、11(2)、102-7、2013
- 中島由加里、向井加奈恵、小松恵美、井内映美、北山幸枝、中谷壽男、生体における股関節屈曲0°、45°、90°位置での新殿筋注点とクラークの点との比較、形態・機能、11(2)、109-15、2013
- 木村久恵、村井嘉子、中道淳子、堅田智香子、看護教員養成校集会を受講する中堅看護師に内在するニーズ、石川看護雑誌、10、57-63、2013
- 木森佳子、須釜淳子、宮地利明、中山和也、留置カテーテル用末梢静脈可視化装置の開発—光による静脈透過システムの可視性評価—、金沢大学つるま保健学会誌、36(2)、57-66、2012
- 鈴木 祐恵、彦 聖美、金川克子、石垣和子、大木秀一、報告「訪問看護ステーション利用者を介護している石川県下の男性介護者の実態と介護に対する意識—自記式質問紙調査から」、石川看護雑誌、10、65-75、2013
- 大津美香、渡辺陽子、高山成子、認知症高齢者における徘徊対応プロトコールの有用性の検討、保健科学研究弘前大学紀要、3、85-99、2013
- 大津美香、渡辺陽子、高山成子、看護師が診療所外来に通院中の認知症を有する高齢心不全患者の疾病管理において抱いている対応困難と支援の実態、保健科学研究弘前大学紀要、3、101-111、2013
- 田本奈津江、高山成子、パーキンソン病高齢者に対する嚥下体操と摂食行動の介入効果—食前の嚥下体操と食事中に音リズムを用いて—、日本難病看護学会誌、17(3)、205-216、2013
- Takuwa N, Okamoto Y, Yoshioka K and Takuwa Y. G protein-coupled sphingosine-1-phosphate receptors: potential molecular targets for angiogenic and anti-angiogenic therapies. *Biomedical Reviews*, 22, 15-29, 2012
- Takuwa Y, Okamoto Y, Yoshioka K, Takuwa N. Sphingosine-1-phosphate signaling in physiology and diseases. *Biofactors*, 38(5), 329-37, 2012
- Takuwa Y, Ikeda H, Okamoto Y, Takuwa N, Yoshioka K. Sphingosine-1-phosphate as a mediator involved in development of fibrotic diseases. *Biochim Biophys Acta.*, 1831(1), 185-92, 2013
- Yoshioka K, Yoshida K, Cui H, Wakayama T, Takuwa N, Okamoto Y, Du W, Qi X, Asanuma K, Sugihara K, Aki S, Miyazawa H, Biswas K, Nagakura C, Ueno M, Iseki S, Schwartz RJ, Okamoto H, Sasaki T, Matsui O, Asano M, Adams RH, Takakura N, Takuwa Y. Endothelial PI3K-C2 $\alpha$ , a class II PI3K, has an essential role in angiogenesis and vascular barrier function. *Nature Med*, 18(10), 1560-9, 2012
- Biswas K, Yoshioka K, Asanuma K, Okamoto Y, Takuwa N, Sasaki T, Takuwa Y. Essential Role of Class II Phosphatidylinositol-3-kinase-C2 $\alpha$  in Sphingosine 1-Phosphate Receptor-1-mediated Signaling and Migration in Endothelial Cells. *J Biol Chem*, 288(4), 2325-39, 2013
- Takuwa N, Okamoto Y, Yoshioka K, Takuwa Y. Sphingosine-1-phosphate signaling and cardiac fibrosis. *Inflammation and Regeneration*, 2013 (in press)

- 武山雅志、塩谷亨、大矢寿美子、村上雅子、 レポートライティング研修の自己評価と他者評価、  
MMPI 研究、臨床情報交換誌、22、18-23、2012
- 谷本千恵、辻真理子、川村みどり、相川竜子、 精神看護学教育に関する実態調査（第一報）－教  
員の実態ならびに教育内容の変遷について－、石川看護雑誌、10、103-109、2013
- 釜谷友紀、稲垣美智子、多崎恵子、田甫久美子、 2型糖尿病患者の糖尿病イメージ[第1報]  
2型糖尿病患者の糖尿病イメージ、日本糖尿病教育・看護学会誌、16（2）、155-162、2012
- 釜谷友紀、稲垣美智子、多崎恵子、田甫久美子、 2型糖尿病患者の糖尿病イメージの形成過程、  
看護実践学会誌、25(1)、39-48、2013
- 塚田久恵、石垣和子、辻村真由子、都筑千景、金川克子、 韓国と日本における保健所の機能と看  
護職の役割についての考察、石川看護雑誌、10、77-87、2013
- Nakata T., Suzuki N., Chromogen-based immunohistochemical method for elucidation of the  
coexpression of two antigens using antibodies from the same species., Journal of  
Histochemistry and Cytochemistry, 60（8）、611-619、2012
- 子吉知恵美、 発達障害児の早期発見のための5歳児健診に対する保護者の意識調査、小児保健研  
究、71、435-442、2012
- 子吉知恵美、 発達障害児の保護者の発達障害に対する受容状況および発達障害児とその保護者へ  
の保健師による援助方法、家族看護学研究、18（2）、47-58、2013
- Mei, Lin, Mochizuki, M, Hasegawa, N, Hepatoprotective effects of Pycnogenol in a rat model  
of non-alcoholic steatohepatitis, Phytother Res, 26(10)、1572-1574、2012
- 林一美、堀田真弓、佐々木順子、 医療行為を受けている在宅高齢者に関わる医師や介護支援専門  
員の情報共有や職種間の連携状況、石川看護雑誌、10、89-93、2013
- 彦 聖美、浅見洋、浅見美千江、 「人口減少地域住民の死生観と終末期療養場所のニーズ」、ホス  
ピスケアと在宅ケア、20(3)、233 -238、2012
- 彦 聖美、鈴木祐恵、金川克子、石垣和子、大木秀一、 高齢期の妻や親を介護する男性の介護状  
況に関する実態調査-石川県における介護支援専門員に対する質問紙調査-、石川看護雑誌、10、  
37-46、2013
- 丸岡直子、寺井梨恵子、木村久恵、 転倒防止に関する新人看護師教育の実態、石川看護雑誌、10、  
25-36、2013
- 藤田三恵、中田弘子、川島和代、丸岡直子、 看護学生の食生活改善に向けた教育プログラムの評  
価－継続性への検証を通して－、石川看護雑誌、10、47-56、2013
- 斎藤早苗、辻本裕子、カルディナス暁東、田中克子、吉田和枝、兼子加寿子、末原紀美子、 中国  
山西省における母子保健学術交流および医療施設の視察からリプロダクティブヘルス推進への  
一考察、梅花女子大学看護学部紀要、3号、13-18、2013

#### 4.2.2 査読無

- 浅見洋、 「善の研究」刊行一〇〇周年に想う、点から線へ、61、2—29、2013
- 石垣和子、 ”当事者学”に触れて見直す老年看護学、老年看護学、17（1）、P5-11、2012
- 大木秀一、彦 聖美、 多胎児の成長発達の特徴と育児支援。 [特集] 知っておきたい基本と最  
新知識 双胎妊娠分娩・育児への Cure と Care の調和、BIRTH、1（7）、89-97、2012

- 北山幸枝、特集エキスパートはやっていた！苦痛と不安を解決する救急・重症ケア Q&A  
Scene 6：皮膚損傷を起こしやすい患者、村井嘉子（編）、Emergency Care、26(3)、メデイカ出版、大阪、46(270)-52(276)、2013
- 武山雅志、「犯罪被害者への支援」対談、司法精神医学、8(1)、47-48、2013
- 寺井梨恵子、「転倒リスク認知－視覚情報の定量化」を担当して、看護実践学会誌、25巻、111-112、2013
- 彦聖美、浅見洋、ドイツにおける緩和ケアとホスピス、石川看護雑誌、10、113-115、2013
- 牧野智恵、治療期の患者・家族の輝きを引き出すがん看護、第27回日本がん看護学会学術集会講演集、27巻、102、2013
- 牧野智恵、看護実践の中にひそむ価値の再考、第6回看護実践学会学術集会講演集、6、16、2012
- 牧野智恵、17TH INTERNATIONAL CONFERENCE on CANCER NURSING 参加報告、石川看護雑誌、10、2013
- 村井嘉子、Special Feature 苦痛と不安を解決する救急・重症ケア Q&A プランナー・編集、Emergency Care、26(3)、11-63、2013
- 村井嘉子、救急・首相患者にナースだからできる苦痛緩和のケアとは、Emergency Care、26(3)、12-15、2013
- 吉田和枝、「祖父母の楽しい孫育て教室の実践紹介」を担当して、看護実践学会誌、25巻1号、110-111、2013

#### 4.3 その他の原稿

- 浅見洋、編集委員長を終えて－フライブルクに寄せて－、西田哲学会会報、10、9、2012
- 浅見洋、川村みどり、石川県内の特別養護老人ホームの介護職における看取りに関する意識調査、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 平成22-24年度調査研究報告書、1-24、2013
- 浅見洋、川村みどり、塚田久恵、端久美、愛徳誓城、木村美代、川島和代、林一美、藤田三恵、彦聖美、木村美代、相原翔子、指定介護老人福祉施設における終末期ケアの現状と課題、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター『事業報告書』、9、27-35、2013
- 浅見洋、来客喜人レシピコンテスト レシピ集、28、1-28、2013
- 岩城直子、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン「がん看護における臨床倫理事例検討会」を企画・実施して、平成24年度「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」事業報告書、2013
- Ooki S.、Estimation of the contribution of ART and non-ART fertility treatments to multiple births during the last thirty years in Japan: 1977-2011、17th World Congress on Controversies in Obstetrics, Gynecology and Infertility (COGI) Proceeding、85-88、2012
- 大木秀一、多胎児家庭の育児に関するアンケート調査の分析結果について、ツインマザーズクラブ会報、227、30-35、2012
- 大木秀一、彦聖美、志村恵、河原廣子、天羽千恵子、セルフヘルプグループを基盤としたサポートネットワークシステムのエンパワーメント効果に対する実証と理論化の研究、平成23年度石川県立看護大学附属地域総合センター事業報告書、9、47-50、2013
- 大木秀一、多胎児家庭の育児支援に役立つ図と表、2013（平成25）年作成版、1-21、2013

大木秀一、多胎児家庭の育児に関するアンケート調査 分析結果報告書、1-20、2013

多久和典子、ゴードン・リサーチ・カンファレンス 参加報告、石川看護雑誌、10、125-126、2013

多久和典子、編集後記、石川看護雑誌、10、2013

武山雅志、田中純一、末永裕美、村中裕紀、古川貴弘、被災地への支援活動とその課題、第9回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告集、131-134、2013

武山雅志、その他（第9回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム）、学生等災害ボランティアリーダー育成事業報告書、91-93、2013

谷本千恵、特別報告 The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) に参加して、石川看護雑誌、10、121-122、2013

塚田久恵、曾根志穂他 14 名、東日本大震災の被災地支援活動からの健康危機管理等保健活動の課題とその展開に関する調査研究、保健師による東日本大震災の被災地支援活動報告、1-107、2012

西村真実子、米田昌代、堅田智香子、東雅代、曾山小織、伊達岡五月、吉田和枝、育児不安や育児困難に悩む母への「Nobody's Perfect 親支援プログラム」実施記録(冊子体)、平成 24 年度石川県立看護大学学内助成金による作成、全 84 ページ、2013 年 3 月発行

西村真実子、伊達岡五月、東雅代、川崎由佳、巧郁衣、深井春香、育児困難や虐待の予防を目的とした妊娠期からの子育てセミナー、平成 24 年度地域課題ゼミナール支援事業成果報告集、68～71、一般社団法人大学コンソーシアム石川、2013 年 2 月発行

彦聖美、大木秀一、鈴木祐恵、塚田久恵、金川克子、パートナーシップを基盤とした Community-Based Participatory Research (CBPR) がコミュニティ能力を向上させるプロセスの評価と理論化に向けた研究—石川県内の自主グループと協働して取り組む健康増進活動を通じて—、平成 23 年度石川県立看護大学附属地域総合センター事業報告書、9、43-46、2013

彦聖美、金川克子、鈴木祐恵、大木秀一、「男性介護者のストレス対処能力 Sense of Coherence (SOC) を高める要因の探索と支援の方略に関する研究」、公益財団法人ユニバーサル財団 2011 年度研究助成金完了報告書、2013

牧野智恵、平成 24 年度 北陸がんプロ報告書、2013

牧野智恵、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの概要と本学におけるがん看護専門看護師養成の取り組み、平成 24 年度北陸がんプロ報告書、13、2013

牧野智恵、「地域がん看護師養成コース」および「地域がん看護活性化コース」、平成 24 年度北陸がんプロ報告書、20、2013

牧野智恵、「地域がん看護師養成コースⅡ（修了証取得）について」、平成 24 年度北陸がんプロ報告書、36、2013

牧野智恵、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの発展に向けて、平成 24 年度北陸がんプロ報告書、97、2013

山岸映子、JICA ベトナム青年研修「母子保健実施管理」コース 業務完了報告書、JICA ベトナム青年研修「母子保健実施管理」コース 業務完了報告書、1-3、2012

山岸映子、他、2010 夏期アメリカ看護研修報告書、2011 年夏期アメリカ看護研修報告書、1-6、2012

吉田和枝、タイ看護大学との交流、キャンパスネット、22、3、2012

米田昌代、特集2 流産・新生児死 グリーフケアの実際 退院後のグリーフケアとグリーフケアにかかわる看護者への支援、妊産婦と赤ちゃんケア、3.4月号、86-93、2013

#### 4.4 学会発表

浅見洋、生老病死／ライフコース－臨床において人生苦をいかに受け止めるか－（シンポジウム発題）、第31回医学哲学倫理学会、金沢、2012.11、第31回日本医学哲学・倫理学会「生老病死」予稿集、24、2012

浅見洋、死別者と死者との関係をめぐって－Grief Careの思想的展開の一側面－、第31回医学哲学倫理学会、金沢、2012.11、第31回日本医学哲学・倫理学会「生老病死」予稿集、12、2012  
東雅代、西村真実子、米田昌代、堅田智香子、曾山小織、伊達岡五月、吉田和枝、育児困難に悩む母を対象とした親育ち支援システムに関する研究－第三段階のプログラム『親育ち・子育てを考える会』の評価－、日本子ども虐待防止学会第18回学術集会 高知りょうま大会、高知、2012.12、日本子ども虐待防止学会第18回学術集会 高知りょうま大会プログラム・抄録集、244、2012

辻村真由子、石垣和子、胡秀英、異文化環境で高齢期を迎える人々の生活及び社会参加状況の実態調査、第54回 日本老年社会学会、長野、2012.6、2012

Junko Honda, Naohiro Hohashi, Kazuko Ishigaki、History of family nursing in Japan through activities of the Japanese Association for Research in Family Nursing、9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery、Kobe、2012.6、2012

島村敦子、辻村真由子、諏訪さゆり、石垣和子、伊藤隆子、石橋みゆき、在宅認知症高齢者に対する入浴援助における訪問看護師の援助姿勢、第17回 日本老年看護学会学術集会、金沢、2012.9、日本老年看護学会第17回学術集会抄録集、248、2012

辻村真由子、石垣和子、胡秀英、相原綾子、異文化環境で高齢期を迎える人々の健康状態と医療・看護・介護ニーズの実態調査、第17回 日本老年看護学会学術集会、金沢、2012.9、日本老年看護学会第17回学術集会抄録集、277、2012

辻村真由子、胡秀英、石垣和子、日本・中国間の家族観および家族看護実践に関する文化差の検討：中国人看護師へのインタビュー調査から、第19回日本家族看護学会、東京、2012.9、日本家族看護学会学術集会抄録集、2012

Keiko Agawa, Noriko Kaneko & Kazuko Ishigaki、The Care and Beliefs of Home Care Nurses Who Are Caring for Disabled Children in JAPAN、16th EAFONS、Bangkok, Thailand、2013.2、2013

阿川啓子、金子紀子、石垣和子、医療依存度の高い障害児を療育する母親に対する訪問看護師の“方略”の示す文化的側面に関する一考察、文化看護学会、千葉、2013.3、2013

Ooki S.、Estimation of the contribution of assisted and non-assisted reproductive technology fertility treatments to multiple births during the last thirty years in Japan: 1977-2008、14th International Congress on Twin Studies and The 2nd World Congress on Twin Pregnancy、Florence, Italy、2012.4、Twin Research and Human Genetics、15 (2)、228、2012

加藤則子、吉田穂波、横山徹爾、瀧本秀美、大木秀一、 双生児の出生体重と adiposity rebound age 及び BMI 推移の関連に関する検討、第 1 回日本 DOHaD 研究会年会、埼玉、2012. 8

大木秀一、彦聖美、志村恵、 多胎児家庭の育児に関する全国実態調査—児の出生年度と年齢による影響—、第 71 回日本公衆衛生学会、山口、2012. 10、日本公衛誌、第 71 回日本公衆衛生学会総会抄録集、59 (10) 、330、2012

Ooki S.、ESTIMATION OF THE CONTRIBUTION OF ART AND NON-ART FERTILITY TREATMENTS TO MULTIPLE BIRTHS DURING THE LAST THIRTY YEARS IN JAPAN: 1977-2011、17th World Congress on Controversies in Obstetrics, Gynecology and Infertility (COGI)、Lisbon, Portugal、2012. 11

浦山晶美、永山くに子、大木秀一、 妊娠中からの産後抑うつに関連する要因の縦断的検討、第 53 回日本母性衛生学会学術総会、福岡、2012. 11

大木秀一、彦聖美、 生殖補助医療が先天異常に与える影響—既存全国データ (2004 年-2010 年) による単胎児と多胎児の比較—、第 23 回日本疫学会学術総会、大阪、2013. 1、Journal of Epidemiology、23 Supplement1、106、2013

川西智香子、高田美智子、織田初江、 特定保健指導(積極的支援)における行動変容に影響する要因について、第 40 回北陸公衆衛生学会、石川県、2012、北陸公衆衛生学会誌、39、12、2012

内海亜沙子、矢木恭江、新田しげ乃、梅津初子、野坂真澄、竹島寿代、吉田智子、織田初江、 幼児の生活リズムの実態とその関連、第 40 回北陸公衆衛生学会、石川県、2012、北陸公衆衛生学会誌、39、20、2012

中村有紀、柳瀬節子、作道はるみ、島崎真理、酒井昌子、鳶野佐織、高田美智子、織田初江、 わくわく広場(遊びの教室)に参加する母親の気持ちの変化と教室の意義について、第 40 回北陸公衆衛生学会、石川県、2012、北陸公衆衛生学会誌、39、26、2012

谷内奈央、中橋香織、小栗光代、渡辺倫子、向野勝美、竹内智子、織田初江、 在宅の難病患者を支援する居宅介護サービス事業所職員が抱える課題、第 46 回富山県公衆衛生学会、富山県、2013

垣花渉、川村みどり、看護系大学における初年次ゼミの特徴—PBL やグループワークに着目して、初年次教育学会第 5 回大会、東京、2012. 9、初年次教育学会第 5 回大会発表要旨集、58-59、2012

垣花渉、戸部雅代、林 宏和、水本菜々、 世代間交流による「健康なまち」創造の軌跡—健康は一人じゃなく、みんなで創るもの—、「社会人基礎力育成グランプリ 2013」中部地区予選大会、名古屋、2012. 11、社会人基礎力育成グランプリ 2013 中部地区予選大会予稿集、2、2012

垣花渉、岡本修子、鈴木泉帆、白坂眞子、高橋万由子、本田沙織、水本菜々、 コミュニティ形成を通じた道の駅活性化—健康菓子・弁当の創出を基盤に—、大学・地域連携アクティブフォーラム、珠洲、2013. 2、平成 24 年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集、2013

垣花渉、戸部雅代、林 宏和、水本菜々、 世代間交流による「健康なまち」創造の軌跡—健康は一人じゃなく、みんなで創るもの—、「社会人基礎力育成グランプリ 2013」決勝大会、東京、2013. 3、社会人基礎力育成グランプリ 2013 決勝大会予稿集、6、2013

川村みどり、川島和代、 石川県内の病院における看護研究に対する教育ニーズの実態、第 6 回看護実践学会学術集会、石川、2012. 9、第 6 回看護実践学会学術集会講演集、6、70-71、2012

- 向井加奈恵、中島由加里、浦井珠恵、北山幸枝、須釜淳子、中谷壽男、24 週の卵巣切除マウスへの  $17\beta$  エストラジオール経皮投与が皮膚創傷治癒へ与える影響、第 14 回日本褥瘡学会学術集会、横浜、2012.9、日本褥瘡学会誌、14(3)、445、2012
- 中島由加里、今有香、向井加奈恵、北山幸枝、大桑真由美、中谷壽男、皮膚創傷治癒過程における雄マウスへのエストロゲン経皮投与の効果の検証、第 14 回日本褥瘡学会学術集会、横浜、2012.9、日本褥瘡学会誌、14(3)、445、2012
- Nakajima Y、Mukai K、Kon Y、Kitayama Y、Nishizawa T、Okuwa M、Sugama J、Nakatani T、Effects of honey on acute-phase deep burn wounds、4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies (WUWHS)、Yokohama、2012.9、WUWHS 2012 Program and Exhibitor's Guide、56、2012
- Mukai K、Nakajima Y、Urai T、Haryant、Hara Y、Takata K、Kitayama Y、Sugama J、Nakatani T、The effect of estrogen endermic medication on cutaneous wound healing in aged ovariectomized female mice、4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies (WUWHS)、Yokohama、2012.9、WUWHS 2012 Program and Exhibitor's Guide、84、2012
- 中島由加里、向井加奈恵、井内映美、北山幸枝、尾崎紀之、中谷壽男、新しい殿部筋肉内注射部位「新殿筋注点」とクラークの点の解剖体における比較研究：注射針刺入に関する検討、第 72 回日本解剖学会中部支部学術集会、岐阜、2012.10、2012
- 中島由加里、向井加奈恵、北山幸枝、大桑麻由美、須釜淳子、中谷壽男、蜂蜜が熱傷創の zone of stasis に及ぼす影響、第 42 回日本創傷治癒学会、札幌、2012.12、2012
- 中島由加里、向井加奈恵、井内映美、小松恵美、北山幸枝、尾崎紀之、中谷壽男、新しい殿部筋肉内注射部位「新殿筋注点」の生体と御遺体における注射針刺入による神経・血管の損傷の検討、第 118 回日本解剖学会総会・全国学術集会、香川、2013.3、2013
- 木森佳子、須釜淳子、近赤外線を用いた留置カテーテル用末梢静脈可視化システムの評価、第 51 回日本生体医工学会大会オーガナイズドセッション、福岡、2012.5、生体医工学. 特別号、日本生体医工学会大会プログラム・論文集、50(s)、121、2012
- 鈴木祐恵、彦 聖美、石垣和子、金川克子、男性介護者支援における訪問看護師が実践しているケアの視点、第 17 回日本老年看護学会学術集会、金沢、2012.7
- 曾根志穂、塚田久恵、飯田芳枝、石川県保健師の東日本大震災被災地支援活動調査（第 2 報）被災地支援活動における課題、第 71 回日本公衆衛生学会、山口、2012.10、日本公衛誌、第 71 回日本公衆衛生学会総会抄録集、59(10)、482、2012
- 飯田芳枝、曾根志穂、塚田久恵、石川県保健師の東日本大震災被災地支援活動調査（第 1 報）支援事例からの学び、第 71 回日本公衆衛生学会、山口、2012.10、日本公衛誌、第 71 回日本公衆衛生学会総会抄録集、59(10)、482、2012
- 曾根志穂、金子紀子、塚田久恵、石垣和子、地域看護学実習における学習支援方法の検討、第 1 回日本公衆衛生看護学会、東京、2013.1、第 1 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集、91、2013
- 大津美香、高山成子、認知症を有する高齢心不全患者の急性憎悪期において看護師が実施しているケアの工夫、日本認知症ケア学会、浜松、2012.5、第 13 回日本認知症ケア学会大会プログラム・抄録集、Vol.11-1、271、2012
- 丸山彩音、高山成子、グループホームで暮らす認知症高齢者の歩行数の実態、日本認知症ケア学会、浜松、2012.5、第 13 回日本認知症ケア学会大会プログラム・抄録集、Vol.11-1、367、2012

- 中村美穂、高山成子、大腿骨転子部骨折高齢者の術後早期移動時における疼痛軽減の試み、日本老年看護学会、金沢、2012.7、第17回学術集会抄録集、122、2012
- 大津美香、高山成子、認知症高齢者の徘徊の目的・理由に基づくタイプ別対応の検討徘徊プロトコルの試案、日本老年看護学会、金沢、2012.7、第17回学術集会抄録集、128、2012
- 渡辺陽子、高山成子、収集行の動のある認知症高齢者のための看護プロトコル試案の評価、日本老年看護学会、金沢、2012.7、第17回学術集会抄録集、180、2012
- 加藤泰子、高山成子、レビー小体型認知症のある高齢者が語る生活上の困難な体験と思い、日本老年看護学会、金沢、2012.7、第17回学術集会抄録集、203、2012
- 古谷和紀、高山成子、急性期一般病床のスタッフステーションで看護を受けている高齢患者のメッセージ、日本老年看護学会、金沢、2012.7、第17回学術集会抄録集、235、2012
- 高山成子、Difficulties in Caring for Elderly Dementia Patients with Terminal Cancer、INTERNATIONAL CONFERENCE ON CANCER NURSING、プラハ、2012.9、17TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON CANCER NURSING、2012
- 加藤泰子、高山成子、がん終末期の認知症高齢者を看護する訪問看護師の困難さと課題、日本がん看護学会、金沢、2013.2、第27回日本がん看護学会抄録集、2013
- 渡辺陽子、高山成子、収集行の動のある認知症高齢者に対する看護プロトコルの臨床適用、日本看護研究学会中国・四国地方会、鳥取、2013.3、第26回学術集会抄録集、70、2013
- 大津美香、高山成子、認知症高齢者における徘徊プロトコルの作成、日本認知症ケア学会、秋田、2013.3日本認知症ケア学会東北地域大会抄録集、2103
- 吉岡和晃、岡本安雄、多久和典子、多久和陽、クラスIIa型PI3キナーゼC2aは血管形成に必須である、The 1st International Symposium on Lipid Mediators・第54回日本脂質生化学会、福岡、2012.6、脂質生化学研究、第54巻、86-87、2012
- 吉岡和晃、吉田耕太郎、多久和典子、岡本安雄、多久和陽、クラスII型PI3キナーゼC2 $\alpha$ は血管新生・恒常性維持に必須である、第59回中部生理学会、岡崎、2012.11、第59回中部生理学会抄録集、6、2012
- Yoshioka K, K Yoshida, N Takuwa, Y Okamoto, Y Takuwa、Class II PI3 kinase C2 $\alpha$  has a crucial role in vascular formation and barrier integrity、第20回日本血管生物医学会、徳島、2012.12、第20回日本血管生物医学会抄録集、23、2012
- Yoshioka K, N Takuwa, Y Okamoto, Y Takuwa、Essential Roles of Class II $\alpha$  PI3 kinase C2 $\alpha$  in Vascular Formation and Vascular Homeostasis、第35回日本分子生物学会年会、福岡、2012.12、第35回日本分子生物学抄録集、42、2012
- ビスワス クンタル、吉岡和晃、岡本安雄、多久和典子、多久和陽、クラスII型PI3キナーゼC2 $\alpha$ はエンドソーム上でのRac1活性化を制御してスフィンゴシン-1-リン酸(S1P)による血管内皮細胞遊走・管腔形成を調節する、第35回日本分子生物学会年会、福岡、2012.12、第35回日本分子生物学抄録集、p.54、2012
- Biswas K, K Yoshioka, Y Okamoto, N Takuwa, Y Takuwa、ClassII PI3-kinase, PI3K-C2alpha, mediates S1P-induced endothelial cell migration through endosomal Rac1 activation、Gordon Research Conference Vascular Cell Biology、Ventura, U.S.A、2013.1、Program of GRC, Vascular Cell Biology 2013、p.25、2013



- Yoshioka K, Yoshida K, Biswas K, Takuwa N, Takuwa Y, Endothelial PI3K-C2a, a class II PI3K, has an essential role in angiogenesis and vascular barrier function. Gordon Reseach Conference Vascular Cell Biology, Ventura, U. S. A, 2013. 1, Program of GRC, Vascular Cell Biology 2013, p. 26, 2013
- Yoshida K, N Takuwa, Y Okamoto, and Y Takuwa, Endothelial class II PI3K-C2alpha has an essential role in vascular formation and barrier integrity, Gordon Reseach Conference Vascular Cell Biology, Ventura, U. S. A, 2013. 1, Program of GRC, Vascular Cell Biology 2013, p. 27, 2013
- Yoshioka K, Takuwa N, Okamoto Y and Takuwa Y. Class II PI 3 kinase C2alpha has an essential role in angiogenesis and vascular homeostasis through regulating endosomal trafficking. the 90th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, 東京, 2013. 3, the Journal of Physiologocal Sciences, Vol. 63 (Suppl. 1), S98, 2013
- Cui H, Okamoto Y, Yoshioka K, Du W, Takuwa N, Zhang W, Biswas K, Aki S, Zhao J, Kuda Y, Asano M, Shibamoto T and Takuwa Y. Sphingosine-1-phosphate receptor-2 plays a protective role against snaphylactic shock through inhibitiomg eNOS. the 90th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, 東京, 2013. 3, the Journal of Physiologocal Sciences, Vol. 63 (Suppl. 1), S119, 2013
- Kuntal B, Yoshioka K, Aki S, Cui H, Zhao J, Kuda Y, Takuwa N, Okamoto Y and Takuwa Y. Class II PI 3 kinase C2alpha plays essential roles in endosomal Rac1 activation and cell migration in S1P-stimulated endothelial cells. the 90th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, 東京, 2013. 3, the Journal of Physiologocal Sciences, Vol. 63 (Suppl. 1), S136, 2013
- 谷本千恵、長谷川雅美、Self-help group for people with mental illness: promotion for and barriers to their activity, The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2013), Bangkok, 2013. 2, The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars EAFONS 2013 Forum Proceedings, 358, 2013
- 飯田芳枝、曾根志穂、塚田久恵、石川県保健師の東日本大震災被災地支援活動調査(第1報) 支援事例からの学び、第71回日本公衆衛生学会、山口市 2012. 10、日本公衆衛生雑誌、第71回日本公衆衛生学会総会抄録集、59(10)、482、2012
- 塚田久恵、曾根志穂、飯田芳枝、石川県保健師の東日本大震災被災地支援活動調査(第3報) 今後の保健師活動の課題、第71回日本公衆衛生学会、山口市、2012. 10、日本公衆衛生雑誌、第71回日本公衆衛生学会総会抄録集、59(10)、482、2012
- 塚田久恵、石垣和子、韓国と日本における保健所の機能と看護職の役割についての考察、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会、東京、2013. 1、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集、119、2013
- 寺井梨恵子、丸岡直子、田甫久美子、転倒リスクアセスメントにおける視覚情報の取り込みの実態(第1報) 看護学生を対象にして、第16回日本看護管理学会年次大会、札幌、2012. 8、第16回日本看護管理学会年次大会講演集、232、2012
- 寺井梨恵子、田甫久美子、丸岡直子、転倒リスク認知-視覚情報の定量化、第6回看護実践学会学術集会、石川、2012. 9、第6回看護実践学会学術集会講演集、79、2012

本郷 悠、中田隆博、松井利康、小野岳史、海田 賢一、宮平靖、小林 靖、 Cre/loxP システムによるコリン作動性ニューロン特異的標識法による C-terminal 起始細胞の投射解析の試み、第 118 回日本解剖学会総会・全国学術集会、香川、2013.3、Proceedings of the 118th Annual Meeting of The Japanese Association of Anatomists、p140、2013

山田綾香、大川瞳、中田弘子、足浴時の手袋装着の有無による手指汚染への影響と主観的評価、第 6 回看護実践学会学術集会、石川県立看護大学、2012.9、第 6 回看護実践学術集会講演集、22-23、2012

大川瞳、山田綾香、中田弘子、フットケアにおける 5 本指ソックスの汚染防止および防臭効果、第 6 回看護実践学会学術集会、石川県立看護大学、2012.9、第 7 回看護実践学術集会講演集、28-29、2012

中田由紀子、渡辺みどり、千葉真弓、高齢者の退院調整における病棟看護師の役割—地方中規模病院に焦点をあてて—、第 25 回日本看護福祉学会学術大会、埼玉県、2012.7、第 25 回日本看護福祉学会学術大会抄録集、42、2012

高橋久子、西村真実子、母親の原因帰属傾向が育児困難と子どもの気質の捉え方に及ぼす影響、第 59 回日本小児保健協会学術集会、岡山市、2012.9、第 59 回日本小児保健協会学術集会講演集、71、140、2012

西村真実子、シンポジウム『現場のニーズや小児看護スペシャリストの活動から考える看護の役割～これから私たちができること～』（学会長・座長）、日本小児看護学会第 12 回地方会（北陸地区）、金沢市、2013.3、日本小児看護学会第 12 回地方会（北陸地区）資料、2013

西村真実子、学会企画：共同研究発表（座長）、第 6 回看護実践学会学術集会、金沢市、2012.9、第 6 回看護実践学会学術集会講演集、2012

子吉知恵美、重症心身障害児の保護者のレスパイトに関わる援助ニーズと看護師の支援、日本地域看護学会、東京、2012、日本地域看護学会第 15 回学術集会講演集、105、2012

子吉知恵美、発達障害児の保護者・家族に対する保健師による子どもの発達障害の受容支援、日本家族看護学会、東京、2012、日本家族看護学会第 19 回学術集会プログラム抄録集、140、2012

子吉知恵美、発達障害児の早期支援と支援継続に向けた保護者・家族に対する多職種による支援、日本公衆衛生学会、山口、2012、日本公衆衛生雑誌 第 71 回日本公衆衛生学会総会抄録集、309、2012

望月美也子、長谷川昇、緑茶カテキンサプリメントの摂取が高齢女性の骨密度と身体組成に及ぼす影響、第 67 回日本体力医学会、岐阜、2012.9

佐藤英成、青山南圭、長谷川昇、ハンセン病療養所入所者と同年代高齢者における骨密度の比較検討、第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012.11

望月美也子、梅琳、長谷川昇、非アルコール性脂肪肝炎モデルラットにおけるピクノジェノールの肝機能低下緩和効果、日本薬学会第 133 年会、横浜、2013.3

中山晴恵、林 一美、訪問看護師が活用できる退院サマリーの検討、第 6 回看護実践学会学術集会、2012.9.22、第 6 回看護実践学会学術集会講演集、54-55、2012

彦聖美、金川克子、大木秀一、石川県における高齢期の妻や親を介護する男性介護者の続柄別にみた特徴、第 71 回日本公衆衛生学会、山口、2012.10、日本公衆衛生雑誌、第 71 回日本公衆衛生学会総会抄録集、59（10）、398、2012

彦聖美、大木秀一、石川県内の各地域における高齢期の妻や親を介護する男性介護者の実態、第23回日本疫学会学術総会、大阪、2013.1、Journal of Epidemiology、23、156、2013

彦聖美、鈴木 祐恵、金川克子、18 訪問看護ステーションを利用する要介護者を介護する男性の実態と介護に対する意識、第17回日本在宅ケア学会学術集会、茨城、2013.3、第17回日本在宅ケア学会学術集会抄録集、17、143、2013

牧野智恵、岩城直子、The ‘Meaning of Life’ of Patients Undergoing Outpatient Chemotherapy: from the Analysis of PIL Tests、17TH INTERNATIONAL CONFERENCE on CANCER NURSING、Prague、2012.9、17TH INTERNATIONAL CONFERENCE on CANCER NURSING、149、2012

山瀬勝巳、牧野智恵、外来がん化学療法感患者への訪問看護導入の試み、第27回日本がん看護学会学術集会、金沢、2013、第27回日本がん看護学会学術集会講演集、168、2013

丸岡直子、鈴木みずえ、水谷信子、岡本恵理、谷口好美、小林小百合、認知症高齢者に対する転倒予防ケアの臨床判断の構造とプロセス、第13回日本認知症ケア学会大会、浜松、2012.5、日本認知症ケア学会誌、第13回認知症ケア学会大会プログラム・抄録集、11(1)、327、2012

池田富三香、丸岡直子、田甫久美子、日常倫理からみた看護師が行う排泄援助、第16回日本看護管理学会年次大会、札幌、2012.8、第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集、157、2012

吉田千文、伊藤隆子、雨宮有子、丸谷美紀、石橋みゆき、樋口エキ子、山田雅子、丸岡直子、洞内志湖、田甫久美子、リフレクションを中核とした退院支援プログラム試案の評価ー運営アンケートからー、第16回日本看護管理学会年次大会、札幌、2012.8、第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集、103、2012

雨宮有子、吉田千文、伊藤隆子、丸谷美紀、石橋みゆき、樋口エキ子、山田雅子、丸岡直子、洞内志湖、田甫久美子、リフレクションを中核とした退院支援プログラム試案の評価ー参加者の自己評価からー、第16回日本看護管理学会年次大会、札幌、2012.8、第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集、107、2012

山田雅子、吉田千文、丸岡直子、他5名、(インフォメーション・エクステンジ)病院の壁を越えた調整力を持つ看護師の育成を考えるー看護系大学3校が展開する退院調整看護師育成プログラムの実践からー、第16回日本看護管理学会年次大会、札幌、2012.8、第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集、250、2012

丸岡直子、川島和代、下嶋恵美子、向井孝子、尾崎真裕美、古本桂子、洞内志湖、(交流セッション)退院調整ー活動質指標の活用と組織強化ー、第6回看護実践学会学術集会、かほく市、2012.9、第6回看護実践学会学術集会講演集、77、2012

寺井梨恵子、田甫久美子、丸岡直子、(交流セッション)転倒リスク認知ー視覚情報の定量化ー、第6回看護実践学会学術集会、かほく市、2012.9、第6回看護実践学会学術集会講演集、79、2012

雨宮有子、諏訪部高江、吉田千文、樋口エキ子、伊藤隆子、丸谷美紀、石橋みゆき、丸岡直子、リフレクションを中核とした退院支援プログラム試案の評価ー退院調整の実施状況調査からー、第32回日本看護科学学会学術集会、東京、2012.12、第32回日本看護科学学会学術集会講演集、248、2012

藤田三恵、中田弘子、川島和代、丸岡直子、看護学生の食生活改善教育プログラムの評価、第32回日本看護科学学会学術集会、東京、2012.12、第32回日本看護科学学会学術集会講演集、402、2012

仁尾悦子、濱下美智子、村井嘉子他、嚔下障害を有する患者の介護者が胃瘻増設を決心するまでのプロセス、日本老年看護学会第 17 回学術集会、金沢市、2013、日本老年看護学会第 17 回学術集会抄録集、86、2013

吉田和枝、南タイにおける青年期女性の出産に関する意識、第 53 回日本母性衛生学会学術集会、福岡、2012. 11、日本母性衛生学会学術集会、292、2012

吉田和枝、フランスの青年期女性の産痛に対する意識調査、第 53 回日本母性衛生学会学術集会、福岡、2012. 11、日本母性衛生学会学術集会、292、2012

吉田和枝、米田昌代、曾山小織、交流セッション「楽しい孫育て教室」の実践紹介、第 6 回看護実践学会学術集会、石川、2012. 9、第 6 回実践学会学術集会講演集、78、2012

米田昌代、児を亡くした母親の体験談を聴くことでの学生の思いと学び、第 53 回日本母性衛生学会総会、福岡、2012. 11、第 53 回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集母性衛生、53(3)、240、2012

## 4.5 研究助成

浅見洋、諸岡了介、伊藤智子、中村順子、ルーラルにおける住民の死生観と終末期療養ニーズの変容に関する総合的研究、平成 23-27 年度、科学研究補助金基盤研究(B) 一般

浅見洋、志村恵、ドイツ語圏のゼーゾルゲにおける悲哀の理解研究、平成 23-24 年度、科学研究補助金挑戦的萌芽

竹ノ内裕文、浜渦辰二、浅見洋ほか、世俗化する欧州社会における看取りの思想的な拠り所の究明、平成 24-26 年度、科学研究費補助金基盤研究(B)海外

東雅代、西村真実子、子どもに寄り添うデスエデュケーションの検討、平成 24-26 年度、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究))

樫田美雄、阿部智恵子、臨床教育のビデオエスノグラフィー 高等教育における臨床教育場面の経験的比較研究、平成 21-24 年度、科学研究費補助金基盤研究(B)

阿部智恵子、母と子の相互行為分析から「育つこと」「育てられること」を捉えなおす、平成 23-25 年度、科学研究費補助金挑戦的萌芽研究

石垣和子、家族支援を効果的に進める家族ビリーフアセスメント方法の開発、平成 23-25 年度、科学研究費補助金 基盤研究(B)

石垣和子、半島地域看護の創出に関する研究、平成 24 年度、石川県立看護大学学内研究助成

岩城直子、牧野智恵、放射線療法中のがん患者への P I L テストを用いた看護介入プログラムの効果、平成 24-26 年度、科学研究費補助金基盤研究(C)

大木秀一、彦聖美、ライフコースアプローチによる健康格差の世代間伝達に関する実証的研究、平成 23-24 年度、科学研究費挑戦的萌芽研究

大木秀一、彦聖美、双生児家系世代間長期縦断データによる成人期以降発症疾患のライフコース遺伝疫学研究、平成 24-26 年度、科学研究費基盤研究(B)

大木秀一、彦聖美、志村恵、青木三枝子、河原廣子、玄田朋恵、山岸和美、天羽千恵子、多胎育児家庭に対する妊娠中からのメンタルサポートプログラムの開発と評価、平成 24 年度、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター調査研究事業

大木秀一、多胎育児家庭に対する妊娠中からの組織的なメンタルサポート事業、(NPO 法人いしかわ多胎ネット：代表者 大木秀一)、平成 24 年度、公益財団法人キリン福祉財団キリン・子育て公募助成

大木秀一、ファミリーサポートセンター提供会員に対する多胎育児支援スキルアップ講座開催業、(NPO 法人いしかわ多胎ネット：代表 大木秀一)、平成 24 年度、社団法人生命保険協会子育て家庭支援団体に対する助成活動

織田初江、地域における糖尿病保健指導のためのエンパワーメント尺度の標準化のための基礎的研究、平成 22-24 年度、科学研究費補助金基盤研究 (C)

垣花渉、コミュニティ形成を通じた道の駅活性化—健康菓子・弁当の創出を基盤に—、平成 24 年度、平成 24 年度地域課題研究ゼミナール支援事業 (大学コンソーシアム石川)

垣花渉、かほく市発ヘルスプロモーション—食と運動を通じた地域づくり—、平成 24 年度、平成 24 年度石川県民間非営利団体活動支援事業地域連携促進事業 (石川県県民文化局県民交流課)

垣花渉、興津創造の会、棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり、平成 24 年度、食と地域の交流促進対策交付金 (農林水産省)

北山幸枝、須釜淳子、中谷壽男、低蛋白血症ラットにおける褥瘡発生機序解明のための病態モデル開発、平成 24-25 年度、平成 24 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 挑戦的萌芽研究

松井優子、坂井恵子、真田弘美、須釜淳子、紺家千津子、木森佳子、点滴静脈内注射の血管外漏出の有無の客観的指標の開発、平成 24-25 年度、科学研究費助成金挑戦的萌芽研究

曾根志穂、神経難病患者と介護サービス事業者への保健師による在宅療養支援方法の検討、平成 24-26 年度、科学研究費補助金・基金助成金 (若手研究 (B))

曾山小織、米田昌代、吉田和枝、東雅代、妊婦のセルフケア行動を促進する要因の検討とガイドラインの作成、平成 23-25 年度、科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究

高山成子、大津美香、渡辺陽子、認知症高齢者の入浴困難、徘徊、収集行動の看護プロトコルの臨床適用、平成 22-24 年度、科学研究費補助金基盤研究 (C) (2)

高山成子、小河育恵、久米真代、加藤康子、がん終末期の認知症高齢者の主観的体験、平成 24 年度、笹川財団

久保田真美、加藤康子、小河育恵、高山成子、在宅でがんターミナル期を過ごす認知症高齢者の介護困難の現状、平成 24 年度、勇美財団

高山成子、中道淳子、川端祥子、油野聖子、小林宏光、中村美穂、落合庸子、認知症高齢者の疼痛評価としての唾液アミラーゼの有効性—一般高齢者と認知症高齢者の大腿骨転子部骨折術後疼痛評価を通して、平成 24 年度、学内研究助成

多久和典子、「スフィンゴシン-1-リン酸情報伝達系による癌血管新生・血行転移、虚血後血管新生の制御」、平成 23-25 年度、科学研究費補助金基盤研究 (C)

谷本千恵、角田雅彦、石井了恵、坂上章、Noel J. Chrisman、川村みどり、相川竜子、大江真吾、能登地区の精神障がい者の地域移行・定着支援の現状と課題に関する研究—人口過疎地における精神障がい者の地域生活支援システム開発に向けた基礎的研究—、平成 24 年度、石川県立看護大学付属地域ケア総合センター調査研究事業

田甫久美子、油野聖子、釜谷友紀、山崎松美、疾病イメージを活用した若年男性労働者の体重増加およびメタボリックシンドロームの予防的研究、平成 24 年度、三谷研究開発支援財団助成金

寺井梨恵子、看護師の転倒リスク場面における視覚情報の取り込みと臨床判断、平成 24-25 年度、科学研究費補助金若手研究(B)

中田弘子、川島和代、小林宏光、田村幸恵、三輪早苗、電解微酸性水による拘縮手の手浴が皮膚上有機物に及ぼす影響、平成 24-26 年度、科学研究費助成補助金 基盤研究 (C)

西村真実子、米田昌代、堅田智香子、東雅代、曾山小織、伊達岡五月、吉田和枝、母の自己効力感を高めるペアレンティング・プログラム第 3 版の開発：育児不安や困難に悩む母を対象とした「親育ち子育てを考える会」の評価、平成 24 年度石川県立看護大学学内助成金

子吉知恵美、5 歳児健診実施地の発達障害児の早期支援・支援継続への保健師の援助方法の実証的研究、平成 24-26 年度、科学研究費補助金若手研究 (B)

長谷川昇、男性更年期の記憶力や活動量の低下を緩和する運動トレーニングの検討、平成 22-24 年度、科学研究費補助金基盤研究 (C)

林一美、井上智可、ケアマネジャーの介護者支援に関する力量形成教育プログラムの開発、平成 23-25 年度、科学研究助成事業 (挑戦的萌芽的研究)

林一美、川島和代、田中克恵、中山晴恵、在宅における介護職員等によるたんの吸引等の実施に関する研究、平成 24 年度、石川県立看護大学地域ケア総合センター調査研究事業

彦聖美、鈴木祐恵、大木秀一、就労男性の家族介護に関する意識や準備に関する調査、平成 24 年度、石川県立看護大学学内研究助成

彦聖美、鈴木祐恵、大木秀一、男性介護者に対する料理教室を通じた交流の促進によるエンパワーメント発展過程の分析、平成 24-25 年度、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 (2012 年度後期)

牧野智恵、がん患者とその子供への支援プログラムの開発—芸術療法と P I L テストの導入の試み、平成 24 年度-27 年度、科学研究費補助金基盤研究 (C)

平優子・牧野智恵、「在宅で過ごしている胃がん患者と家族員への食への支援—料理教室を取り入れたがんサロンの開催を通して—」、平成 24 年度、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

丸岡直子、村井嘉子、川島和代、藤田三恵、洞内志湖、寺井梨恵子、木村久恵、新人看護師の転倒リスク認知・リスク回避教育プログラムの開発、平成 22-25 年度、科学研究費補助金 (基盤研究 (C) )

鈴木みずえ、泉キヨ子、丸岡直子、加藤真由美、岡本理恵、谷口好美、平松知子、小林小百合、臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質指標の開発、平成 22-25 年度、科学研究費補助金 (基盤研究 (B) )

丸岡直子、石垣和子、川島和代、田甫久美子、田村幸恵、松本昌子、和田出静子、吉野幸枝、浅見美千江、元尾サチ、池野二三子、中田恵子、石川県下の看護師の離職・再就業の動向とその背景要因、平成 24 年度、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター調査研究事業

山岸映子、過疎地域における里帰り分娩に対するソーシャルサポートに関する研究、平成 24-26 年度、科学研究費補助金挑戦的萌芽研究

米田昌代、周産期の死を経験した母親・家族を社会全体で支えるシステム開発に関する研究、平成 23-25 年度、科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 挑戦的萌芽

## 4.6 社会活動・地域貢献

- 浅見洋、西田哲学会理事、
- 浅見洋、日本宗教学会理事
- 浅見洋、比較思想学会評議員、北陸支部会長
- 浅見洋、北陸宗教文化学会会長、編集委員
- 浅見洋、医学哲学・倫理学会 運営委員、2012. 11-
- 浅見洋、公益信託能登町エンデューバーファンド2 1 運営委員、能登町
- 浅見洋、西田幾多郎博士頌徳会理事、かほく市
- 浅見洋、石川県西田幾多郎記念哲学館運営委員、会長代理、かほく市
- 浅見洋、石川県地域連携促進事業（高等教育機関連携特別枠）来人喜人里創り創成プロジェクト事業・代表、石川県立看護大学、2011. 9-2013. 3
- 浅見洋、シティカレッジ「生と死の倫理学」（講義）、大学コンソーシアム石川、しいのき迎賓館、2012. 9-11
- 浅見洋、北國新聞主催「感想文コンクールコンクール 新聞を読んで」審査員、北國新聞社、北國新聞会館、2011. 9-
- 浅見洋、第31回医学哲学・倫理学会実行委員長、医学哲学・倫理学会、金沢大学、2011. 11-
- 浅見洋、西田哲学と鈴木禅学の現代性－宗教理解－（講演）、石川県民大学（専門講座）西田幾多郎、石川県西田幾多郎記念哲学館、2012. 5
- 浅見洋、〈弱さ〉を勁さに ～緩和ケアを考える（シンポジウム座長）、ホスピス緩和ケアフォーラム in 金沢、ホテル金沢、2012. 10
- 浅見洋、高齢者の死生観について（講義）、石川県分野別実践看護師養成研修（認知症看護）、石川県立高松病院、2012. 10
- 浅見洋、西田幾多郎の生涯－京都学派の誕生（講演）、石川県民大学（専門講座）西田幾多郎講座、石川県西田幾多郎記念哲学館、2012. 10
- 浅見洋、鈴木大拙を知る（講演）、日本・ニュージーランド文化交流会、石川国際交流サロン、2011. 7
- 浅見洋、日本哲学史における論理について（司会、招待討議者）、土井道子記念京都哲学基金シンポジウム、京都グランドパレス、2012. 12
- 浅見洋、終末期のケアについて・介護職の役割（講演、シンポジウム座長）、平成24年度石川県介護福祉会第5回課題研修、金城大学、2013. 2
- 浅見洋、地域住民の死生観と終末期療養ニーズについて（講演）、平成24年度在宅医療連携拠点事業講演会、白山市鶴来総合文化会館クレイン、2013. 2
- 浅見洋、ドイツにおける社会福祉の現状（講演）、石川県社会福祉士会能登ブロック研修会、石川県立看護大学、2013. 3
- 東雅代、かほく市保育園施設運営等検討委員会委員
- 阿部智恵子、かほく市地域自立支援協議会委員、2012. 10

阿部智恵子、オープンキャンパス模擬授業「社会の発見」～身の回りの「あたりまえ」をみ直してみよう！！～、大学コンソーシアム石川、金沢伏見高等学校、2012.12

阿部智恵子、オープンキャンパス模擬授業「社会の発見」～身の回りの「あたりまえ」をみ直してみよう！！～、大学コンソーシアム石川、富山県立呉羽高等学校、2013.3

阿部智恵子、JICA 日系研修アクションプラン作成のサポート、地域ケア総合センター、2012.8

石垣和子、日本老年看護学会第17回学術集会 学術集会長、日本老年看護学会第17回学術集会 企画委員会、石川県立看護大学、2011.4-2012.12

石垣和子、日本老年看護学会第17回学術集会 学術集会長講演「”当事者学”に触れて見直す老年看護学」、日本老年看護学会第17回学術集会 企画委員会、金沢・歌劇座、2012年9月

石垣和子、教育講演「地域医療・在宅看護から回復期リハビリテーションに望むこと」、回復期リハビリテーション病棟協会 第21回研究大会 in 金沢、金沢・歌劇座、2013年3月

石垣和子、石川県医療審議会 委員

石垣和子、石川県医療計画委員会 委員

石垣和子、石川県安全安心サポート 委員長

石垣和子、石川コンソーシアム理事

石垣和子、沖縄県立看護大学 外部評価委員

石垣和子、日本家族看護学会 理事長

石垣和子、日本ルーラルナーシング学会 副理事長

石垣和子、文化看護学会 理事

石垣和子、日本老年看護学会 理事

石垣和子、日本看護科学学会 理事

石垣和子、日本看護技術学会 幹事

石垣和子、日本在宅ケア学会 評議員

石垣和子、日本地域看護学会 査読委員

井上智可、平成24年 JICA 日系研修事業、石川県立看護大学付属地域ケアセンター、石川県立看護大学付属地域ケアセンター、2012.6

今井美和、大学コンソーシアム石川 情報発信部会員

今井美和、子宮頸がん HPV、石川県立七尾高等学校スーパーサイエンスハイスクール、石川県立七尾高等学校、2012.1

今井美和、日本臨床細胞学会 石川県支部幹事

今井美和、日本病理学会 学術評議員

岩城直子、運営委員、司会、がん看護における臨床倫理事例検討会、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン、ホテル金沢、2012.9

岩城直子、企画委員、第6回看護実践学会学術集会、石川県立看護大学、2012.9

岩城直子、企画委員、第27回日本がん看護学会学術集会、県立音楽堂、2013.2

岩城直子、企画委員、第27回日本がん看護学会学術集会座長、県立音楽堂、2013.2

大木秀一、日本公衆衛生学会、査読委員

大木秀一、日本民族衛生学会、査読委員・評議員

大木秀一、日本小児保健学会、査読委員

大木秀一、日本双生児研究学会、幹事



大木秀一、The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research、Reviewer  
大木秀一、Journal of Epidemiology、Reviewer  
大木秀一、日本衛生学会、双生児医学連携研究会 世話人  
大木秀一、NPO 法人 日本多胎支援協会、理事  
大木秀一、NPO 法人 いしかわ多胎ネット、理事長  
大木秀一、東京大学教育学部附属中等教育学校、双生児特別検査 委員  
大木秀一、石川県公害審査会委員  
大木秀一、羽咋市健康づくり基本計画策定委員会 委員  
大木秀一、講師、ピアサポーター養成講座、NPO 法人いしかわ多胎ネット、こまつ NPO センター、  
 2012. 5  
織田初江、石川県新任保健師研修会、石川県健康推進課、金沢市、2012. 8、2013. 2  
織田初江、富山県新任保健師研修会、富山県医務課、富山市、2012. 9  
織田初江、富山県地域保健関係職員キャリアアップ研修、富山県医務課、富山市、2012. 6、2012. 8、  
 2012. 11、2013. 1  
織田初江、介護支援専門員研修、宝達志水町地域包括支援センター、宝達志水町、2012. 10  
織田初江、加賀市健康福祉審議会健康分科会委員、加賀市、2012. 4-2013. 3  
織田初江、宝達志水町介護認定審査委員、宝達志水町、2012. 4-2013. 3  
織田初江、津幡町健康づくり推進協議会委員、津幡町、2012. 4-2013. 3  
織田初江、かほく市地域包括支援センター運営協議会委員、かほく市、2012. 4-2013. 3  
垣花渉、日本体力医学会、学会評議員  
垣花渉、平成 24 年度食と地域の交流促進対策交付金事業、プロジェクトマネージャー、農林水  
 産省  
垣花渉、平成 24 年度石川県民間非営利団体活動支援事業「地域連携促進事業」、代表者、石川  
 県県民文化局県民交流課  
垣花渉、平成 24 年度いしかわり山創成ファンド事業助成金事業、分担研究者、いしかわり山づ  
 くり推進協議会  
垣花渉、石川県広域スポーツ支援センター「クラブネットいしかわ」、運営委員会委員、石川県  
 教育委員会スポーツ健康課  
垣花渉、NPO 法人クラブパレット、アドバイザー、NPO 法人クラブパレット、石川県かほく市  
垣花渉、講師、公開専門講座講師、「地域を舞台にした健康づくり」、国立台北護理健康大学  
 旅遊健康研究所、石川県立看護大学、2012. 4  
垣花渉、講師、シティーカレッジ授業 「石川の市町」、大学コンソーシアム石川、金沢市、  
 石川県政記念しいのき迎賓館、2012. 6  
垣花渉、講師、石川県地域スポーツ指導者養成講習会講師、「中高齢者の体力とスポーツ指導」、  
 石川県教育委員会スポーツ健康課、いしかわ総合スポーツセンター、2012. 7  
垣花渉、代表者、石川県立看護大学公開フォーラム「かほく発みんなで支える健康なまち」、  
 石川県立看護大学垣花研究室、石川県立看護大学、2012. 12  
堅田智香子、石川県実習指導者講習会、小児看護学、社団法人 石川県看護協会、石川県看護協  
 会看護研修センター、2012. 8. 9、2012. 8. 9

堅田智香子、曾山小織、親育ち支援プログラム(再会)「ノーバディズ・パーフェクト(完璧な親なんていない!)」のファシリテーター、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター、地域ケア総合センター、2012.4.25、6.26

堅田智香子、村田久美子、親育ち支援プログラム(再会)「ノーバディズ・パーフェクト(完璧な親なんていない!)」のファシリテーター、金沢市子ども家庭支援センター、金沢市子ども家庭支援センター、2012.7.4、10.2、2013.2.5(計3回)

堅田智香子、石川県看護教員養成課程「看護教育方法論」「小児看護学」石川県立看護大学附属地域ケア総合センター、石川県立看護大学、2012.8.9、2012.6.13

加藤亜妃子、講師、公立宇出津総合病院 看護研究 助言・講評等、公立宇出津総合病院、公立宇出津総合病院、2012.6.29、12.3、2013.2.22

加藤亜妃子、講師、看護研究に必要な統計学について、公立宇出津総合病院、公立宇出津総合病院、2012.8.21

加藤亜妃子、第6回看護実践学会学術集会実行委員、2012.9

川村みどり、母子保健推進員育成講座 講師、輪島市、輪島市ふれあい健康センター、2012.12

川村みどり、看護研究指導、石川県立高松病院、石川県立高松病院、2012.5~2013.2

川村みどり、かほく市介護認定審査会委員、かほく市、かほく市役所、2012.4~2013.3

川村みどり、第6回看護実践学会学術集会 実行委員、査読委員、第6回看護実践学会学術集会事務局、石川県立看護大学、2012.9

川村みどり、支部研修(看護学術集会)講師、日本精神科看護技術協会 石川県支部、石川県立看護大学、2012.11

北山幸枝、日本褥瘡学会、評議員、編集委員

北山幸枝、第14回日本褥瘡学会学術集会、座長、横浜、2012.9

北山幸枝、平成24年度いしかわシティカレッジ「皮膚と排泄のケア Understanding Wound, Skin and Continence Care」、一般社団法人 大学コンソーシアム石川、石川県政記念しいのき迎賓館、2012.6-8

木村久恵、看護研究指導、公立能登総合病院、2012.6

木村久恵、看護研究発表会講評、公立能登総合病院、2013.2

鈴木祐恵、介護者の集い(懇談会)講師 在宅生活における看護観察、内灘町地域包括支援センター、内灘町役場、2012,09

鈴木祐恵、NPO 法人いしかわ在宅支援ねっと理事

小林宏光、日本生理人類学会、理事、編集委員

小林宏光、敦賀市立看護専門学校・卒業記念講演、敦賀市立看護専門学校、福井県敦賀市、2013.2

高山成子、講義、兵庫県看護協会認定看護師(認知症看護)、援助方法論Ⅲケアマネジメント、認知症看護と倫理、兵庫県看護協会、兵庫県看護協会研修室、2012.8

高山成子、講義、日本看護協会認定看護師(認知症看護)(援助方法論Ⅲケアマネジメント)、日本看護協会、清瀬看護研修センター、2012.8”

高山成子、講義、「認知症BPSDに対する看護について」、高松病院、2012.1

高山成子、日本老年看護学会評議員、編集委員、日本老年看護学会、2012.4-

高山成子、日本看護研究学会評議員、日本看護研究学会、2012.4-

高山成子、日本看護科学学会誌専任査読委員、日本看護科学学会、2012.4-

高山成子、医道審議会専門委員、厚生労働省、2012.6-

高山成子、後期高齢者医療懇話会副座長、石川県、2013.1

高山成子、日本老年看護学会第17回学術集会 一般公開フォーラム コーディネーター、日本老年看護学会、金沢歌劇座、2012.7

多久和典子、日本生理学会副会長（情報担当）編集広報委員長、日本生理学雑誌編集長、評議員

多久和典子、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2011-2012）

多久和典子、Journal of Biochemistry 論文審査委員

多久和典子、International Journal of Molecular Sciences 論文審査委員

多久和典子、金沢大学医学系研究科協力研究員

武山雅志、お話し相手ボランティア養成講座講師、お話を聴くことの基本について、かほく市社会福祉協議会、かほく市七塚健康福祉センター、2013.2

武山雅志、長寿社会部会講師、一人暮らし高齢者とのコミュニケーション、かほく市民生委員児童委員協議会、かほく市七塚健康福祉センター、2013.3

武山雅志、石川県看護協会認定看護管理者セカンドレベル研修講師、人的資源活用論ーストレスマネジメント・タイムマネジメントー、石川県看護協会、石川県看護協会研修センター、2012.12

武山雅志、金沢美術工芸大学学生相談室スーパーバイザー

武山雅志、石川県精神保健福祉協会理事

武山雅志、石川県精神保健福祉協会会報編集委員

武山雅志、石川県臨床心理士会会長

武山雅志、（財）いしかわ女性基金運営委員

武山雅志、金沢こころの電話相談役

武山雅志、公益社団法人石川被害者サポートセンター副理事長

武山雅志、石川県警察被害少年カウンセリングアドバイザー

武山雅志、かほく市不登校問題対策運営協議会委員

武山雅志、かほく市地域交通会議委員

武山雅志、石川県こころの緊急支援事業運営委員会委員、

武山雅志、金沢家庭裁判所委員会委員

武山雅志、学校法人 稲置学園 金沢星稜大学 非常勤講師

武山雅志、学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員

谷本千恵、かほく市障害者福祉計画策定委員会委員、かほく市健康福祉課、かほく市役所、2012.4-2013.3

谷本千恵、看護研究指導、石川県立高松病院、石川県立高松病院、2012.4-2013.3

谷本千恵、精神障がい者のセルフヘルプグループ活動支援(1回)、社会福祉法人なごみの郷、石川県立看護大学地域ケア総合センター、2012.4

谷本千恵、大学コンソーシアム石川出張オープンキャンパス講師「心の健康とは、心の看護とは」、大学コンソーシアム石川、飯田高等学校、2012.10

田甫久美子、臨床における看護研究の取り組みを理解するー研究プロセスを理解し、看護研究実践力を習得するー、金沢社会保険病院、金沢社会保険病院、2012.6

田甫久美子、看護研究の指導・助言、金沢社会保険病院、2012.7月（2回）、8月（2回）、10月、11月

田甫久美子、看護研究の指導・助言、浅ノ川病院、浅ノ川病院、2012.5月、7月、9月

田甫久美子、研究発表会講評、浅ノ川病院、浅ノ川病院、2012.11

田甫久美子、平成24年度「地域ささえあい事業」、養成講座「高齢者の心と身体を知る」 津幡町社会福祉協議会、津幡町役場、2012.11

田甫久美子、研究発表会講評、金沢社会保険病院、2013.2

塚田久恵、かほく市健康づくり推進協議会委員、かほく市、2012.6、2012.11

塚田久恵、加賀市高齢者社会参加・生きがいに関する調査の助言、加賀市、県立看護大学内、2012.8

塚田久恵、石川県看護協会看護師職能委員会Ⅱ「介護施設における見取りケア」にかかわる看護職員の調査に関する分析助言、石川県看護協会看護師職能委員会Ⅱ、県立看護大学内、2012.12

塚田久恵、パラグアイ・ボリビア日系研修講義・アクションプラン作成における助言指導、当大学附属地域ケア総合センター、当大学附属地域ケア総合センター談話室、2012.8

塚田久恵、講演「災害看護を考えるー東日本大震災被災地からのメッセージ」司会進行、当大学附属地域ケア総合センター、県立看護大学大講義室、2012.11

塚田久恵、石川県看護教員養成研修会(保健師教育課程概論2回)講師、石川県医療対策課(委託事業)、当大学附属地域ケア総合センター研修室、2012.6

塚田久恵、石川県看護協会看護師職能委員会Ⅱ研修会「介護施設における看取り」研修会講師、石川県看護協会、県立中央病院健康教育館、2012.11

塚田久恵、新任保健師研修会(第1回)「保健指導における援助計画の立案」等 講師、石川県健康福祉部健康推進課、石川県庁内会議室、2012.8

塚田久恵、新任保健師研修会(第2回)「保健指導における援助計画の立案」講師、石川県健康福祉部健康推進課、石川県庁内会議室、2012.8

塚田久恵、新任保健師研修会(第3回)「個別の健康課題から地域の健康課題を明らかにする」講師、石川県健康福祉部健康推進課、石川県庁内会議室、2013.2

塚田久恵、大学コンソーシアム石川「出張オープンキャンパス」模擬授業講師、石川県立金沢伏見高等学校(依頼先)、石川県立金沢伏見高等学校、2012.11

塚田久恵、第17回日本老年看護学会事務局(プログラム委員)、学会事務局、石川県立看護大学内、金沢歌劇座、金沢21世紀美術館、2012.7

塚田久恵、第8回日本ルーラルナーシング学会事務局委員(開催準備)、学会事務局、石川県立看護大学内、和倉温泉観光会館、2013.1~

塚田久恵、日本公衆衛生看護学会学術集会実行委員、学会事務局、北海道大学大学院内、首都大学東京荒川キャンパス、2013.1

中田弘子、看護部職員研修 講師、公立羽咋病院看護部、公立羽咋病院、2012.7.18、10.18、2013.2.21、3.21

中田弘子、石川県看護教員養成講習会 専門領域別看護演習 講師、石川県、石川県立看護大学、2012.6-7

中田弘子、模擬授業、大聖寺高等学校、2012.7.10

中田弘子、第6回看護実践学会学術集会事務局長、看護実践学会、石川県立看護大学、2012.9.22

中田弘子、模擬授業、星稜高等学校、2012.10.22

中田弘子、第20回石川県看護学会講評者、石川県看護協会、石川県地場産業センター、  
2012.10.27

中田弘子、看護実践力向上セミナー 第1回ジェネラリストのための事例検討、看護科学研究  
学会 北陸研修会 いしかわ学習会 運営責任者、石川県立看護大学、2012.11.10

中田弘子、石川県立大学・石川県立看護大学シーズ発表会発表者、石川県産業創出支援機構、石  
川県立大学、2012.12.18

中田弘子、看護実践力向上セミナー 第2回ジェネラリストのための事例検討、看護科学研究  
学会 北陸研修会 いしかわ学習会 運営責任者、石川県立看護大学、2013.1.12

西村真実子、代議員、日本小児保健協会、日本小児保健協会

西村真実子、代議員、日本看護科学学会、公益社団法人日本看護科学学会

西村真実子、理事、看護実践学会、看護実践学会事務局(金沢大学)

西村真実子、理事、石川県小児保健協会、石川県小児保健協会事務局(金沢大学)

西村真実子、審査委員、石川県奨学生選考審査会、石川県教育委員会、石川県庁行政庁舎、2012.8

西村真実子、理事(副代表)、相談員、NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク石川、NPO 法人  
子どもの虐待防止ネットワーク石川

西村真実子、実行委員、老人保健施設「なでしこの丘」まちの保健室事業、石川県看護協会  
老人保健施設「なでしこの丘」老人保健施設

西村真実子、運営委員、北陸小児糖尿病サマーキャンプ、北陸小児糖尿病サマーキャンプ運営委  
員会事務局(金沢大学)、金沢大学医学部保健学科

西村真実子、専門家チーム委員、石川県要保護児童対策協議会、石川県健康福祉部少子化対策監  
室、石川県庁行政庁舎、2012.4~2013.3

西村真実子、講師、平成24年度児童福祉司養成研修「児童虐待援助論」、石川県健康福祉部  
少子化対策監室、石川県庁行政庁舎、2012.8

西村真実子、委員、平成24年度金沢市少子化対策推進会議、金沢市福祉健康局こども福祉課、金  
沢市議会全員協議会室、2012.4~2013.3

西村真実子、講師、金沢こころの電話 第37期電話カウンセラー養成セミナー「子ども虐待など」、  
社団法人金沢こころの電話、金沢市歌劇座、2012.12

西村真実子、ファシリテーター、「どろっぶ・イン・さろん」の開催(1回/1か月・全5日間)  
「ノーバディーズ・パーフェクト(NP)」フォローアッププログラム「親育ち子育てを考える会」  
(全5回)、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター、聞善寺(金沢市)、2012.8~2012.12

西村真実子、ファシリテーター、平成24年度「自分らしい子育て講座」親育ち支援プログラム「ノ  
ーバディーズ・パーフェクト(完璧な親なんかいない!)」プログラム(全6回)、小松市  
いきいき健康課、小松市すこやかセンター、2012.8~2012.10

西村真実子、講師、母親向け子育て塾 はぐはぐ子育て塾「叱らない子育て」、NPO 法人子育て  
支援はぐはぐそのままでいいよ、金沢市教育プラザ富樫、2012.11

西村真実子、講師、福井県臨床心理士子育て支援勉強会「ノーバディーズ パーフェクト プロ  
グラムについて」、福井県臨床心理士会、福井県 AOSSA、2012.4

西村真実子、委員、第1回医道審議会保健師助産師看護師分科会 保健師助産師看護師国家試験  
出第基準改訂部会、厚生労働省医政局看護課、厚生労働省 会議室 2012.7/9/11/11/2013.2 計  
5回

西村真実子、査読委員、第 32 回日本看護科学学会学術集会一般演題査読、第 32 回日本看護科学学会学術集会運営事務局（慶應義塾大学看護医療学部）、2012. 7

西村真実子、策定専門部会委員、新・金沢市男女共同参画推進行動計画、金沢市男女共同参画室、金沢市役所、2012. 7-2013. 3

子吉知恵美、看護研究指導および看護研究発表会講評、珠洲市総合病院、珠洲市総合病院、2012. 6. 30、10、5、2013. 2. 2

野村潤、石川県立看護大学地域ケア総合センター人材育成事業による公開講座講師「医療・看護英語を楽しむ シリーズ I」、石川県立看護大学地域ケア総合センター、石川県立看護大学、2013. 7-2013. 8

野村潤、『ことばの科学研究』第 14 号査読委員、ことばの科学会、2013. 11

長谷川昇、ロコモを防ぐ食事と運動-姿勢を維持して若々しく-、能登町食生活改善推進協議会、能登町役場、2012. 5

長谷川昇、石川県食品技術研究者ネットワーク 幹事、石川県

Hasegawa N、Editor-in-Chief: Health Care、Sciknow publication, New York, USA

Hasegawa N、Reviewer: J Ethnopharmacology、Elsevier

Hasegawa N、Reviewer: Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology、John Wiley & Sons, Inc.

Hasegawa N、Reviewer: Food and Chemical Toxicology、Elsevier

Hasegawa N、Reviewer: Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine、Hindawi Publishing Corp. New York, USA

Hasegawa N、Reviewer: Journal of Chinese Integrative Medicine、JCIM Press, China

林一美、石川県看護教員養成講習会講師、石川県、石川県立看護大学、2012. 6. 6・19、7. 4

林一美、日本老年看護学会第 17 回学術集会企画委員、日本老年看護学会、金沢歌劇座・21 世紀美術館、2012. 7. 14-15

林一美、石川県介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修会講師、石川県、石川県立看護大学、2012. 8. 18-. 19

林一美、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター講師「災害時の健康問題と看護」、石川県立看護大学、石川県立看護大学、2012. 8. 25

林一美、第 6 回看護実践学会学術集会企画委員/一般演題講評、看護実践学会、石川県立看護大学、2012. 9. 22

林一美、第 20 回石川看護学会 「病院からつなげる安心できる在宅ケア」シンポジウムコーディネーター、石川県看護協会、石川県地場産業振興センター、2012. 10. 27

林一美、石川県国民健康保険連合会介護サービス苦情処理委員、石川県国民健康保険連合会、石川県国民健康保険連合会 会議室、2012. 4-2013. 3(1 回/月)

林一美、津幡町介護認定審査会委員、津幡町、津幡町庁舎、2012. 4-2013. 3(1 回/月)

林一美、かほく市地域密着型サービス運営協議会委員長、かほく市、かほく市庁舎

林一美、石川県看護協会災害看護委員会委員、石川県看護協会、石川県看護協会

林一美、羽咋市国民健康保険運営協議会委員、羽咋市国民健康保険運営協議会、羽咋市役所

林一美、かほく市高松訪問看護運営委員、石川県医療在宅ケア事業団、かほく市女性センター

林一美、羽咋郡市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委員会委員、羽咋郡市広域圏事務局組合

彦聖美、日本糖尿病看護教育学会、査読委員、日本糖尿病看護教育学会、2011.4～継続

彦聖美、白山ろく・鶴来在宅医療連携協議会アドバイザー、白山ろく・鶴来在宅医療連携協議会、公立つるぎ病院、2012.4～

彦聖美、石川県医師会在宅医療推進事業委員、石川県医師会、石川県医師会館、2012.4～

彦聖美、講師 平成24年度石川県看護協認定看護管理者教育課、「情報テクノロジー」、石川県看護協会、石川県看護協会、2011.11

彦聖美、講師、厚生労働省在宅医療連携拠点事業「多職種連携パートナーシップ推進セミナー（4回）」、公立つるぎ病院、2011.8～12

彦聖美、講師、平成24年度第一回内灘町介護者の集い「免疫力を高めて元気に暮らそう」、内灘町、内灘町庁舎、2011.8

彦聖美、講師、JICA研修 パラグアイ・ブラジル日系研修講師、JICA 北陸、石川県立看護大学、2011.7～8

彦聖美、シンポジスト、心身リフレッシュと癒しフェアシンポジウム「生きるを支える」、NPO 法人チーム医療推進全国ネットワーク、金沢市招龍亭、2011.11

彦聖美、講師、金沢市民生委員児童委員協議会実務研修会講師「在宅介護の現状と課題」、金沢市社会福祉協議会、エクセルホテル東急金沢、2011.11

彦聖美、講師、白山市ケアマネージャー研修会講師「根拠に基づく男性介護者支援」、白山市ケアマネージャー連絡協議会、白山市社会福祉会館、2011.12

彦聖美、講師、平成24年第10回羽咋市介護者交流サロン講師「男性介護者に対する支援」、羽咋市社会福祉協議会、コスモアイル羽咋、2012.2

彦聖美、NPO 法人 いしかわ在宅支援ねっと理事、NPO 法人 いしかわ在宅支援ねっと、石川県白山市、2011.12～継続

彦聖美、かほく市介護認定審査会審査員、かほく市、かほく市役所、2011.4～継続

彦聖美、コーディネーター、羽咋市社会福祉協議会「男性介護者のための介護食体験会（3回シリーズ）」、羽咋市社会福祉協議会、2011.11～12

彦聖美、コーディネーター、羽咋市社会福祉協議会「男性介護者との落語会と交流会」、羽咋市社会福祉協議会、2011.2

彦聖美、医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院看護研究指導および看護研究発表会講評、芳珠記念病院、2011.8月、12月、2012.3月

彦聖美、公立つるぎ病院看護研究指導および看護研究発表会講評、公立つるぎ病院、2011.7月、11月、2012.2月

牧野智恵、平成24年度電話相談技能研修（相談員矯正講座（第2課程） ①ロゴセラピー概論、死ぬこと生きること ②態度価値とな何か、生きる意味とは、福井こころの電話、福井県福祉センター、2012.7.7

牧野智恵、平成24年度電話相談技能研修（相談員矯正講座（第2課程） ②態度価値とな何か、生きる意味とは、福井こころの電話、福井県福祉センター、2012.7.28

牧野智恵、第6回看護実践学会学術集会 シンポジウム（座長）、看護実践学会、石川県立看護大学、2012.9.22

牧野智恵、 「がん患者の心のケア」、平成24年度看護師資質向上研修、金沢大学附属病院、  
2012.10.29

牧野智恵、ターミナルケア、財団法人メンタルケア協会、石川県文教会館、2102.11.23

牧野智恵、災害看護を考える 第2部 「ありがとうの出発点」企画・司会進行、石川県立看護  
大学附属地域ケアセンター、石川県立看護大学、2012.11.3

牧野智恵、北陸がんプロ事例検討会のアドバイザー 10回、「北陸高度がんプロチーム養成基  
盤推進プラン」、石川県立看護大学、2012.5-2013.3

牧野智恵、北陸がんプロ「リンパ浮腫の早期ケア」 企画・運営、「北陸高度がんプロチーム養  
成基盤推進プラン」、石川県立看護大学、2012.8.25-26

牧野智恵、北陸がんプロ「倫理事例検討会」 企画・座長、「北陸高度がんプロチーム養成基盤  
推進プラン」、ホテル金沢、2012.9.2

牧野智恵、看護研究における質的記述的研究、広島文化学園大学、広島文化学園大学、2013.1.24

牧野智恵、第27回 日本がん看護学会学術集会シンポジウム座長、日本がん看護学会、金沢市、  
2013.2.16-17

牧野智恵、北陸がんプロ企画「英国視察 ～ホスピス発祥の地を辿る～」企画・団長、北陸高度  
がんプロチーム養成基盤形成プラン、英国、2013.3.18-25

牧野智恵、日本がん看護学会 評議委員、2007-

牧野智恵、日本IPR研究会 運営委員・査読委員、2007-

牧野智恵、第27回 日本がん看護学会学術集会企画委員、2012

牧野智恵、第6回看護実践学会学術集会 査読委員、2012

牧野智恵、石川県在宅緩和ケア推進連絡協議委員、2007-

牧野智恵、福井、生と死を考える会 副代表、福井 生と死を考える会、2006-

牧野智恵、石川緩和ケア医療研究会 世話人、石川緩和ケア医療研究会、石川県地場産業会館、  
2010-

松原勇、富山大学・医学部・協力研究員、富山大学、富山大学、2012.4-2013.3

松原勇、高岡市立看護専門学校・非常勤講師、高岡市立看護専門学校、高岡市立看護専門学校、  
2012.4-2012.9

松原勇、富山赤十字看護専門学校・非常勤講師、富山赤十字看護専門学校、富山赤十字看護専門  
学校、2012.4-2012.9

丸岡直子、福井大学講師（認定看護師教育課程：リーダーシップ担当）、福井大学、福井大学医  
学部看護学科、2012.6

丸岡直子、石川県看護教員養成講習会講師（看護教育課程論）、石川県健康福祉部、石川県立看  
護大学、2012.4~5

丸岡直子、第6回看護実践学会学術集会企画委員・実行委員、2012.9

丸岡直子、石川県看護教員養成講習会講師（特別講義）、石川県健康福祉部、石川県立看護大  
学、2012.12

丸岡直子、石川県看護協会認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程講師（看護専門職論）、  
石川県看護協会、石川県看護研修センター、2012.11

丸岡直子、石川県看護協会認定看護管理者教育制度運営委員、石川県看護協会、2012

丸岡直子、日本看護研究学会 評議員、2012.7まで



- 丸岡直子、日本看護学教育学会 評議員、2012
- 丸岡直子、日本看護研究学会 査読委員、2012
- 丸岡直子、看護実践学会専任査読委員、2012
- 丸岡直子、石川県看護教員養成講習会検討委員会座長、石川県健康福祉部、2012
- 丸岡直子、石川県看護教員養成講習会運営委員、2012
- 丸岡直子、認定薬剤師研修制度委員会委員、石川県薬剤師協会、2012
- 丸岡直子、石川県看護協会 WLB 推進委員会委員、石川県看護協会、2012
- 丸岡直子、石川県立中央病院地域医療支援委員会委員、石川県立中央病院、2012
- 丸岡直子、日本老年看護学会第 17 回学術集会実行委員、2012
- 村井嘉子、日本クリティカルケア看護学会評議委員・査読員
- 村井嘉子、日本救急看護学会評議委員・査読員
- 村井嘉子、能美市立病院看護研究指導
- 村井嘉子、金沢脳神経外科看護研究指導
- 村井嘉子、石川県看護教員養成講習会講師
- 山岸映子、思春期講座講師、性感染症予防講座、輪島市、石川県立輪島高等学校、2012. 6. 20
- 山岸映子、生と性を考える講演会講師 性感染症について、石川県能登中部保健福祉センター、国際医療福祉専門学校、2012. 8. 7
- 山岸映子、JICA ベトナム青年研修「母子保健実施管理」コース 企画・実施、JICA、石川県立看護大学他、2012. 10. 25～11. 6
- 山岸映子、エイズ講演会講師、生と性を考える一性感染症について、石川県能登北部保健福祉センター、石川県立能登高等学校、2012. 11. 30
- 山岸映子、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター人材育成事業 医療・看護英語を楽しむ・シリーズⅡ-1、石川県立看護大学地域ケア総合センター、地域ケア総合センター研修室、2012. 11. 10
- 山岸映子、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター人材育成事業 医療・看護英語を楽しむ・シリーズⅡ-2、石川県立看護大学地域ケア総合センター、地域ケア総合センター研修室、2012. 11. 24
- 山岸映子、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター人材育成事業 医療・看護英語を楽しむ・シリーズⅡ-3、石川県立看護大学地域ケア総合センター、地域ケア総合センター研修室、2012. 12. 8
- 山岸映子、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター人材育成事業 医療・看護英語を楽しむ・シリーズⅡ-4、石川県立看護大学地域ケア総合センター、地域ケア総合センター研修室、2012. 12. 22
- 吉田和枝、曾山小織、米田昌代、祖父母の楽しい孫育て教室開催、石川県立看護大学地域ケア総合センター、女性センター、2012. 7
- 吉田和枝、長谷川昇、講演「更年期からの女性の健康」と骨密度測定、石川県宝達志水町女性会、石川県立看護大学、2012. 8
- 吉田和枝、女性高齢者のボランティア活動に関するアドバイス、高齢者ボランティアやよい会・社会福祉協議会、大阪府豊能郡公民館、2012. 1

- 吉田和枝、特別講演「産痛のとらえ方とケア」、水戸周産期懇話会 茨城県産婦人科医師会、茨城県水戸市、2012. 11.
- 吉田和枝、ベトナム青年研修講師、JICA 北陸、石川県立看護大学、2012. 11
- 吉田和枝、日本助産学会学術集会企画委員、日本助産学会、2012
- 吉田和枝、日本助産学会査読委員、日本助産学会、2012
- 吉田和枝、子育て女性健康支援センター相談員、石川助産師会、2012
- 吉田和枝、講演「女性の各期のメンタルヘルス」、メンタルケア協会、石川文教会館、2013. 1
- 米田昌代、日本看護研究学会 査読委員
- 米田昌代、第 6 回看護実践学会 実行委員
- 米田昌代、SIDS 家族の会 医学アドバイザー
- 米田昌代、第 10 回 あかちゃんこどもの死を考えるセミナー～流産・死産・新生児死亡・乳幼児死亡～in 京都 実行委員、あかちゃんこどもの死を考えるセミナー事務局 京都教育文化会館、2012. 7
- 米田昌代、第 10 回 あかちゃんこどもの死を考えるセミナー～流産・死産・新生児死亡・乳幼児死亡～in 京都 学生へのグリーフケア教育 ペリネイタル・グリーフケアを広めるために講師、あかちゃんこどもの死を考えるセミナー事務局、京都教育文化会館、2012. 7
- 西村真美子、米田昌代、親育ち支援プログラム ノーバディズパーフェクト（完璧な親なんていない！）ファシリテーター（全 6 回、X V グループ）、小松市、小松市すこやかセンター、2012. 8～2012. 9
- 西村真美子、米田昌代、親育ち支援プログラム ノーバディズパーフェクト（完璧な親なんていない！）再会プログラムファシリテーター（全 1 回、X V グループ）、小松市、小松市すこやかセンター、2012. 12
- 米田昌代、村田久美子、親育ち支援プログラム ノーバディズパーフェクト（完璧な親なんていない！）再会プログラムファシリテーター（全 1 回、X III グループ）、社会福祉法人 伊奈美園、児童家庭支援センター（ファミリーステーションいなみえん）、2012. 8
- 米田昌代、石川県看護教員養成講習会 「看護教育評価演習」講師、石川県立看護大学、石川県立看護大学、2012. 8
- 米田昌代、日本助産師会福井県支部 研修会 「周産期のグリーフケア」講師、日本助産師会福井県支部、福井市地域交流プラザ アオッサ、2012. 8
- 米田昌代、岡本みさ子、これでだいじょうぶという気持ちで子育てするための準備講座 再会プログラム ファシリテーター、石川県立看護大学、ひろ助産院、2012. 9
- 米田昌代、母親のメンタルヘルス支援事業連絡会及び研修会 「周産期のグリーフケア～地域でのケアのあり方を考える その 2～」講師、石川県南加賀保健福祉センター、石川県南加賀保健福祉センター 1 階大会議室、2012. 10
- 米田昌代、北陸学院高等学校 進路説明会（2 年生）、北陸学院高等学校、北陸学院高等学校、2012. 10
- 米田昌代、いしかわ多胎ネットワーク研修会 ファシリテーションスキルを学ぼう 講師、いしかわ多胎ネットワーク、石川県庁、2013. 2

米田昌代、吉田和枝、曾山小織、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター指導助言事業 ペリネイタル・グリーンケア検討会（第7回 第8回）運営、石川県立看護大学、石川県立中央病院 健康教育館、2012.7、2013.2

米田昌代、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター指導助言事業 あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動、石川県立看護大学、津幡町町議室、生涯学習センター等 メール相談、2012.4～ 2013.3

西村真実子、米田昌代、石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 子育てドロップ・イン・サロン NP 親育ち・子育てを考える会ファシリテーター(全5回)、石川県立看護大学、聞善寺、2012.8～2012.11

#### 4.7 その他（受賞等）

垣花渉、「社会人基礎力育成グランプリ 2013」中部地区予選大会 優秀賞、世代間交流による「健康なまち」創造の軌跡—健康は一人じゃなく、みんなで創るもの—

垣花渉、平成24年度地域課題研究ゼミナール支援事業 畠山賞最優秀地域課題研究ゼミナール、コミュニティ形成を通じた道の駅活性化—健康菓子・弁当の創出を基盤に—

垣花渉、社会人基礎力準大賞、世代間交流による「健康なまち」創造の軌跡—健康は一人じゃなく、みんなで創るもの—

## 5. 卒業研究論文題目及び修士・博士論文題目一覧

### 5.1 平成24年度 卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	学籍番号	氏 名	論 文 題 目
人間科学領域 (21人)	0901020	久司 巳祐	看護学生の看護職に対するイメージについて
	0901021	清崎 由紀乃	緩和ケア・ターミナルケアに対する看護学生の意識調査
	0901026	坂倉 由佳	睡眠時間が及ぼす身体的・精神的影響について
	0901007	岩部 早季	受動態にみる幼児の他者視点の獲得過程
	0901046	中村 麻梨奈	「今ここにはないもの」について話す能力の発達
	0901055	濱田 恵	日本語児の自然発話における構音の発達過程
	0901048	夏目 裕子	看護学生と母親による対幼児発話の特徴
	0901013	奥野 しおり	自己開示における感情表出が印象に与える影響－ネガティブな感情とポジティブな感情について－
	0801073	谷内 友美	腕組みが与える印象と個人特性の関係
	1101109	山口 武史	二重拘束的コミュニケーションが記憶に与える影響
	0901022	越村 香菜	人工呼吸器装着および非装着に関する意思決定の倫理的問題－筋萎縮性側索硬化症（ALS）の症例を通して－
	0901049	西川 花奈	高齢者の胃瘻造設に関する意識調査
	1101102	大野 桂子	北陸地方における終末期医療ガイドラインの問題点と今後の課題
	1101110	山口 由莉	メイクセラピーに関する看護師の意識
	1101105	野村 梨乃	成人女性の歩行の解析－視覚と聴覚が及ぼす影響－
	0901078	山本 佳澄	高齢者体験装具装着による歩行特性の変化
	0901012	奥田 明日香	若年女性の歩行の解析－履物の違いと歩行の関係－
	0901011	坂東 優佳	地域診断による中山間地域の健康課題の把握と一次予防
	0901041	戸部 雅代	青壮年期男性のセルフモニタリングによる形態及び生活習慣の意識の変化
	0901058	林 宏和	地域住民交流型の健康教育が心と身体の健康に及ぼす影響
0901066	増田 郁美	運動不足解消を目指した体操教室が働き世代の健康状態や体力に及ぼす影響	
健康科学（16人）	0801038	中敷 えりか	がん治療薬と分子生物学の応用に関する文献研究
	0901004	市井 久実子	ホルモン補充療法の効果と副作用に関する最新の知見－更年期の自己決定をサポートする医療専門職への展望－

領域または科目群	学籍番号	氏 名	論 文 題 目
	0801071	森 亮輔	冠動脈疾患予防の食事指導に生かす EBM—文献研究で明らかとなった歴史的返遷と今後の展望—
	0901042	中井 茜	看護大学生のセルフケアの現状と課題—患者指導へ繋げる自身の生活習慣病予防の取り組みに向けて—
	0901062	堀井 香純	ムンプス予防接種の知識・意識に関する文献的考察
	0901056	林 紀代美	石川県加賀地区滞在外国人のインフルエンザ予防行動と対処行動の実態調査
	0801064	宮田 愛実	公費助成対象外日本人女性の HPV ワクチン接種許容状況：文献レビューと今後の研究の方向性
	0901023	小林 久美子	神経組織内での有機カチオントランスポーターの発現
	0901034	惣名 香文	有機カチオントランスポーターOCT2 ほどのタイプの小胞に局在するのか
	0901068	三崎 優子	小児肥満の現状と危険因子の文献的考察
	0901057	林 沙織	小児虐待による死亡事例の危険因子の検証
	0901032	清女谷 美穂	小児のむし歯と養育環境の影響について
	1101101	浦野 瑛実	小児肥満の縦断研究に関する現状と課題の文献的考察
	0901065	前波 愛美	骨芽細胞の分化に伴うコラーゲン形成に及ぼす女貞子の影響
	0901061	細川 香菜	骨芽細胞の分化に伴うアルカリフォスファターゼ活性に及ぼす女貞子の影響
	0901010	太田 翔子	骨芽細胞の分化に伴うカルシウム蓄積に及ぼす女貞子の影響
	母性看護学 (8人)	0901003	泉 つかさ
0901033		全屋 玲加	分娩進行における母親のメンタルサポートの重要性と今後の課題
0901080		米村 早紀	日本における BFH 普及にむけての課題—海外の BFHI (母乳育児推進運動) に関する文献検討より—
0901074		柳谷 明日香	症例報告からみた脊髄障害を持つ妊産婦の問題点とその援助
0901079		吉田 綾	不妊治療に携わる看護者の役割と意識、専門性に焦点を当てた文献的研究
0901002		栗津 文葉	出生前診断において胎児異常を告げられた助成の心理に関する文献的考察
0901047		詠 希望	妊婦の食生活への支援に関する文献検討
0901076		山田 理枝	多胎妊婦の思いと妊娠中からの支援に関する文献検討
小児看護学 (5人)	0901037	巧 郁衣	育児困難や虐待の予防のためのリスクアセスメント項目の文献的考察
	0901017	川崎 由佳	妊娠中から産後にかけての切れ目のない虐待予防の子育て支援の現状と課題についての文献検討
	0901063	前田 恵梨奈	小児における災害時支援の変遷に関する文献検討—3つの震災における心のケアに焦点を当てて—

領域または科目群	学籍番号	氏 名	論 文 題 目
	0901014	小椋 美穂	子どもの検査・処置に親が同席しない理由に関する文献的考察
	0901040	道前 みづき	日本におけるチャイルド・ライフ・スペシャリストの役割と今後の課題に関する文献検討
成人看護学(11人)	0901059	東 あかね	術後せん妄の術前看護介入に関する研究の動向と今後の課題
	0801016	金戸 聡子	看護師が重要と考える術後せん妄患者の家族に対する看護援助とその実際
	0901029	眞田 美誉	Incentive Spirometry (トリフローⅡ™) を使用した呼吸訓練を中断することが呼吸機能に与える影響－健康成人女子における検討－
	0901081	輪瀬 朋香	中堅看護師が認定看護師を目指すプロセス
	0901043	中井 美穂	認定看護師の看護実践の様相
	0901045	中村 なぎさ	がん看護分野の認定看護師による“バッドニュース”を伝えられた患者への関わり
	0901036	高山 清敏	サポートブックを用いた乳がん患者と子どもへの支援効果の一考察－子どものサポートブックの記述内容及び親子の対話の特徴から－
	0901051	野口 絵理奈	サポートブックを用いた乳がん患者と子どもへの支援効果の一考察－乳がん患者のサポートブックの記述内容及び親子の対話の特徴から－
	0901031	菅原 優花	炎症性腸疾患患者の心理的ストレスと、ストレス緩和要因について
	0901039	長丸 美香子	糖尿病患者の自己効力感を高める看護
	1101108	船戸 光恵	がん長期生存者に対する外来支援についての文献検討
老年看護学(4人)	1101103	桶川 貴子	東日本大震災1年後の一人暮らしの高齢者の想い～自宅で一人暮らしの高齢者と仮説住宅で一人暮らしの高齢者の比較～
	0901067	三浦 優花	認知症高齢者における安全かつ正確な唾液アミラーゼ活性値測定方法
	0901030	新谷 優香	高齢者における唾液アミラーゼ活性値測定の実態と有用性の検証－第1報 認知症高齢者と健常高齢者の比較－
	0901005	井出 菜摘	高齢者における唾液アミラーゼ活性値測定の実態と有用性の検証－第2報 高齢者と若年者の比較－
基礎看護学(10人)	0901038	田邊 舞	介護保険施設の在所者における外出支援に関する研究
	0901053	畠野 智江	男性高齢者のサロン参加を促進する要因に関する研究
	0901015	勝沼 有加	看護学生の基礎看護学実習前・中・後における感染防止に対する意識および行動の変化
	0901019	木村 有沙	プリセプターが新人看護師に実施しているナースコール対応への支援
	0901027	坂本 靖奈	手術当日に患者が抱く心理的ストレスへの対処行動を支援するケアの検討
	0901072	宮本 若奈	患者の感じる足浴の効果と満足度についての研究

領域または科目群	学籍番号	氏 名	論 文 題 目
	0901077	山村 美貴	入浴に近い満足感を目指した入浴剤入り足浴の検討
	0901028	笹木 加奈	微酸性電解水を用いた手部温浴の衛生効果
	0901050	野上 亜侑未	微酸性電解水を用いたおしぼりの手指への衛生効果
	0801083	米木 理恵	微酸性電解水を用いた含嗽における口腔内の清浄効果と口臭抑制効果
在宅看護学 (4人)	0901008	栗山 雅	新人訪問看護師に対する教育・支援の実際
	0401040	田中 和代	介護職の医行為に関する文献による一考察
	0901018	川元 千明	男性介護者が抱える困難－石川県内の介護支援専門員に対する調査からの分析－
	0901044	中野 瞳	男性介護者のストレス対処能力に関する研究－SOC(Sense of Coherence)に着目して－
精神看護学 (5人)	0901054	幅口 未沙都	能登半島地震から5年～地域に住む精神障がい者への市町村保健師による支援～
	1101104	鈴木 誠也	退院への意思を表出しない精神科長期入院患者に対する看護－退院へのニーズを掘り起こす関わりに焦点を当てて－
	0901069	水口 宅巳	広汎性発達障害患者への看護に関する文献検討
	0901070	宮田 明日望	一般病棟に入院中の高齢者のうつ病予防についての看護師の認識とケアの実態に関する研究
	0901075	山崎 由紀子	精神障害をもつ患者の退院を困難にする家族の思いに関する文献検討
地域看護学 (9人)	1101107	深井 春花	事業所におけるメンタルヘルス予防対策の現状と課題についての文献検討－産業看護職の役割に注目して－
	0901001	荒邦 有紀	ラインケアを支援する産業看護職の役割の文献検討－管理監督者が行うラインケアの現状から－
	1101106	濱田 珠里	A町の特定健康診査後の結果説明会不参加者の背景
	0901064	前田 涼生	特定健康診査後の保健指導利用者の一年後生活改善に関連する要因の検討－A町の平成22年度国保ヘルスアップ事業を通しての考察－
	0901006	今崎 加菜	特定健康診査後の保健指導未利用者の生活改善に関連する要因の検討－A町のH22年度国保ヘルスアップ事業を通しての考察－
	0901035	高瀬 仁美	乳がん検診受診行動にかかわる要因と受診行動の促進に向けた今後の課題に関する文献検討
	0901025	小堀 有香	児童養護施設入所者と職員との愛着形成のための取り組みの現状と課題
	0901052	橋上 まさよ	東日本大震災での住民への支援活動における保健師と生活支援相談員の効果的な連携のあり方
	0801034	椿谷 優輝	男子看護学生の看護観と自己像の変化

## 5.2 平成24年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	論文題目	担当教員
看護デザイン	相原 翔子	特別養護老人ホームでの看取りにおける看護上のジレンマ	浅見 洋
コミュニティーケア	石黒 範子	在宅療養における末期がん患者の家族介護者に対する介護支援専門員の支援内容	林 一美
コミュニティーケア	阿川 啓子	障害児の在宅で療育する母親への訪問看護師の支援とその背景にある考え	石垣 和子
看護管理学	寺井 梨恵子	転倒リスク場面における看護師の視覚情報に基づくアセスメント	丸岡 直子
看護管理学	坂本 和美	退院支援における病棟看護師長の役割	丸岡 直子
看護管理学	中村 真寿美	スタッフ看護師 On-the-Job Training(OJT)における新人看護師に対するかかわりと意図	丸岡 直子
子どもと家族の看護学	成田 みぎわ	「赤ちゃん登校日」授業に参加する母親への心理的効果 ー子育てのエンパワメントに注目してー	西村 真実子
子どもと家族の看護学	室谷 真美	セルフ・エスティームの低い青年が求める居場所の機能	西村 真実子
成人看護学	春日 美紀	入院治療中の血液がん患者が自分のあり様を認識するプロセス ーM.Newman 理論に基づく対話ー	牧野 智恵
成人看護学	山瀬 勝巳	外来がん化学療法患者への訪問看護導入の試み	牧野 智恵
成人看護学	平 優子	胃がん術後患者とその配偶者に対する食の支援 ー調理実習を取り入れたがんサロン開催ー	牧野 智恵
成人看護学	松本 友梨子	サポートブックを用いた乳がん患者とそのこどもへの支援の試み	牧野 智恵
老年看護学	小林 佐知子	健康高齢者を対象とした「胃瘻の勉強会」プログラムの開発	高山 成子



## 6. 石川看護雑誌

---

### 第10巻（2013年3月）

#### ■ 特別報告

アメリカ合衆国における APRN（上級実践看護師）の免許、資格、許可そして教育  
上月頼子

#### ■ 総 説

研究方法論としての文献レビュー  
— 英米の書籍による検討 —  
大木秀一、彦聖美

#### ■ 報 告

介護予防事業参加者に対する笑いヨガの試み  
— 参加者の生体指標と行動観察における評価 —  
中道淳子、松本ひかり、山岸日佳里、谷口智美、川畑圭良子、高見幸子、川端祥子  
油野聖子、小林宏光

転倒防止に関する新人看護師教育の実態  
丸岡直子、寺井梨恵子、木村久恵

高齢期の妻や親を介護する男性の介護状況に関する実態調査  
— 石川県における看護支援専門員に対する質問紙調査 —  
彦聖美、鈴木祐恵、金川克子、石垣和子、大木秀一

看護学生の食生活改善に向けた教育プログラム評価  
— 継続性への検証を通して —  
藤田三恵、中田弘子、川島和代、丸岡直子

看護教員養成講習会を受講する中堅看護師に内在するニーズ  
木村久恵、村井嘉子、中道淳子、堅田智香子

訪問看護ステーション利用者を介護している石川県下の男性介護者の実態と介護に対する意識  
— 自記式質問紙調査から —  
鈴木祐恵、彦聖美、金川克子、石垣和子、大木秀一

韓国と日本における保健所の機能と看護職の役割についての考察  
塚田久恵、石垣和子、辻村真由子、都筑千景、金川克子

## ■ 資 料

医療行為を受けている在宅高齢者に関わる医師や介護支援専門員の情報共有や職種間の連携状況

林 一美、堀田真弓、佐々木順子

介護予防事業参加者に対する笑いヨガの試み

— 笑いヨガプログラムの紹介と参加者評価—

松本ひかり、谷口智美、山岸日佳里、川畑圭良子、高見幸子、川端祥子  
油野聖子、中道淳子、小林宏光

精神看護学教育に関する実態調査（第一報）

— 教員の実態ならびに教育内容の変遷について—

谷本千恵、辻真理子、川村みどり、相川竜子

## ■ 特別報告

「地域課題研究ゼミナール支援事業」最優秀賞

垣花 渉

ドイツにおける緩和ケアとホスピス

浅見 洋、彦 聖美

ドイツの総合型地域スポーツクラブを訪ねて

垣花 渉

17<sup>rd</sup> INTERNATIONAL CONFERENCE on CANCER NURSING 参加報告

牧野智恵

The 16<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Schlars (FAFONS)に参加して

谷本千恵

The 16<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Schlars (FAFONS)に参加して

曾根志穂、阿川啓子、金子紀子、井上智可

ゴードン・リサーチ・カンファランス参加報告

多久和典子

## 7 附属図書館

---

### 7.1 今年度の主な活動概況

- 図書館システム更新  
新しい図書館システムの業者選定のため、9月10日法人本部において「石川県公立大学法人図書館情報システム企画審査委員会」が行われた。  
選定の対象となる業者、京セラ丸善株式会社「CARIN-i」、リコージャパン株式会社「LIMEDIO V8」、富士通株式会社「iLiswave-J」の3社によるプレゼンテーションを実施し、プロポーザルによって、京セラ丸善株式会社「CARIN-i」に決定した。  
11月2日から9回、システムに関する打ち合わせを行い、平成25年3月4日、新システムによる図書館業務を開始した。
- カラーコピー機の導入  
5月中頃、2台あったコピー機の2台のうち1台が故障したため、10月に以前から要望のあったカラーコピー機を導入した。
- 学生の希望図書受入れ  
ぜひ図書館に入れてほしい本、友達や後輩に薦めたい本のリクエストを募集し、55冊の希望図書を購入し整備した。
- 図書館利用に関する学生アンケートの実施  
図書館の利用実態や運営について検討するため、平成24年11月2日～30日の間「附属図書館に関するアンケート調査」を実施した。  
その結果について図書館運営委員会で協議した結果、
  - ・土曜日の開館時間を午後1時～午後5時開館を  
午前10時～午後6時まで開館することに決定した。
  - ・学部学生の図書貸出冊数、5冊を10冊とし、  
いずれも平成25年度4月から本格的に実施することとした。
- 平成25年度附属図書館行事・企画(案)  
「学生希望図書展」、「教職員推薦図書展」等の展示の他に、オープンキャンパスの企画展示「災害看護展」、学園祭の企画展示「日本のナイチンゲール展」を実施することとした。  
また、学生と図書館長が「図書館に期待すること」と題して、対談すること等を審議し、実施することとした。
- HPのリニューアル  
10月、図書館の利便性を高め、常に最新の情報を提供するためホームページをリニューアルした。

## 7.2 資料整備状況

資料整備状況（平成25年3月31日現在）（ ）内平成24年度受入れ数

図書	和書	44,923 冊 (1,083 冊)	購入：858 冊 寄贈：227 冊	合計 50,863 冊
	洋書	5,940 冊 (2 冊)	購入：2 冊	
雑誌タイトル数	和雑誌	167 誌	—	合計 232 誌 (内寄贈 54 誌)
	洋雑誌	65 誌 (1 誌)	購入：1 誌	
新聞	日本紙	8 紙	寄贈：2 紙	—
	英字紙	1 紙	—	
視聴覚資料	CD-ROM	159 点	—	合計 1,980 点
	ビデオ	1,376 点	—	
	DVD	445 点 (27 点)	購入：27 点	

### 7.2.1 平成24年度分野別蔵書構成（平成25年3月31日現在）

○総冊数：50,863 冊

分類	000	100	200	300	400-480	490	N	500	600	700	800	900
標目	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	技術	言語	文学
冊数	4,278	2,683	55	7,111	1,523	16,789	1,225	1,054	207	1,208	1,136	2,085

### 7.2.2 医学分類蔵書構成（平成25年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：16,887 冊

490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
1,393	2,609	1,175	5,450	1,809	860	220	149	2,999	223

### 7.2.3 看護系資料分類別構成（平成25年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：12,225 冊

N000	N100	N200	N300	N400	N500	N600	N700	N800	N900
看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家族看護	状態別看護
1,749	1,069	3,163	495	439	1,655	473	551	1,770	861

## ・ 7.3 利用統計

### 7.3.1 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	24	23	26	25	18	22	27	23	22	20	21	24	275
入館者数	4,459	6,189	5,908	7,473	4,057	2,714	5,497	3,951	3,229	4,042	4,021	1,268	52,808
1日平均	186	269	227	299	225	123	204	172	147	202	191	53	192

### 7.3.2 館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	242	636	432	425	219	174	398	321	203	327	174	47	3,598
	冊数	406	1,096	678	729	400	347	763	690	451	704	276	114	6,654
院生	人数	129	118	128	115	60	104	107	110	71	45	12	14	1,013
	冊数	286	243	276	257	139	239	251	235	155	103	47	22	2,253
教職員	人数	31	41	33	40	35	15	38	31	16	24	31	27	362
	冊数	78	92	67	98	71	37	102	93	42	51	137	73	941
一般	人数	14	22	24	23	9	21	14	20	20	12	10	38	227
	冊数	33	41	48	38	16	42	30	42	42	21	21	88	462
計	人数	416	817	617	603	323	314	557	482	310	408	227	126	5,200
	冊数	803	1,472	1,069	1,122	626	665	1,146	1,060	690	879	481	297	10,310

### 7.3.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	25	29	75	68	15	6	25	90	36	26	11	35	441
学生	89	72	42	62	24	38	91	20	14	4	5	0	461
計	114	101	117	130	39	44	116	110	50	30	16	35	902

### 7.3.4 他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	21	20	34	19	30	1	12	0	20	11	11	3	182
学生	55	72	21	22	42	40	66	23	47	41	40	21	490
一般	25	38	34	43	46	21	19	13	18	0	34	2	293
計	101	130	89	84	118	62	97	36	85	52	85	26	965

### 7.3.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	292	487	369	329	213	293	322	372	393	283	286	283	3,922
枚数	3,345	3,857	3,464	2,848	1,935	2,748	2,941	3,050	3,231	2,459	2,548	2,539	34,965

### 7.3.6 相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	0	3	1	3	2	6	9	1	5	11	2	1	44
大学	3	3	1	4	8	1	0	8	1	1	3	1	34
合計	3	6	2	7	10	7	9	9	6	12	5	2	78

### 7.3.7 相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	25	80	49	67	20	29	25	19	21	44	9	9	397
大学	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
合計	26	80	51	68	21	29	25	19	21	44	9	9	402

### 7.3.7 電子ジャーナル利用状況

○洋雑誌：CINAHL with Fulltext (EBSCO 社)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	391	341	838	516	115	161	637	570	307	81	74	322	4,353

○和雑誌：メディカルオンライン (メテオゲート社)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	907	616	391	1,097	706	455	921	883	441	246	280	502	7,445

## 7.4 利用者サービス

### 7.4.1 学内向図書館サービス

学内利用者の図書館サービスとして、新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	名称	対象・参加人数	内容
4月2日(火)	新任教職員	約19名	図書館の利用案内
4月6日(金)	新入生父兄施設見学	約80名	図書館の概要説明
4月10日(火)	新入生ガイダンス	約80名	図書館利用方法の説明
4月17日(火)	看護教員養成講習会 受講生講習会	看護教員養成講習会受 講生 約30名	図書館の利用方法とオンラ インデータベース講習
7月21日(土)	オープンキャンパス	高校生、父兄	図書館の開放、施設説明
10月27・28日 (土・日)	大学祭	一般	図書館の開放

## 7.4.2 学外向図書館サービス

県政バス、県内の中高生等を対象に、図書館の概要説明や図書館の利用方法とオンラインデータベース講習等を実施した。

日 時	名 称	対象・参加人数	内 容
4月3日(火)	タイ看護大学	教職員 32名	図書館の概要説明
5月9日(水)	かほく市立高松中学校	高松中学校生徒 30名	図書館の概要説明
5月24日(木)	保育専門学園	職員 4名	図書館の運営について 説明
8月8日(水)	県立田鶴浜高等学校	生徒 35名	図書館の利用方法と データベースの講習
10月16日(火)	県立小松高等学校	生徒 40名	図書館の概要説明
10月25日(木)	JICA ベトナム研修生	研修生 16名	図書館の概要説明
5月10日(木) ～9月4日(火)	県政バス(羽咋市他) 計5回	約212名	図書館の概要説明

## 7.4.3 学内で利用できるデータベース

	検索システム	内 容	収録範囲	同時使用
最新看護索引 web	Web	国内唯一の、看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度(第42回)より、電子版を掲載。全10領域の「論文集(電子版)」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	1987-	3
PubMed	Web	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	1949-	フリーアクセス
メディカルオンライン	Web	医学文献の検索全文を閲覧をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供。	1949-	フリーアクセス
CINAHL	Web	看護学・保健学分野の文献情報データベース。約3,000誌の専門誌が対象。データ数約42万件。(EBSCO社)	1937-	4
PsycINFO	Web	心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29カ国、20以上の言語で出版されている2,400点の心理学関連資料から収録。	1987-	4
医学中央雑誌	Web	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	1983-	8
GeNii	Web	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。(主宰：国立情報学研究所)	-	フリーアクセス
JDreamIII	Web	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全DB。収録約5,200万件。	1987-	10

## 7.5 職員研修

### 7.5.1 図書館職員の研修

日 時	場 所	名 称	主な内容	参加者名
平成 24 年 4 月 11 日(水)	金沢市	再任用職員研修 (第 2 回) 主催：石川県	再任用職員が今までの経験を生かして仕事をするための意識高揚を図る	山本 晃暢
平成 24 年 4 月 13 日(金)	金沢市	図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立図書館との相互協力について	田中 智子
平成 24 年 6 月 7 日(木) ～8 日(金)	秋田県	公立大学協会図書館協議会事務長会・同総会、同中部地区会議 主催：公立大学協会図書館協議会	公立大学図書館の活動について	山本 晃暢
平成 24 年 6 月 29 日(金)	白山市	石川県大学図書館協議会定例会議及び講演会 主催：石川県大学図書館協議会	県内大学図書館の活動について	山本 晃暢
平成 24 年 9 月 4 日(火) ～7 日(金)	名古屋市	国立情報学研究所目録システム地域講習会(図書コース) 主催：国立情報学研究所	総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方の習得	田中 智子
平成 24 年 11 月 16 日 (金)	金沢市	図書館セミナー2012 in 北陸 主催：京セラ丸善システムインテグレーション(株)	最近の学術リソースの有効な活用方法について	山本 晃暢
平成 24 年 12 月 13 日 (木)	金沢市	平成 24 年度第 5 回図書館実務講習会(レファレンス研修) 主催：石川県公立図書館協議会	レファレンスの処理と事例記録について研修	田中 智子
平成 25 年 2 月 20 日(水)	金沢市	県立図書館システム更新に係る操作説明会 主催：石川県立図書館	県立図書館の新システム操作説明会	田中 智子
平成 25 年 3 月 27 日(水)	金沢市	「図書館機能強化プログラム」シンポジウム 主催：金沢大学附属図書館	大学図書館における学習支援について研修	山本 晃暢



## 8. 附属地域ケア総合センター

### 8.1 人材育成事業

#### 8.1.1 主催事業

対象	事業名	内 容 ・ 結 果			
		テーマ等	講 師	実施日	参加状況
専門職	シリーズ 「災害看護 を考える」	災害時の生活を支える	石川県立看護大学 教授 林 一美 石川県立中央病院 管理栄養士 濱口 優子	8月25日 (土)	68
		被災者の心により添う	石川県立看護大学 教授 武山 雅志 北陸学院大学 准教授 田中 純一 被災地のボランティア活 動に参加した県内の大学 生	10月13日 (土)	59
		東日本大震災被災地からのメッセー ジ	岩手看護短期大学 教授 鈴木 るり子 被災地の中学生 菊地 里帆子 音楽療法士 朴 裕美	11月3日 (祝)	39
専門職	医療・看護英 語を楽しむ	シリーズⅠ (全4回)	石川県立看護大学 講師 野村 潤	7月7日 (土) 7月28日 (土) 8月11日 (土) 8月25日 (土)	47
		シリーズⅡ (全4回)	石川県立看護大学 准教授 山岸 映子	11月10日 (土) 11月24日 (土) 12月8日 (土) 12月22日 (土)	35
				計	248

## 8.2 本学教員主催の研究会・事例検討会ならびに子育て支援講座

### 8.2.1 本学教員主催の研究会・事例検討会ならびに子育て支援講座一覧表

	事業名	日時	内 容	講 師	場 所	対象者
1	ジェネラリストのための事例検討	11月10日 (土) 1月12日 (土)	看護の目的に照らしたアセスメントやクリティカルな思考過程を学び、ジェネラリストとしての実践力を向上させた。	基礎看護学教授 川島 和代 他	基礎看護学実習室 他	看護師・看護教員
2	ペリネイタル・グリーフケア検討会	第1回 7/10(火) 第2回 2/12(火)	周産期の死(流産・死産・新生児死亡)のケアに関わる看護職同士、情報交換しながら、一緒によりよいケアについて考えていく機会を設けた。	母性看護学講師 米田 昌代 教授 吉田 和枝 助手 曾山 小織	石川県立中央病院 健康教育館	周産期の死に関わる看護職(県内の産科・NICUに勤務する助産師・看護師)
3	子育て支援・虐待防止に関する勉強会(事例検討会)	1～2ヶ月に1回	地域や医療現場での子育て支援や虐待予防に関するケア体験を共有し、研鑽を深めた。	小児看護学教授 西村 真実子 他	母性・小児看護学講座共同研究室	子育て支援・虐待防止に関わる者
4	高齢者ケア事例検討会	毎月 第2水曜 18時～	高齢者ケアを行っている看護職が様々な事例について意見交換。県内の高齢者ケアの質の向上を目指し、色んな立場から智慧を出し合い共有した。	老年看護学教授 高山 成子 他	成人・老年看護学講座 共同研究室	高齢者ケアに携わる看護職者等
5	保健事業評価能力の向上支援研修	6月～1月 (計5回)	保健師等の保健事業の評価能力の向上を支援するため、その成果や今後の課題を明確にする過程について実践的に学んだ	地域看護学准教授 織田 初江 他	講義室 他	地域保健活動に従事する保健師等

6	あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動	お話し会 月1回 各種相談 適宜	み送ったお子さんのことやお気持ちを同じ体験をもつ方たちと一緒に語り合い、気持ちをわかちあい、少しでも光を見いだせるお手伝い。体験者とともに医療者がサポートした。	母性看護学 講師 米田 昌代	松任ふるさと館、 津幡町役場 他	(流産・死産・新生児死亡・乳児死亡等で) あかちゃんを亡くした方
7	祖父母の楽しい上手な孫育て教室	6/17 (日) 13:30~ 16:00	祖父母を対象に、今時の孫育てについて話し合い、一緒に考える機会を設けた。	母性看護学 教授 吉田 和枝 講師 米田 昌代 助教 曾山 小織	女性センター	孫の誕生を迎える祖父母、新生児から乳児の孫を持つ祖父母
8	「これでだいじょうぶ」という気持ちで子育てするための準備講座(プレママ・プレパパ支援事業)		地域の出産を控えた妊婦(プレママ)に、出産・子育てに関する悩みや不安を解消するために語り合う交流会を開催した。	小児看護学 教授 西村 真実子 他	内灘町保健センター、ひろ助産院	もうすぐ出産を控えた妊婦
9	子育て どりっぷ・イン・さろん		母親だけのスペース「どりっぷ・イン・るーむ」・保育ルーム「どりっぷ・イン・ひろば」の提供、「完璧な親なんていない」プログラムに参加経験のある母親を対象とした再会プログラムを通じて、子育ての仕方を見つける一助とした。	ファシリテータ: 小児看護学 教授 西村真実子 母性看護学 講師 米田 昌代	聞善寺	子育て中の母親

## 8.2.2 派遣状況

項目	病院・医療関係等	職能団体(看護協会等)	行政(地方公共団体等)	学校・教育機関等	福祉・高齢者関係の任意団体	その他	計
講師派遣回数	56	12	38	7	17	26	156

### 8.2.3 看護研究および看護活動の指導に関する派遣状況

地区別	派遣病院名	指導内容	講師名	回数
加賀地区	能美市立病院	研究テーマの絞り込みとテーマに合った研究方法	村井 嘉子	4
	芳珠記念病院	看護研究講評	彦 聖美	3
	公立つるぎ病院	高齢者看護事例検討	中道 淳子	2
		在宅医療連携拠点事業	彦 聖美	10
		看護研究発表会	彦 聖美	3
金沢地区	浅ノ川総合病院	看護研究指導・講評	田甫 久美子	4
	金沢社会保険病院	看護研究に関する講義・指導面接・講評	田甫 久美子	7
	金沢大学附属病院	がん患者の心のケア	牧野 智恵	1
能登地区	珠洲市総合病院	看護研究指導	子吉 知恵美	3
	公立羽咋病院	事例検討会	中田 弘子	4
	県立高松病院	看護研究指導	谷本 千恵	12
			川村 みどり 大江 真吾	
	公立宇出津総合病院	看護研究に必要な統計学について	加藤 亜妃子	1
公立能登総合病院	看護研究発表会の講評等	木森 佳子 木村 久恵	1	

### 8.3 調査研究事業

No	研究課題	研究代表者	研究分担者
1	多胎育児家庭に対する妊娠中からのメンタルサポートプログラムの開発と評価	大木秀一	彦 聖美、志村 恵、青木三枝子、河原廣子、玄田朋恵、山岸和美、天羽千恵子
	多胎育児では産後うつ・育児不安・虐待感情などが単胎育児よりも高く、共通するリスク要因は妊娠・出産の満足度の低さである。従って、妊娠期からのメンタルサポートは必須かつ有効である。本研究では妊娠期からの一貫した支援体制を確立するため、ピアサポーター派遣活動の実績を通して、必要となる支援を検討し、育児支援者向けの研修プログラムの開発と評価を行う。また、育児支援者全体を巻き込んだ多胎育児支援の普及や人材養成にもつなげていく。		
2	在宅における介護職員等によるたんの吸引等の実施に関する研究	林 一美	川島 和代、田中 克恵、中山 晴恵

	平成 24 年 4 月からの「社会福祉及び介護福祉士法」（昭和 62 年法律第 30 号）の一部改正により、介護福祉士及び一定の研修を受けた介護職員らが、医療や看護の連携による安全確保が図られている等の一定の条件の下で『たんの吸引等』の医行為が実施できるようになった。本研究は、たんの吸引等の医行為が事後的違法阻却から制度化されたことにより、在宅で福祉サービスに従事する介護職員らの医行為の取り組みや認識を明らかにし、支援に繋げてゆくことを目的としている。	
3	能登地区の精神障がい者の地域移行・定着支援の現状と課題に関する研究～人口過疎地における精神障がい者の地域生活支援システムの開発に向けての基礎的研究～	谷本 千恵 谷本 千恵 谷本 千恵
	能登地区における精神障がい者の地域生活支援の現状とニーズを把握し、今後の人口過疎地における精神障がい者の地域生活支援システムを検討する上での基礎資料を得ることを目的とする。既存の資料の分析による地区診断、当事者や家族へのインタビュー、医療機関等に対する調査等を実施する。	
4	石川県下の看護師の離職・再就業の動向とその背景要因	丸岡直子 丸岡直子 丸岡直子
	石川県において地域性の異なる立地性や、大病院、中小病院、診療所、訪問看護ステーション、老人保健施設などに再就業した看護師を対象に、面接調査及び質問紙調査から看護師のライフコースを通じた離職及び再就業の背景要因を明らかにする。さらに医療福祉施設等の看護職員募集情報どのように再就業につながっているのかを明らかにすることを目的とする。この結果から、石川県内の看護師がライフコースに沿って高い自己効力感をもって就業するための、交流・循環型の看護職者の定着・確保に向けた提言に結びつける。	

## 8.4 国際化促進事業

JICA 北陸による研修委託を受け、以下を行った。

- ① 日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成コース」  
7月17日～8月13日の日程で、研修員4名（パラグアイ3名・ブラジル1名）を本学および羽咋市社会福祉協議会が受け入れた。本年は、6年目の受け入れであった。
- ② 青年研修「母子保健実施管理コース」  
本年度初めて、10月25日～11月6日の日程で、ベトナムから13名の研修員を受け入れた。

## 8.5 かほく市との包括的連携

平成22年10月に、かほく市と締結した包括的連携に関する協定に基づき、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域づくりに寄与するため、保健及び福祉の向上などを目的に事業を展開した。

## 8.6 大学施設の開放

### 8.6.1 大学施設の利用

実施年月日	内 容	主 催 者	参加 人数
24. 4～24. 10 土曜	サッカー練習	高松フットボールサポーター11	名 25
24. 4～25. 3 土・日曜	野球練習	石川ウィングスボーイズ	25
24. 4. 21	CM撮影（あおぞら薬局）	株式会社F I X	12
24. 5. ～24. 12	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（指導者養成講習及び基礎研修）	社会福祉法人石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター	150
24. 5. 12	河北支部教育研究集会発足集会	石川県教職員組合河北支部	400
24. 6. 10	アマチュア無線活動・研修会	日本アマチュア無線連盟石川県支部	150
24. 6. 17	第18回石川県紙ひこうき大会 in かほく	石川県紙ひこうき大会 in かほく実行委員会	300
24. 6. 30	高齢者認知症サポートを考える会	エーザイ株式会社	350
24. 7. 1	精神科看護職員等研修会	石川県精神保健福祉協会	200
24. 8. 8	女性の健康についての講義	宝達志水町女性の会	40
24. 8. 9	334D地区 ガバナー公式訪問例会（3R2Z）	高松ライオンズクラブ	140
24. 8. 20	食品衛生責任者研修会	河北食品衛生協会	200
24. 8. 23・24	河北支部教育研究集会 統括集会	石川県教職員組合河北支部	200
24. 9. 15・16	高松中学校吹奏楽部 第17回定期演奏会・リハーサル	かほく市立高松中学校	50
24. 9. 22	第6回看護実践学会学術集会	第6回看護実践学会学術集会	450
24. 10. 21	学園台自治会臨時総会	学園台自治会	40
24. 10. 25	認知症看護研修	石川県健康福祉部医療対策課	60
24. 11. 3・4	合唱練習	コーラスグループ チェリーブロッサム	35
24. 11. 10	看護研究論文の発表	日本精神科看護技術協会石川県支部	100 400
24. 12. 2	第10回石川県消防団活動発表会 平成24年度子ども女性防火委員会表彰式 平成24年度消防団入団促進に関する「統一標語」表彰式	石川県危機管理監室消防保安課	500
24. 12. 7	新人看護職員卒後臨床研修	金沢社会保険病院	30
24. 12. 6・7・8	表現会・リハーサル	うのけ幼稚園	600
25. 3. 2	研修会	石川県社会福祉士会	10
25. 3. 2	大人のための発表会	山本伸子ピアノ教室ローズママの会	50
25. 3. 3	理容師美容師国家試験	（財）理容師美容師試験研修センター東海ブロック事務所	350
25. 3. 9	第25回こころの臨床学会	石川県立高松病院	130
25. 3. 24	総会	学園台自治会	40
24. 3. 31	ピアノ発表会	くらたに音楽教室	100

### 8.6.2 大学施設の見学

見学団体	件数(件)	人数(人)
県政バス	5	180
その他の団体	1	32
計	6	212

## 9. 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

### 1. 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの概要

平成19年4月から施行された「がん対策基本法」の趣旨に基づいて、文部科学省は平成19年度に特別研究事業として「がんプロフェッショナル養成プラン」を創設し、「がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがんに関わるコメディカル等、がんに関与した医療人の養成を行うための大学（大学病院、大学院）の優れた取り組み」を支援してきた。平成24年度からは新たに高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とした「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業（図1）が始まり、金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請した結果「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」は採択された。全国で15拠点が採択されている。

本事業の特徴は、北陸地区における医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系1大学（石川県立看護大学）より構成され、スキームは、①がん教育改革（本科8コース）、②地域がん医療（インテンシブ11コース）、③がん研究者養成（本科2コース）より構成されている。①教育改革については、IPEによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである（図2）。

この3つのスキームのうち、本学では、1) 2) の実施を担当した。

- 1) 「がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」では、19年度の北陸がんプロで実施した内容を充実し、がん患者のQOLの向上を目的としている。個人、家族、および集団に対して、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師の養成を目指している。さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師の育成を図るために、修了要件を38単位へ増加することを検討している。
- 2) 「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース」では、インテンシブコースとして、「地域がん看護師養成コースⅠ」（大学院科目等履修）と、「地域がん看護師養成コースⅡ」（修了証取得）の内容を検討し、コースⅡの募集を行った。さらに、潜在看護師の復職支援として地域がん看護活性化コースでは「再就業に向けたがん看護実践サポート」を立ち上げた。

いずれのコースも、本学を中心にテレビ会議システムを利用した「がん看護事例検討会」への参加を条件としている。本コースでは、遠方で働く看護師同士が移動することなく一



堂に会して事例検討会にも参加できるという特徴がある。仕事の後に気軽に最新のがん看護実践を学べることを狙いとしているのが特徴である。

#### <平成 24 年度の実施内容>

##### 1. 「本科生」によるがん看護師の育成

本年度の「本科生」としての修了生は 4 名、入学者数は 1 名であった。

##### 2. インテンシブコース

「地域がん看護師養成コースⅠ」（大学院科目等履修）は、募集要項の整備を行った。

「地域がん看護師養成コースⅡ」（修了証取得）では 4 名の終了者を出した。

「再就業に向けたがん看護実践サポート」では、2 名の終了者を出した。

##### 3. 「看護実践セミナー」

今年度の「リンパ浮腫のケア～がん患者におけるリンパ浮腫の特徴と病態アセスメントに基づいた看護の実際～」では、平成 24 年 8 月 25 日（土）9:30～16:30、8 月 26 日（日）9:30～14:30 千葉大学医学部附属病院がん看護師専門看護師の奥朋子先生をお迎えして、講義と演習を行った。参加者は定員 60 名のところ 61 名であった。

##### 4. 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の開催

4 年前から実施している本セミナーでは、今年も（平成 24 年 9 月 2 日に）石垣靖子教授と清水哲郎教授をお呼びして実施した。北陸 3 県（石川、富山、福井）から 61 名の看護師の参加があった。午前中は、清水教授から「臨床倫理の考え方と検討の実際」と題した講義を、事例を交えながらの説明があり、午後は、グループに分かれて 2 事例について倫理シートに沿って検討した。今年度は、事例検討会のあとに石垣靖子先生から「看護を語ることの意味」と題した講演をお願いした。

##### 5. がん看護事例検討会の開催

今年度から、北陸 3 県（石川県、富山県、福井県）のテレビ会議システムを利用したがん看護事例検討会の実施を開始した。毎回 10-12 の病院からがん看護に関心のある看護師や医師、薬剤師などが一同に会して事例発表とディスカッションし、最後にごん看護専門看護師によるミニレクチャーによってがん看護に関する知識の向上に努めた。今年度は合計 10 回開催し、述べ 1200 人近くの参加者があった。今後は、開始時間の調整や事例内容を検討し、実りある内容になればと思っている。

## 10. 国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修

---

### 平成23年度夏期アメリカ看護研修（第8回）報告：

夏期アメリカ看護研修は、本学学生および大学院生のために用意された国際化推進プログラムの1つである。平成24年度も例年通り、4月に行われる各学年向けガイダンスや7月に開催されるオープンキャンパスなどで研修に関する広報を行った。平成24年度の本研修はシアトルで実施された。8月31日～9月13日の日程で行われ、学生19名が参加した。

Country Doctor Community Health Center, Children's hospital, Keiro Nursing Home, Harborview Medical Center, Swedish Medical center 等々多数の医療施設を見学し、また、Washington Academy of Language にて英会話および看護英語を学習した。評価として渡米前後のアンケート調査を行ったが、本看護研修の趣旨に沿った形の成果がある程度得られたと考えられた。また、研修後の学生の感想は、有意義であった、楽しかったが圧倒的に多かった。

学生が視野を広げられ、国際的な人材となるための能力開発に自ら努力する契機となるように、今後も本研修の充実に向けて努力していく必要がある。

# 11. ワシントン大学との交流

---

## 11.1 はじめに

本学は、ワシントン大学との学術協定のもと、隔年ごとにワシントン大学への教員派遣と招聘教授による大学院生への国際看護特論の講義を実施している。平成 22 年度は、Noel・J・Chrisman（ノエル・J・クリスマン）教授を招聘し「CBPR(Community-Based Participatory Research)」をテーマに国際看護特論を開講した。平成 23 年度には本学谷本准教授が Visiting Scholar として Noel・J・Chrisman 教授のもとで精神看護に関するシステム等についての 1 か月間の研修をおこなった。

平成 24 年には上月頼子准教授を招聘し下記に示す大学院国際看護特論の講義、一般公開講義、教員対象講義教員との懇談会等を行った。

## 11.2 招聘教員の紹介

米国ワシントン大学看護学部地域看護学の准教授。米国コロンビア大学を経て、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校にて看護学博士を取得。同大学における Post-Doctoral Fellow などを経験し現職。ワシントン州ナースプラクティショナー。米国精神分析学会認定精神分析家。ワシントン大学周産期精神看護学プログラム統括責任者。

## 11.3 国際看護特論

### 11.3.1 概要

- 1) 講義期間：平成 24 年 7 月 5 日～9 月 3 日
- 2) 履修者：大学院博士前期課程 12 名
- 3) 講義場所： 附属地域ケア総合センター研修室
- 4) 科目担当責任者： 大木秀一 教授

### 11.3.2 講義内容

国際看護特論は、大学院博士前期課程の選択科目である。前半 8 回で科目担当責任者によるオリエンテーションと派遣教員による事前準備学習を行った。後半 7 回を招聘教員が担当した。

Qualitative and Mixed Methods Research Methodologies Used for Exploratory Healthcare Research in the U.S. というテーマで、講義と演習を交えた授業が展開された。

講義のほかに、毎回 1～2 名の大学院生が修士論文の計画や研究方法論について直接招聘教員とディスカッションをできるようにオフィスアワーを設けた。これにより、大学院生はより深く、研究について学修することができた。

## 11.4 一般公開講義および教員対象講義

### 11.4.1 一般公開講義

講義日時：平成24年8月31日（金） 13:30～15:00

講義場所：教育研究棟 大講義室

講義演題：「米国の医療制度におけるコミュニティーメンタルヘルス」

講義概要：米国でのコミュニティーメンタルヘルスの概念およびナースプラクティショナーとしての上月先生の活動を通じての、妊娠初期からのメンタルヘルス問題の早期発見、サイコセラピーや薬物治療等のその効果が証明されているケア、新生児期のメンタルヘルスケア健診等についてを具体的例を挙げながらの実践活動についての講義が行われた。

参加者は101名（内外部41名）であった。活発な質問や意見が行われた。

（国際交流員会 参照）

### 11.4.2 教員対象講義

講義日時：平成24年9月6日（火）9:30～11:00

講義場所：教育研究棟 中講義室4

講義演題：「Licensure, Accreditation, Certification and Education for Advanced Practice Nursing In the United States」

講義概要：米国での先進看護師の制度、免許、職業権限、教育等について紹介され、医療制度を通じてその位置や実践的活動の内容を紹介された。日本では看護の業務拡大に向けて、厚生労働省が2011年通常の看護師より高度な医療行為をおこなうことのできる「特定看護師」制度の創設を決め、その骨子案を明らかにしたこともあり、非常に興味深く講義を聴いた教員が多かった。参加者は44名（内学生4名）であった。

### 11.4.3 本学「専門看護師(CNS)教育課程 Working group」との懇談会

日時：平成24年9月5日（水） 午後

場所：教育研究棟 学部事務室会議室

参加者：上月頼子准教授（米国ワシントン大学看護学部）

石垣学長（地域看護）、高山研究科長（老人看護）、牧野教授（がん看護）、西村教授（小児看護）の各看護分野の専門看護師教育課程の担当教員

概要：平成25年7月予定の日本看護系大学協議会への「38単位に増加された新たな専門看護師教育課程」への申請の参考にするために、米国ワシントン大学の高度実践看護師教育のカリキュラムの構成、具体的内容についてお話を聞き、意見交換を行った。米国では、看護学部卒業後にDNP(Doctoral Education for Advanced Nursing Practice)のコースに進学する。DNPプログラムは3年間で90単位の学習を行い、1年目はDNPに必要とされる8要素(American Association of Colleges of Nursing 指定)を学び(30単位)、2年目はAPRNのコアとなる科目である「上級レベルのヘルスアセスメント/フィジカルアセスメント(Advanced Health/Physical Assessment)」

「上級レベルの生理学/病態生理学(Advanced Physiology/Pathophysiology)」「上級レベルの薬理学(Advanced Pharmacology)」を学ぶ(10 単位)。3 年目は各専門を深める学習(18~22 単位)と対象者への直接的なケアを行う実習 500 時間を行い、最後に「DNP プロジェクト」と呼ばれる臨地での看護ケア改善に向けて現場と協働して取り組む活動を行う(10 単位)。これら 90 単位の教育課程をどのように具体的に展開していくかを示した「各看護分野の改訂版カリキュラム予定表(grid)」を基に質疑応答し、米国の高度実践看護の教育について理解を深めた。

## 12. いしかわシティカレッジ

---

シティカレッジは石川県の20の高等教育機関（大学、短期大学、高等専門学校）で構成されている大学コンソーシアム石川を母体とした活動事業である。各大学から授業科目が提供され、単位互換制度を本学学生も活用することができる。主にシティカレッジ運営は教務学生専門部会が行っている。全体をみると受講者は年々増加の傾向にあり、本学学生も「課題演習（地域と災害）」の授業科目を中心に28名の受講があった。平成24年度シティカレッジの本学の担当は以下の通りであった。

### ① 前期

科目名：皮膚と排泄のケア

担当：北山 幸枝 准教授

開講期間：平成24年6月15日～8月3日

開講時間：金曜日 15時30分～17時00分

受講者：2名

内容：医療水準の向上から、日本では国民に長い寿命をもたらしたが、医療の高度・複雑化、急速な高齢化により、さまざまな疾病を抱えながら暮らす人々が増えている。それらの人々は、さまざまな皮膚（スキン）トラブル、創傷（キズ）や失禁など、生活していること自体が原因となる症状を有するリスクが高くなりつつある。

そのような問題点について、原因や予防・早期発見のしかた、対策などについてわかりやすく解説を行った。医療職、専門以外の受講生であっても可能なアセスメントのしかた（判断のしかたや見きわめ方）、実践できることなどについて学習、論議、演習を行った。

### ②後期

科目名：生と死の倫理学

担当：浅見 洋 教授

開講期間：平成24年10月3日～11月14日

開講時間：水曜日 17時30分～19時00分

受講者：5名

内容：第1回 生の始まりと関わる倫理問題1（生殖技術）  
第2回 生の始まりと関わる倫理問題2（人工妊娠中絶）  
第3回 生の始まりと関わる倫理問題3（遺伝子技術と優生学）  
第4回 生の終わりと関わる倫理問題1（移植医療と死の概念）  
第5回 生の終わりと関わる倫理問題2（安楽死）  
第6回 生の終わりと関わる倫理問題3（ターミナルケア）  
第7回 別れの手紙を書く（演習）  
第8回 総括

## 13. 地域連携活動

### 13.1 来人喜人里創り創成プロジェクト

#### 1. 事業名

平成 24 年度石川県地域連携促進事業「来人喜人里創り創成プロジェクト」

#### 2. 実施団体名

石川県立看護大学（代表者：浅見洋） 連携団体：能登町（健康福祉課）

#### 3. 助成金額

2,415,000 円

#### 4. 事業目的

能登町住民の健康な生活を創造するために、本プロジェクトでは看護大学の学生と教職員が教育研究活動として、これまで自治体、住民が主体的に取り組んできた健康と地域共同体の絆に関わるさまざまな社会的文化的な活動に協力、参加、協働し、交流人口を拡大すると同時に、健康づくり運動と健康キャンペーン活動を展開する。特に、健診受診率向上活動を支援し、住民の健康意識の向上を図ることを目的とする。

#### 5. 活動内容

5月15日 能登町にて来人喜人健康教室を開催。講演会「食と健康」

7月11日12日 能登町地域の集いにて健康教室「能登町音頭エクササイズ」を考案し発表する。

9月23日 「第26回猿鬼歩こう走ろう健康大会」に参加。健康キャンペーン実施。

・看護大学の参加者60名、健康チェック、健康づくりゲーム

9月14日 来人喜人健康教室「SATにて食事診断」地元住民対象に開催。

10月27日～28日 石川県立看護大学学園祭にて「能登町健康特産品クライネメッセ」の開催。

（マルガージェラード、能登高校地域創造クラブ、柳田食産、シャルベルベ参加）

11月23日～ 健康食創り事業として住民の健康づくり、健診率向上等を目的とした健康調査・地域診断の実施。23日住民説明会後希望者に調査中。

1月～ 健康食創り事業としてキトキト「まい弁」レシピコンテストのレシピ募集。

・応募件数28件（うち一次審査通過10件）

3月3日 キトキト「まい弁」レシピコンテスト&事業報告会開催。

・場所：能登町役場（宇出津） 参加人数：約70名（看護大学関係者：約30名）

・講演会 「里海からの贈り物ー能登の発酵食品と乳酸菌ー」

久田孝（東京海洋大学海洋科学部食品生産学科准教授）

・レシピコンテスト審査員

（持本能登町長（審査員長）・石垣看護大学長・榎本県立大学教授）

・最優秀賞：藤本貴子さん（のっとりん弁当）

・優秀賞：山本洋子さん（のとべん）、角友利香さん（父の日に愛をこめて）

・出店（県立大学いしるサークル、能登高校地域創造クラブ）

・キトキト事業報告

「食アンケートから見えてきたこと」（能登町健康福祉課 河崎 恭子）

「食事調査&健康調査結果報告」(長谷川教授)

「能登町音頭エクササイズの効用」(花岡美智子 元看護大教授)

## 13.2 棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり

### 概要:

地域の保健や福祉の中核に担う看護職者を育成するため、今年のゼミ活動は高齢化・過疎化に悩む中山間地域の健康づくりを通じた活性化策に挑戦した。棚田の景観と住民の優しさを活かして人のにぎわいを創出するため、看護大生は民泊や収穫祭を住民と協働して企画・開催した。一方では、健診の活動を通じて住民の健康意識の啓発に努めた。このような世代間交流は、高齢農家のやる気と学生の責任感を育んだ結果、地域では健康に関連した生業を創出するための「棚田オーナー制度」を計画している。

### 外部報告:

取組の概要報告会(北陸農政局主催)、A評価

### 外部資金:

食と地域の交流促進対策交付金(農林水産省)

## 13.3 コミュニティ形成を通じた道の駅活性化

### —健康菓子・弁当の創出を基盤に—

### 概要:

来春無料化の能登海浜道路を活用して道の駅を活性化したい地域のニーズに対して、「健康のコミュニティデザイン」を研究する私たちゼミは地域団体と協働して「安心・安全・健康」の付加価値ある特産品の創出を目指した。道の駅と関係する農家・加工業者・JA・商工会・大学による食のコミュニティを形成した結果、健康の菓子・弁当の創作とともに試験販売を行った。今後の課題は、販路の拡大に向けた役割分担の明確化であった。

### 外部報告:

大学・地域連携アクティブフォーラム(大学コンソーシアム石川主催)、畠山賞最優秀地域課題ゼミナール

### 外部資金:

平成24年度地域課題研究ゼミナール支援事業(大学コンソーシアム石川)

## 13.4 世代間交流による「健康なまち」創造の軌跡

### —健康は一人じゃなく、みんなで創るもの—

### 概要:

病気の予防に貢献できる看護職者を育成するため、働き盛りの運動不足の解消や健康意欲の増進等の「疾病予防と健康づくり」の社会的課題に対し、解決を図る試行錯誤を通じて隠れているリスクを発見する能力の育成をねらったゼミ活動。「世代や職種の異なる人のつながり」という地



域資源を活かし、経験を基盤に住民への健康教育に挑戦した。その結果、個人の健康をコミュニティで支える意義や仕組みの難しさに気づいた。自分で考えさせてから失敗させることは「振り返り」の文化を生み、学生の自立を促すとともにチームワークを強固にした。

外部報告：

「社会人基礎力育成グランプリ 2013」中部地区予選大会（日本経済新聞社主催）、優秀賞

「社会人基礎力育成グランプリ 2013」決勝大会（日本経済新聞社主催）、社会人基礎力準大賞

石川県民間非営利団体活動支援事業成果報告会（石川県県民文化局県民交流課主催）

外部資金：

平成 24 年度石川県民間非営利団体活動支援事業地域連携促進事業（石川県県民文化局県民交流課）

## 編集後記

石川県立看護大学の平成24年度年報をお届けいたします。平成24年度で本学は創立13年目となり、本学創立とともに歩んできた年報も第13巻となりました。

平成24年度は、公立大学法人となった2年度目になります。法人本部に対して策定した中期計画の実施とその中間評価・年度末評価を受けました。さらに、平成24年度に大学基準協会の審査を受け、2013年3月6日付で同協会が定める大学評価基準を満たしていると認定されました。認証評価の詳細は本学のホームページにも掲載されています。このように、様々な評価を受けながら、公立大学法人として、これまで以上にその責務を果たすための本格的な体制を整える重要な1年となりました。大学年報の作成は、本学の客観的な実績を学内外に公表するための貴重な機会となっています。

平成24年度の特徴として、以前にも増してより積極的に地域貢献に力を注いだことが挙げられます。平成22年には開学10周年を機に、本学が所在する石川県かほく市と本学との間に包括的連携協定が締結されました。このような状況を踏まえて、昨年の年報から新たに、「8.5 かほく市との包括的連携」、「13. 地域連携活動」を項目立てしました。地域貢献の具体的な内容は本文をお読みいただければと思います。国際交流としては、ワシントン大学との交流、夏期アメリカ看護研修、JICAの日系研修とベトナム青年研修、などを行いました。

他にも、様々な学事や教職員の活動を報告しております。年報を執筆することで、教職員は各々の立場で本年度の活動を振りかえり、自己評価し、次年度に向けてさらなる精進を目指す良い機会となります。

本誌の編集にあたり各委員会、附属地域ケア総合センター、図書館の皆様から多大なご協力を頂きましたことにお礼を申し上げます。実質的な作業を担った米田昌代委員、田村幸恵委員、山崎正志委員の労をねぎらいたいと思います。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

2013年8月吉日 自己点検評価委員会 自己点検評価・年報部会長 大木秀一

	平成 24 年 4 月からの「社会福祉及び介護福祉士法」（昭和 62 年法律第 30 号）の一部改正により、介護福祉士及び一定の研修を受けた介護職員らが、医療や看護の連携による安全確保が図られている等の一定の条件の下で『たんの吸引等』の医行為が実施できるようになった。本研究は、たんの吸引等の医行為が事後的違法阻却から制度化されたことにより、在宅で福祉サービスに従事する介護職員らの医行為の取り組みや認識を明らかにし、支援に繋げてゆくことを目的としている。	
3	能登地区の精神障がい者の地域移行・定着支援の現状と課題に関する研究～人口過疎地における精神障がい者の地域生活支援システムの開発に向けての基礎的研究～	谷本 千恵 了恵、Noel・J・Chrisman、川村 みどり、相川 竜子、大江 真吾
	能登地区における精神障がい者の地域生活支援の現状とニーズを把握し、今後の人口過疎地における精神障がい者の地域生活支援システムを検討する上での基礎資料を得ることを目的とする。既存の資料の分析による地区診断、当事者や家族へのインタビュー、医療機関等に対する調査等を実施する。	
4	石川県下の看護師の離職・再就業の動向とその背景要因	丸岡直子 石垣和子、川島和代、田甫久美子、田村幸恵松本昌子、和田出静子、吉野幸枝、浅見美千江、元尾サチ、池野二三子、中田恵子
	石川県において地域性の異なる立地性や、大病院、中小病院、診療所、訪問看護ステーション、老人保健施設などに再就業した看護師を対象に、面接調査及び質問紙調査から看護師のライフコースを通じた離職及び再就業の背景要因を明らかにする。さらに医療福祉施設等の看護職員募集情報どのように再就業につながっているのかを明らかにすることを目的とする。この結果から、石川県内の看護師がライフコースに沿って高い自己効力感をもって就業するための、交流・循環型の看護職者の定着・確保に向けた提言に結びつける。	

JICA 北陸による研修委託を受け、以下を行った。

- ① 日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成コース」  
7月17日～8月13日の日程で、研修員4名（パラグアイ3名・ブラジル1名）を本学および羽咋市社会福祉協議会が受け入れた。本年は、6年目の受け入れであった。
- ② 青年研修「母子保健実施管理コース」  
本年度初めて、10月25日～11月6日の日程で、ベトナムから13名の研修員を受け入れた。

## 8.5 かほく市との包括的連携

平成22年10月に、かほく市と締結した包括的連携に関する協定に基づき、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域づくりに寄与するため、保健及び福祉の向上などを目的に事業を展開した。

平成24年度 石川県立看護大学年報 第13巻  
2013年10月10日 発行

編集：石川県立看護大学 FD/自己点検・評価委員会  
年報・自己点検評価専門部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学  
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地  
tel.076-281-8300 fax.076-281-8319

印刷：株式会社ハクイ印刷  
〒925-0053 石川県羽咋市南中央町ユ83-51  
tel.0767-22-1243 fax.0767-22-6161

「著作権は石川県公立大学法人に属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)